

2011 年度インターゼミ〔社会工学研究会〕

## 東北グローバル・イノベーション

水産業の将来像から見た、被災地に財・サービスが集まる仕組みの提案

〈指導教官〉

久恒啓一 教授

長田貴仁 客員教授

木村知義 客員教授

提出日 2011 年 12 月 24 日

〈執筆メンバー〉

震災と日本再生チーム

経営情報学部

小沼 俊

田中 優希

梅田 裕介

グローバルスタディーズ学部

中村 梨乃

大学院 経営情報学研究科

平木まこと

清滝 昌宏

新部 均

目次	
序章 はじめに	3
第1章 研究の背景・動機	5
第1節 甚大な被害の東日本大震災	5
第2節 宮城県の水産業の被害状況	9
第2章 現状と問題点	12
第1節 東北地域の産業構造の推移	12
第2節 復興増税の動きについて	13
第3節 原発停止による光熱費高騰	15
第4節 東北地域の水産業の実情、問題点	16
第5節 漁業権について	19
第1項 定置漁業権	20
第2項 区画漁業権	20
第3項 共同漁業権	21
第4項 漁業権の権利主体	21
第3章 漁業に関する事例研究	22
第1節 地元漁業法人事例	22
第2節 水産業復興特区の概要	26
第3節 漁業法人として国内最大の「マルハニチロ」の事業概要	26
第4節 水産食品におけるブランド化の研究	27
第4章 漁業復興対策の提案	29
第1節 国民“志”ファンド	29
第2節 水産事業会社の可能性	30
第1項 現状	30
第2項 水産事業会社	32

第3項 成長戦略.....	34
第4項 観光産業.....	39
第3節 技術を生かした水産加工事業の可能性.....	41
第1項 漁獲・近海物.....	41
第2項 養殖、牡蠣、あわび、わかめ.....	42
第3項 加工 缶詰、レトルト.....	43
第4項 製造 サプリメント.....	43
第4節 東北マリン高等専門学校（仮称）設立案.....	45
第1項 高等専門学校の意義および必要性.....	45
第2項 高等専門学校の概要.....	49
第3項 教育課程の編成と特色.....	54
第4項 他大学や民間企業との連携.....	56
第5項 問題点、課題.....	57
第5節 観光と水産業のリンク.....	58
第5章 まとめ・今後の課題.....	65
参考資料.....	68
参考文献.....	74

## 序章 はじめに

### 1. 研究の背景

2011年3月11日に発生した東日本大震災において、国家規模の未曾有の非常事態に直面し、第一に生活基盤の復興、次に地域雇用の定着安定を図る施策が必須である。

しかし、産業面を見ると、長期停滞による東北圏外への移転、厳しい円高による競争力の低下による空洞化の加速が懸念され、特に高齢化が進み若者が東北に定着しない水産業を中心とした復興、再生、創生が求められている。長期的な視野に立脚し、官民の英知を集めることが求められる。

東北地方の沿岸部は、潮流が交わる世界の3大漁場という恵まれた水産資源に立地しており、一方、世界的な視野で見ると、今後の人口増加と共に拡大する食文化という機会、更に輸入に依存していた体制からの脱却を図る、自給率の向上という前向きな条件も揃っている。

震災復興を機に単なる復興に留まらず、上述の条件と資源を最大限発揮し、将来に向けて持続可能で、成長する提案を述べ検証していく。

### 2. 研究の目的

世界が注目している日本の復興と創生について、特に東アジア諸国のリーダーとしての範を示し、世界の中での日本のポジションと役割を示す一助としての提案を行う。

学生ならではの独自の視点、経験豊富な社会人大学院生の混成チームの特色を発揮し、実社会のニーズに合わせ、将来に向けた発展性と継続性があり、実現性の高く有効な方策を提案、提言する。

### 3. 研究の方法

本研究では、現地でのフィールドワークにて、インタビューでの生の声や事実に基づいた現実を直視し、時間の許す限り体感、体得する。

そこから浮かび上がった、問題点やこれまでの経緯、将来像を整理、分析及び調査する。

並行して過去の災害での類似対策事例、先行研究の文献調査を実施し、対比、比較しながら立体的に時間的感覚を構想し、対策案の方向性を探る。

分析結果に基づき、将来像を見据えた提案をグループ内で討議し、新たな次元の復興と創生について考える。

#### 4. 論文の構成

まず、第1章では、本研究の範囲を明確化し、東日本大震災における宮城県の水産業の現状から研究の取り組みに至った動機と背景について説明する。

第2章では、東北地域の現状と問題点について産業構造の変化、税金問題及び光熱費の高騰、更に産業面では、鉱工業の空洞化及び水産業の窮状について調査する。

第3章では、特に水産業を中心とした先行事例の調査をし、本研究に有益な事例を発掘する。

第4章では、第1章、第2章で提起した問題の解決を図るために、具体的な対策・提言を記し、その有効性、実現性の評価を試み、本研究の結論へと導く。

第5章では、本研究の結論、総括と今後の課題を述べる。

## 第1章 研究の背景・動機

### 第1節 甚大な被害の東日本大震災

#### ① 概要

東日本大震災は、2011年（平成23年）3月11日（金）に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、及びその後の余震により引き起こされた大規模地震災害である。

2011年3月11日14時46分18秒（日本時間）宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源として発生した東北地方太平洋沖地震は、日本における観測史上最大の規模、マグニチュード9.0を記録し、震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。この地震により、場所によっては波高10m以上、最大遡上高40.5mにも上る大津波が発生し、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。

#### 東日本大震災概要（出典：気象庁）

- (1) 発生日時 2011年3月11日（金）14時46分
- (2) 震源および規模（推定）  
三陸沖（北緯38.1度、統計142.9度、牡鹿半島の東南東130km付近）  
深さ24km、モーメントマグニチュードMw9.0
- (3) 各地の震度（震度6弱以上）  
震度7 宮城県北部  
震度6強 宮城県南部、中部、福島県中通り・浜通り、茨城県北部・南部、栃木県北部・南部  
震度6弱 岩手県沿岸南部・内陸北部・内陸南部・福島県会津、群馬県南部、埼玉県南部、千葉県北西部
- (4) 津波  
3月11日14時49分津波警報（大津波）を発表  
津波観測値（検潮所）
  - ・えりも町庶野 最大波 15:44 3.5m
  - ・宮古 最大波 15:26 8.5m以上
  - ・大船渡 最大波 15:18 8.0m以上
  - ・釜石 最大波 15:21 4.2m以上
  - ・石巻市鮎川 最大波 15:26 8.6m以上
  - ・相馬 最大波 15:51 9.3m以上
  - ・大洗 最大波 16:52 4.0m

## ② 被害の全体概要

2011年10月末時点で、震災による死者・行方不明者は約2万人、建築物は全壊12万戸、半壊18万戸、漁船2万2,000隻、漁港300、農地2万3,600ha、被害額の政府試算は16兆円から25兆円と、阪神・淡路大震災9.9兆円を大きく超える被害をもたらしている。

表1 被害額推計の比較について（出典：内閣府 平成23年6月24日）

H23. 6. 24

### （参考）被害額推計の比較について

	東日本大震災 (内閣府 (防災担当))	東日本大震災 (内閣府 (経済財政分析担当))		阪神・淡路大震災 (国土庁)
		ケース1	ケース2	
建築物等 (住宅・宅地、店舗・ 事務所・工場、機械等)	約10兆4千億円	約11兆円 (建築物の損壊率の想定 津波被災地域： 阪神の2倍程度 非津波被災地域： 阪神と同程度)	約20兆円 (建築物の損壊率の想定 津波被災地域： ケース1より特に大きい 非津波被災地域： 阪神と同程度)	約6兆3千億円
ライフライン施設 (水道、ガス、電気、 通信・放送施設)	約1兆3千億円	約1兆円	約1兆円	約6千億円
社会基盤施設 (河川、道路、港湾、 下水道、空港等)	約2兆2千億円	約2兆円	約2兆円	約2兆2千億円
その他	農林水産	約1兆9千億円	約2兆円	約5千億円
	その他	約1兆1千億円		
総計	約16兆9千億円	約16兆円	約25兆円	約9兆6千億円

注：ストックの区分は内閣府（防災担当）の推計で用いたものによるものであり、推計により若干異なる。

## ③ 産業ごとの被害状況

### 1. 農業

東日本大震災による農業への被害額は約8,400億円となっており、農地の損壊と農業用施設が大半を占める。また、津波により流失・冠水した農地面積は2万3,600haと推計されている。冠水した農地を利用可能な状態にする為には、土砂やがれきの

撤去、真水を流して塩分を除去する作業が必要となり、この作業のみでも3年を要すると言われている。（添付資料1参照方）

## 2. 水産業

東日本大震災による水産業への被害額は約8,200億円となっており、漁港や市場といった社会インフラと漁船や養殖施設といった民間資産の双方で大きな被害をもたらしている。特に宮城県、岩手県に被害が大きく、被害の約7割が集中している。

（添付資料2, 3参照方）

## 3. 鉱工業

自動車部品メーカー、半導体・電子部品メーカー、素形材、非鉄金属、化学、セメントの工場が被災し、多くの業種で被害が出ている。鉱工業生産指数の推移を見ると、2011年2月が97.5に対して、3月では64.7と35%と大幅の低下となっている。内訳を見ると鉄鋼業がマイナス66%、パルプ・紙・加工品工業がマイナス60%、化学工業、輸送機械工業がマイナス40%超と大きな被害が出ている。鉱工業生産指数は8月時点で87.6まで回復しており、主要業種の大部分は震災以前の水準に戻っている。しかし、沿岸部の主要生産設備が甚大な被害を受けた鉄鋼業は2月時点の7割程度、パルプ・紙・加工品工業は5割程度と回復が遅れている。

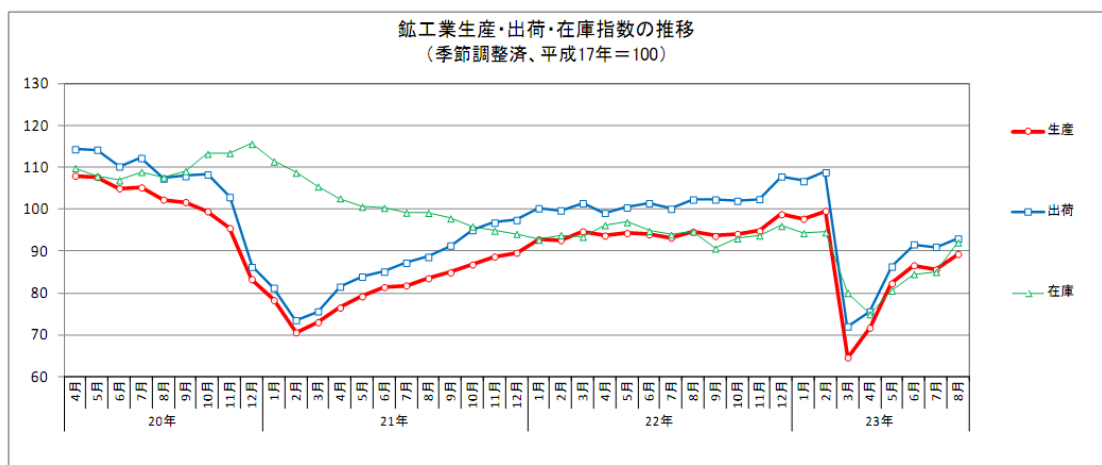


図1 鉱工業生産・出荷・在庫指数の推移（東北経済産業局 平成23年10月）



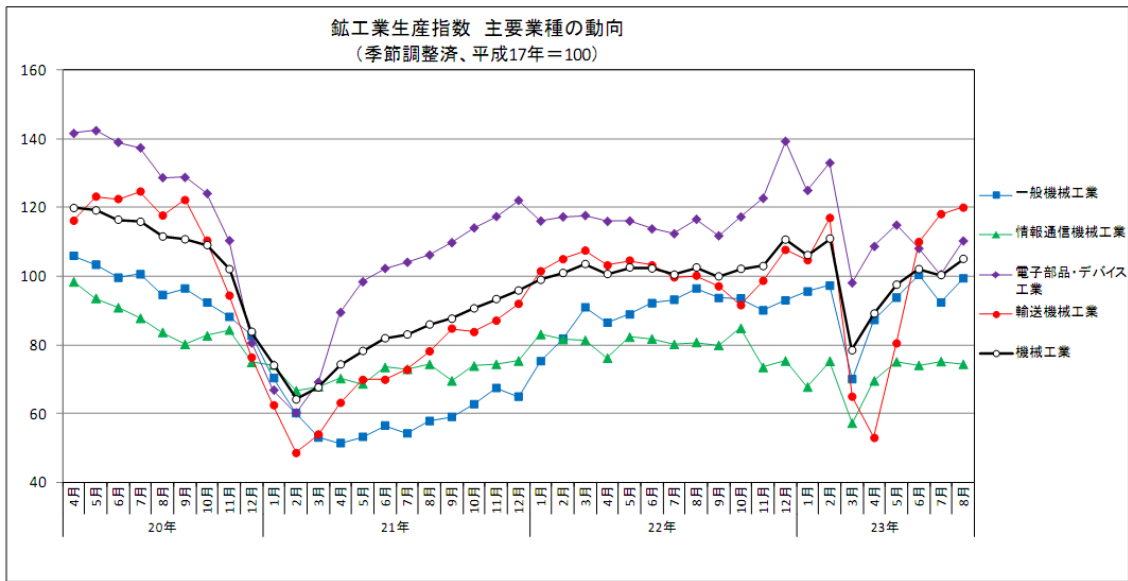


図 2 鋁工業生産指数 主要業種の動向（東北経済産業局 平成 23 年 10 月）

#### 4. その他

流通業・サービス業、社会インフラにも、震災の被害は及んでいる。特に原子力発電所の事故は数十年単位の対応が必要となり、その影響は計り知れない。

## 第2節 宮城県の水産業の被害状況

本論文では宮城県の水産業を中心に考察を進める。水産業の被害額（農林水産省2011年11月現在12,493億円）は東北漁業生産額（2008年2,104億円）の6年分に相当する。農業や鉱工業と比較して漁業はより深刻な状況となっている。特に宮城県では登録漁船数13,570隻の内、12,023隻が被災しており、養殖関係の被害額は、生産額の140%である。岩手県、福島県も大きな被害を受けているが、宮城県の被害は抜きん出ている。

本節では、宮城県の特徴について述べる。

### ① 世界三大漁場を有する宮城県の水産業

宮城県は世界三大漁場である三陸沖漁場に近く、気仙沼漁港、石巻漁港、塩釜漁港の特定第3種漁港を初め142の漁港が存在し、北海道に次いで全国2位の水揚げ量を誇る。また、カキ・ホタテ・ホヤ・海苔などの養殖も盛んに行われている。

#### (4) 海面漁業都道府県別主要魚種別漁獲量

都道府県	計	魚						かじき類
		魚類計	まぐろ類計	くる・みなみ	びんなが	めばち	きはだ	
全 国 1	43 675	33 585	2 169	221	502	658	773	185
北 海 道 2	13 133	7 990	31	x	8	6	13	6
青 森 3	1 514	698	27	14	5	4	4	3
岩 手 4	1 525	1 057	58	6	9	26	15	7
宮 城 5	2 642	2 260	262	19	38	102	103	46
秋 田 6	118	96	1	0	x	x	x	0
山 形 7	77	39	1	0	x	x	x	0
福 島 8	1 007	941	57	1	8	29	19	5
茨 城 9	1 910	1 849	12	0	7	2	3	x
千 葉 10	1 736	1 673	8	x	3	1	x	2

図3 地域別主要魚種別漁獲量（平成21年 農林水産省）

水産加工業としても全国2位に位置しており、かまぼこ・塩辛といった名産品も多い。

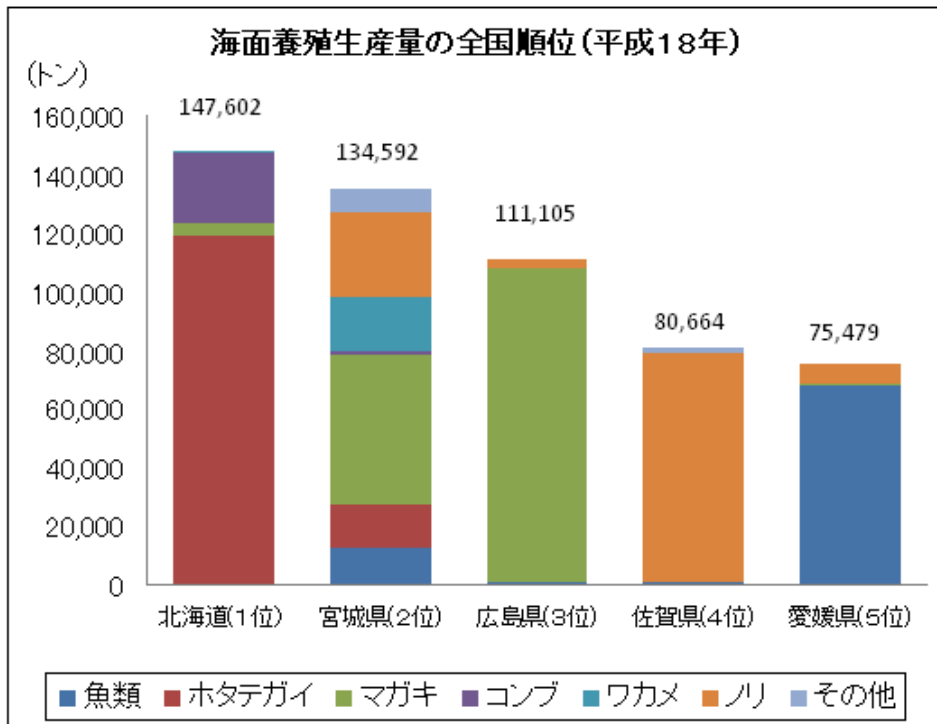


図 4 養殖生産量の全国順位 (宮城県)

以上の事から示されている通り、宮城県は日本有数の水産資源を保有している。

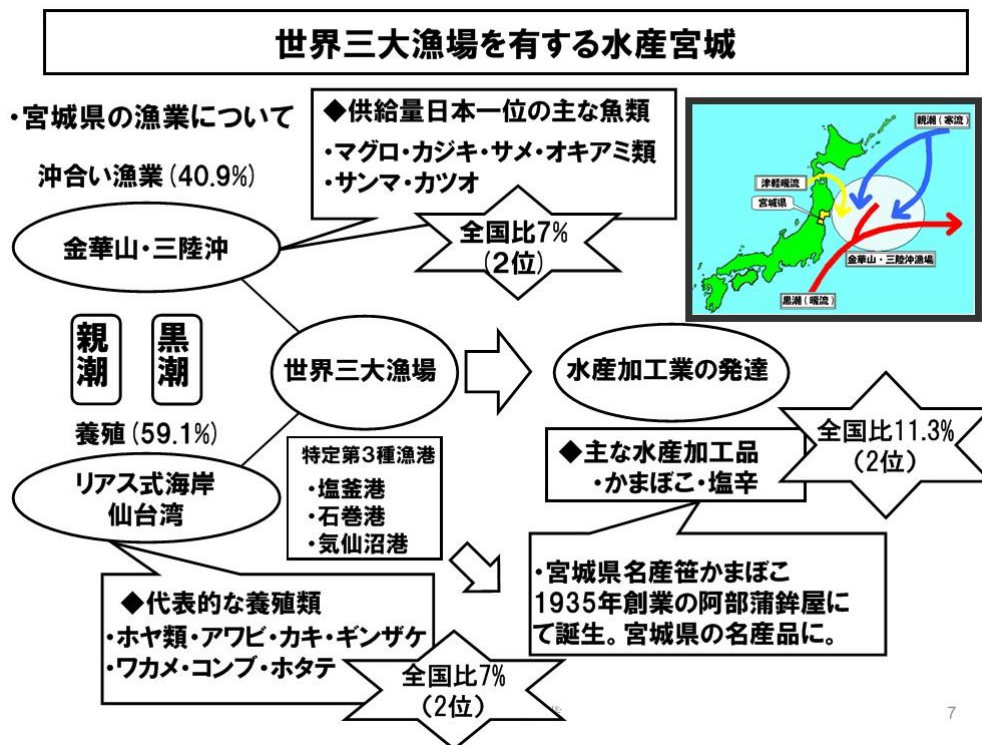


図 5 宮城県と世界三大漁場

## ② 宮城県の産業と復興方針

下図は宮城県の産業と、宮城県がまとめた2011年6月の復興方針を記載している。

第一次産業は生産額としては県全体の2.2%と小さな数字となっているが、第二次産業に含まれる水産加工品、それらに関わる第三次産業を考慮すると、決して小さくない数字である。また、人口割合は第一次産業6.2%、第二次産業23.5%、第三次産業70.2%となる。詳しくは第2章で述べるが、年収200万未満が多い第一次産業の現状も、この数字から読み取れる。

宮城県を震災前に復旧するのではなく、現在の宮城県の水産業が抱えている課題を整理し、それを解決する再構築を考案することが、本論文の趣旨となる。

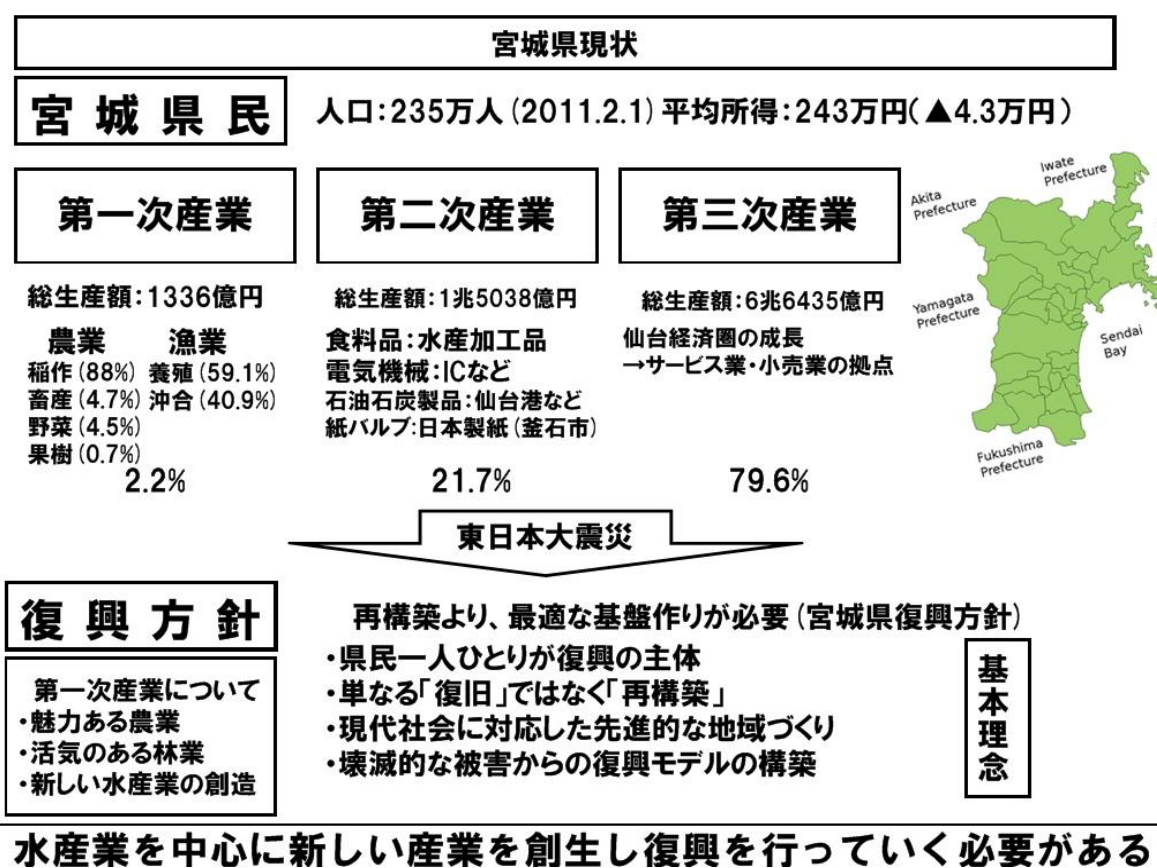


図 6 宮城県の産業別の現状

## 第2章 現状と問題点

2011年3月の東日本大震災の影響を受け、東北の沿岸地区は産業面及び生活面、とりわけ水産業は大きな被害となり、震災前の状態に戻すことも進まない状況である。

過疎化に伴う人口減少問題について、震災20日前の2月21日、国土交通省は「国土の長期展望」の中間取りまとめを公表した。そこには、東北6県に新潟県を含めた東北圏の人口が2010年の1,168万から、2050年には727万人になるという推計があった。加えて、65歳以上の人口、つまり高齢化率は2010年の25.9%から2050年には44.6%と2倍近くに上昇すると推定している。

40年間で人口が440万人も減り、人口の半分近くを高齢者が占めるようになるという。これは震災前の予測である。震災が過疎化と高齢化を一段と加速させる懸念がある。<sup>1</sup>

一方、産業面では、円高、放射能による風評被害、新たなTPP問題、海外移転による産業空洞化など、東北地方の産業全般に新たな打撃を与えている。

### 第1節 東北地域の産業構造の推移

被災した東北地域3県の産業構造を「県民経済計算(2008年内閣府)の県民総生産額で見ると、農林水産業の割合が2.6%と、全国平均の1.2%を大きく上回っている。一方で、製造業が占める割合は、20.6%であり、全国平均とほぼ同程度である。

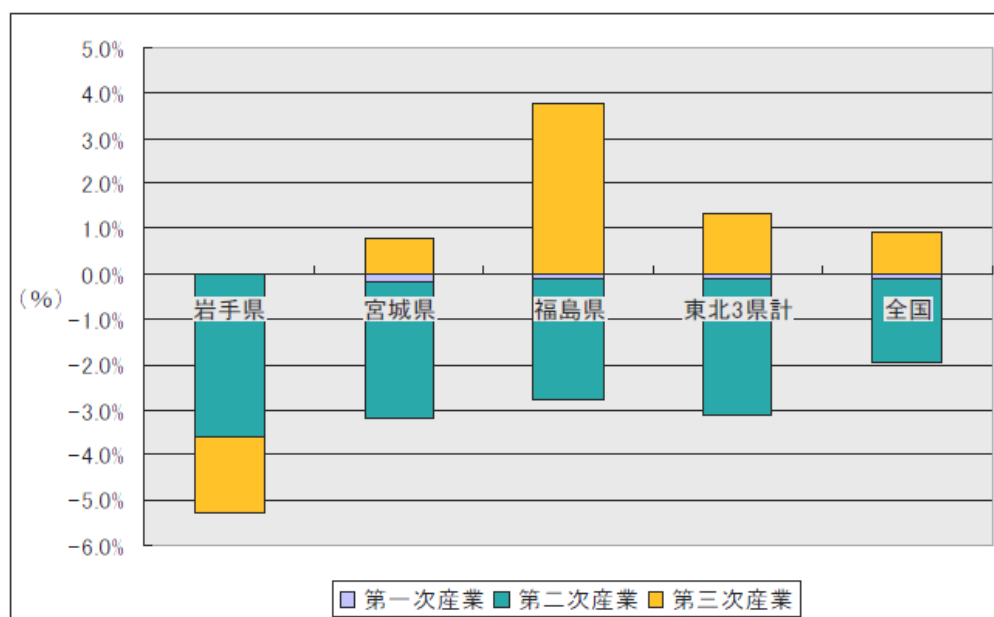


図7 東北3県の総生産成長に関する産業別寄与度(2003年～2008年)

2008年の東北地域3県の県内総生産は、2003年からの5年間に1.8%減少したが、こ

<sup>1</sup> 寺島実郎(2011)「環境経済の核心」<http://eco.nikkeibp.co.jp/em/column/terashima/index.shtml>  
(参照日:2011年12月23日)

これは全国の 1.1%減少を上回っている。県内総生産の成長寄与度を産業別に見ると、第二次産業の減少の影響度が大きいことがわかる。成長の寄与度が大きかったのは第三次産業で、特に福島県の原子力発電所が地域経済を牽引していたことが伺える。

東北地域は 1980 年代以降、工場誘致によって経済発展を遂げてきたと言われているが、今日、この製造業の低迷が地域経済の停滞要因と見てとれる。

## 第 2 節 復興増税の動きについて

民主、自民、公明 3 党が 2011 年 11 月 10 日、東日本大震災の復興策の財源とする総額 10.5 兆円の臨時増税で合意したことで、震災復興はようやく資金の手当てに目処が付いたと報じられた。

しかし、政府・与党は年末に向け、社会保障費を賄うための消費税率引き上げの具体化を検討するが、さらなる負担増に反発が強まることも予想される。

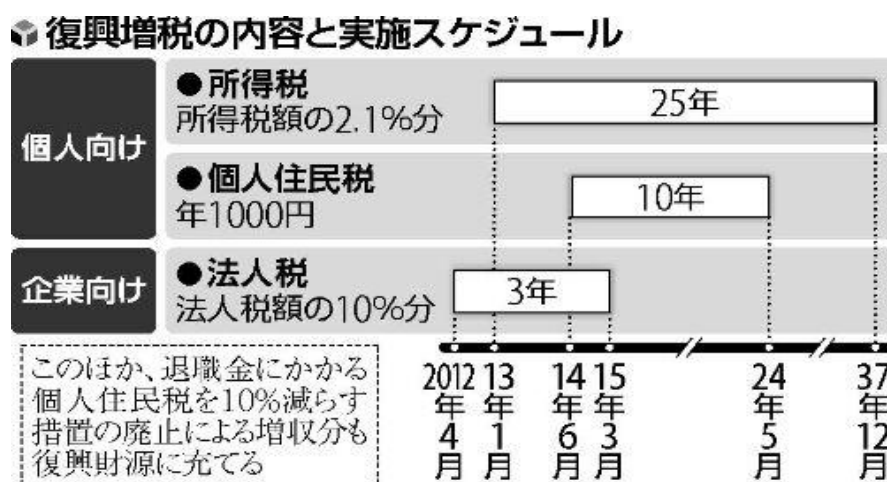


図 8 復興増税の日程

民主党税制調査会の藤井裕久会長（元財務相）は、同日の 3 党税調会長による協議の後、「大震災の復興の全体像が崩れてはいけない。それを崩さないという前提でやってくれたので、（自民、公明）両党に感謝している」と強調した。

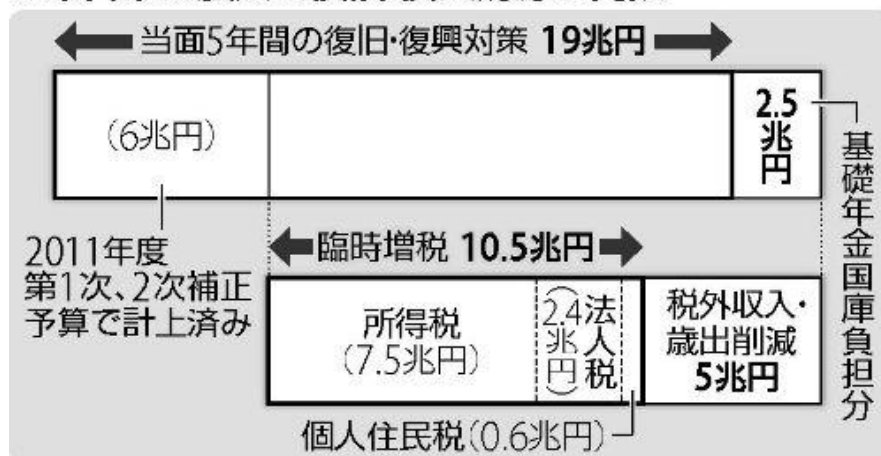
政府は今後 5 年間に必要な復旧・復興費用を 13 兆円と見込む。2011 年度当初予算から 2011 年度第一次補正予算に流用した基礎年金国庫負担分の 2.5 兆円と合わせ、計 15.5 兆円が必要になり、その大半を復興債の発行で調達する。

復興債を償還するための財源として、政府保有株の売却などによる税外収入や歳出削減で当面、5 兆円を確保。残りの 10.5 兆円を臨時増税で償還する。政府は今後 10 年間で税外収入などを 7 兆円に増額し、臨時増税の額を 8.5 兆円に減らしたい考えだ。

ただ、この日の 3 党協議では、政府・与党が税外収入として打ち出した日本たばこ産業

(JT)株の全株売却に対して、自民党が見直しを求め、3党で引き続き協議することになった。

### 東日本大震災の復旧・復興財源の内訳



- ※10年間で必要となる復旧・復興費は23兆円
- ※政府・与党は「税外収入・歳出削減」を今後10年間で7兆円に増額し、その分臨時増税を削減する方針
- ※個人住民税は退職金に対する減税措置の廃止も含む

図 9 復興財源の内訳

政府・与党は、復興増税について、7月に決めた復興基本方針で「今を生きる世代全体で連帯し負担を分かち合う」との理念を掲げた。国が世界的に最悪水準の借金を抱える中で、子や孫の世代にこれ以上負担を先送りしないようにする狙いがあった。

財務省は当初、国民が広く薄く負担でき、税収も多いため増税期間も短くて済む消費税を増税して復興財源とする考えだった。しかし、政府内から「消費税は社会保障の財源に充てるため残しておくべきだ」との意見が強まり、代わりに所得税と法人税を軸に検討することになった。

ただ、所得税はサラリーマンが確実に源泉徴収されるのに対し、自営業者らは確定申告に頼っており、職業によって所得の把握度合いが異なる。法人税も赤字企業には課税されない。このため、『今を生きる世代全体』という理念に反する」（経済官庁幹部）との声もある。

復興債の償還期間は、政府・民主党が当初、10年間としたが、毎年の負担増を抑えたい自民党などの意向を受け、25年という長期間になった。これから生まれる子供も将来、増税分を支払うことになり、これも負担の先送りをしないという理念に反する。

政府・与党は高齢化で膨らむ社会保障費を賄うため、2015年度をめどに消費税率を10%に引き上げる方針がある。2011年内に具体的な引き上げ方針をまとめるため、2011年12

月から本格的な議論に入る。だが、今回、大規模な増税を決めたことや、環太平洋経済連携協定(TPP)への交渉参加を巡る混乱で野田政権に対する反発が強まる中、野田首相のリーダーシップが一段と問われることになる。<sup>2</sup>

### 第3節 原発停止による光熱費高騰

#### ① 電力コストの約2割上昇のリスク

我が国の電力供給量は年間約9,000億kWhである。その約3割は原子力発電所が担っている。原子力発電所の再起動がない場合には、火力発電所がこれに代替することとなり、その結果、燃料代の上昇を通じ、約2割の電力コスト上昇を招く可能性がある。

すなわち、現在、我が国の電力供給構造は、燃料コストが安い原子力発電所と石炭発電所が昼夜通して稼働し(ベース電源)、LNG火力と石油火力が主として昼間稼働(ミドル電源、ピーク電源)している。石炭火力は昼夜を問わずフル稼働しており、水力発電所は稼働の制御ができないので、原子力発電の稼働が低まれば、LNG火力か石油火力の稼働率を上げて対応することになる。一定の仮定を置いて試算した場合、仮に全ての原子力発電による発電量をLNG火力や石油火力で全て代替すれば、経済産業省から、燃料コストが年間約3兆円以上嵩む可能性があるという試算が示されている。<sup>3</sup>

我が国の年間の電気料金は約15兆円であり、3兆円をそのまま転嫁すれば、約2割の電気料金の引き上げになる。電力費用の高騰は、消費者の消費抑制や企業の収益悪化をもたらすのみならず、中期的に見れば企業の立地選択や雇用に大きな影響を与えかねない。

原子力発電所の再起動の問題に起因するこのコスト上昇問題に対していかに対処するかが、ピーク時の電力不足対策と並ぶ重要な政策課題となる。

#### ② 当面の電力料金変化

電力10社と都市ガス大手4社は2011年10月29日、2011年11月分の電気・ガス料金を発表した。算定基準となる6~8月分の原油価格が下落したため、北海道、北陸、四国、沖縄電力の4社は値下げする。値下げは東日本大震災後で初めて。北海道、四国電力の値下げは10ヶ月ぶり、北陸、沖縄電力は9ヶ月ぶりである。

<sup>2</sup> 読売新聞(2011年11月11日)「復興増税合意、基本方針の理念骨抜き」

<sup>3</sup> 経済産業省が、原子力発電所が2009年度並みに稼働した場合の発電電力量(約2800億kWh)を全てLNG火力と石油火力でカバーした場合の追加的な燃料コストを年間約3兆円超と試算。



表 2 2011 年度 11 月度電気・ガス料金

**■ 11月分の電気・ガス料金**

北海道電力	6499(▼20)	四国電力	6827(▼15)
東北電力	6669( 8)	九州電力	6544( 24)
東京電力	6892( 38)	沖縄電力	7810(▼36)
中部電力	6992( 66)	東京ガス	5445( 72)
北陸電力	6574(▼18)	東邦ガス	6423( 74)
関西電力	6724( 15)	大阪ガス	6021( 81)
中国電力	7196( 9)	西部ガス	5840( 51)

(家庭の平均月額料金。単位＝円。カッコ内は10月分からの変動幅。▼は値下げ)

一方、LNG（液化天然ガス）火力発電への依存度が高い東京、関西電力など6社と、ガス4社はLNG価格の上昇を反映して値上げする。

東電など5社の値上げは9ヶ月連続で、中部電力とガス3社は8ヶ月連続。西部ガスは2011年10月1日に値下げするが、2011年11月分は値上がりする。東電の2011年11月度家庭の平均月額額は6,892円で、値上がりが始まる前の2月と比べ658円高くなる。

財務省の貿易統計をもとに算出した6～8月平均のLNG輸入価格は1トンあたり6万4,746円で、5～7月平均より約5%上昇。一方6～8月平均の原油輸入価格は1キロ・リットルあたり5万7,240円で約3%下落した。2011年11月分の電気料金を下げる北電など3社はLNGを使っておらず、LNGを使っている四国電力も料金算定には含めていない。

その他の電力会社では、福島第一原発の事故後、LNG火力発電の稼働率を高めており、LNG需要が急増している。貿易統計によると、2011年8月のLNG輸入量は754万5,000トンで2011年7月より約18%増えた。LNG価格の上昇は、電力各社がスポット（小口取引）調達を増やしたことも一因だ。2011年9月下旬のアジア向けのLNGスポット価格は、100万BTU（英国式熱量単位）あたり17ドルとなり、2011年3月下旬の9ドルから2倍近くまで上昇している。<sup>4</sup>

#### 第4節 東北地域の水産業の実情、問題点

##### ① 高齢化

<sup>4</sup> 読売新聞（2011年9月30日） 「震災後初、電気料値下げ…北海道、北陸、四国、沖縄電力」

水産庁公式サイトによると、日本国内の漁業就業者数は、1953年（昭和28年）の約80万人を頂点に、以降は減少傾向が続き、2005年（平成17年）のそれは22.3万人にまで落ち込んでいる。また、漁業従事者の高齢化も進んでおり、男子就業者では全体の約3割が65歳以上、そして、25歳以下の若年就業者は全体の3%にとどまっている<sup>5</sup>。

## ② 低所得化、後継者問題

水産白書によると、日本の漁師の漁撈による年収の平均は296万円である<sup>6</sup>。漁業が生業である以上、漁師もまたそれなりの経済的合理性と、従事者各人（およびその被扶養者）が生活を続けてゆける程度以上の利潤を（長期的視点において）もたらすことは要請される。また、比較的大きな利潤を得られた（一部の）漁師の事例に惹かれて漁業を選択する者もいる。だが、陸上における生産生業とは異なり、漁業の場合、次のような諸点が経営リスクを高めている。

まず第1に、漁師は、豊漁・不漁による収益の不確実性にさらされている。移動性の高い魚類を漁撈対象とする場合や、回遊魚などを追いかける季節的漁業の場合に特にそのような不確実性は高いが、比較的経営が安定する養殖業の場合も、魚病の発生や、それを予防するための薬の投入によるリスク、漁場汚染の可能性などを考慮する必要がある。

第2に、漁船などの固定資産の投資比率が高いことが、漁師の漁業経営を圧迫する。経営規模の小さい沿岸漁業でよく使用されている5トン前後の高速小型イカ釣り漁船の場合、漁撈効率を高めるために集魚灯、超音響測深器、高性能魚群探知機、自動操縦装置などのハイテク漁業機器を装備すると、一隻3,500～4,000万円はかかる。そしてその償却に10年もかけられないため、高額のローンの返済に追われることになるという<sup>7</sup>。

第3に、漁業資源そのものの枯渇化があげられる。漁船の動力化や大型化、合成繊維網の開発など、漁業の近代化は漁獲量・漁撈効率を著しく向上させたが、その一方で、自然の再生産を上回るほどの乱獲が危惧されるようになって久しい。そうした傾向は、近年の日本以外の諸国における魚食ブームによって、さらに強められるのではと懸念されている。

## ③ 複雑な流通経路

漁業に従事する第一次産業者、また、農業に従事する第一次産業者は、自ら売り先を開拓するのは、困難であり、複雑な流通経路を経て、消費者の元に届けられる。

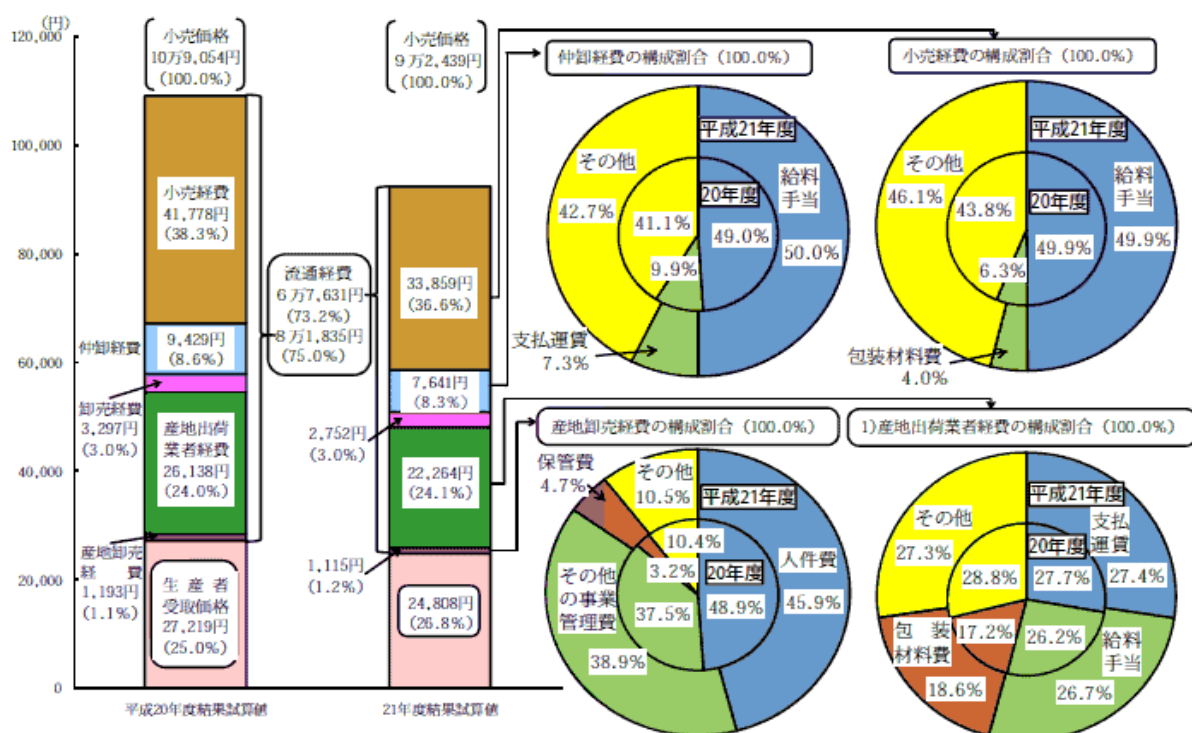
5 水産庁公式サイト内の「漁師になろう」<http://www.ryoushi.jp/>（参照日:2011年12月23日）

6 漁労による収入分である。このような金額であるので、前述のごとく農業も同時に営んだり、民宿や食堂なども平行的に経営するなどしている例も多い。

7 地域漁業学会編(1998年) <http://jrfs.org/>（参照日:2011年12月23日）

2008年、2009年度のデータからは、小売価格に対する、生産者の受け取り価格は、25～27%となっており、流通経費が73～75%<sup>8</sup>を占めている。流通経費には、産地卸売経費、産地出荷業者経費、卸売経費、中卸経費、小売経費など、5段階に及んでおり、特に、小売経費が、36～38%と一番大きな経費を占めている。これは、あくまで平均であるが、300円で出荷した魚が末端価格1万円というカラクリも、中間流通業者の采配で行われている現実がある。

この現状を打破するためには、生産者が、消費者へ直接販売する方式を構築する必要がある。IT技術、ロジスティクスが発達した昨今、双方が、Win Winを享受出来るよう、本研究にて検討したい。



本調査は、全国の産地卸売業者(51業者)、産地出荷業者(100業者)、仲卸業者(102業者)、小売業者(102業者)を対象に、水産物の流通段階別経費を調査し、価格形成の況を試算した結果である。

図 10 小売価格に占める各流通経費等の割合〔試算〕 (100kg 当たり)

<sup>8</sup> 農林水産省(2011年6月) 食品流通段階別価格形成調査(水産物経費調査)  
[http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/dankai\\_suisan\\_09/index.html](http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/dankai_suisan_09/index.html) (参照日:2011年12月23日)

## 第5節 漁業権について

水産資源に恵まれた、東北沿岸部の復興の軸に、将来に向け地元根ざした水産業の復興を検討する上で、漁業権を正しく理解する必要がある。

漁業権の概要、課題について、以下の通り述べる。

### 1) 漁業権の法的性格

漁業権は、漁業権の免許権者である都道府県知事から免許されることによって、一定範囲の漁業を独占排他的に営み、その利益を享受することができる。

ここで言う「排他性」は漁獲行為の排他性を指し、必ずしも水面そのものに対する排他性を指すものではない。また、漁業権を有していても具体的な漁法については別に許可を要する場合がある。

漁業権は、公法上の権利（免許）である。漁業権に関する申請、届出、許可、認可などは、漁業法が規定しており、また、処分に対する異議申立については、行政手続法や行政不服審査法、行政事件訴訟法の適用を受ける。

しかし、これら公法の適用は、私法の適用を当然には否定しないから、公法の規定に反しない限りにおいて、私法の適用が認められる。

例えば、漁業権の申請と許可の関係は、意思の合致という点において契約関係と解釈することが可能であり、漁業権は、漁業法などの公法の規定に反しない限りにおいて、行政機関に対する私法上の債権としての性質を持つとされている。

また、行政機関における公法上の権利に関する取り扱いは、公法の規定の範囲内において行政機関の裁量に任されているが、権利の取り扱いが行政機関の性質に照らして著しく不相当であるときは、行政訴訟において、公序良俗違反や信義則、権利濫用などの私法上の規定を理由とした制限が加えられることがある。

このように、公法上の権利を私法上の権利と同様に扱う考え方を「公法私法一元論」といい、判例及び学説においては、この考え方が有力である。公法上の権利は一般的性質として、行政機関に対する私法上の債権としての性質を有するものであるから、公法上の権利である漁業権についても、行政機関に対する私法上の債権としての性質が認められるのである。

このような公法上の権利の一般的性質とは別に、漁業法 23 条は、漁業権を民法上の物権とみなし、土地に関する規定を準用すると定めている。この規定は、行政機関が、漁業法に基づく公法上の処分を行うにあたり、私法上の物権に対する取り扱いに準じて行うことを定める規定である。（公法私法一元論とは異なり、純然たる公法上の規定である。）

漁業法 23 条は、「民法上の物権とみなす」としてはいるが、実際には、漁業権の譲渡は、例外的な移転を除いて禁止され（同法 26 条 1 項）、貸付は不能（同法 30 条）であり、抵当権の設定、使用方法に至るまで、漁業法は多くの制限を科しており、民法上の物権とみなしていると考えられる点は殆どない。

また、海面は、土地所有権の設定対象にはならず、用益物権は、土地所有権に基づく支配権の一部を譲渡した形態であるから、海面に設定することが可能な漁業権は用益物権ではない。

## 2) 漁業権の種類

漁業権漁業は、以下の 3 種に大別される（漁業法 6 条 2 項）。漁業権から派生する「入漁権」に基づく漁業も分類上含む。

### 第 1 項 定置漁業権

一定期間、一定場所に網その他の漁具を敷設・定置して漁業を営む権利（同法 6 条 3 項）で、以下の種類がある。身網が水深 27m 以上（沖縄県では 15m 以上）の大規模定置網漁業（例外として、瀬戸内海におけるマス網漁業、陸奥湾における落網漁業およびマス網漁業）北海道で主にさけを対象とする定置網漁業である。

上記以外の小型定置網漁業は第二種共同漁業権に分類される。免許期間は 5 年である。

### 第 2 項 区画漁業権

一定の区域内で水産動植物の養殖業を営む権利であり、以下の 3 種に分かれる（同法 6 条 4 項）。免許期間は 10 年である。

#### i. 第一種区画漁業

一定の水域内において石、かわら、竹、木等を敷設して営む養殖業。ひび、かき、真珠、真珠母貝、藻類、小割式の各養殖業がある。

#### ii. 第二種区画漁業

土、石、竹、木等によって囲まれた一定の水域において営む養殖業。魚類、えびの各養殖業がある。

#### iii. 第三種区画漁業

第一種及び第二種以外の養殖業。代表的なものとして貝類養殖業（地まき式を含む）がある。

以上のうち、ひび、藻類、真珠母貝、小割式、かき、貝類の 6 種については入漁権が設定可能であり、「特定区画漁業権」と総称される。

特定区画漁業権について免許期間は 5 年である。

### 第3項 共同漁業権

一定地区の漁民が一定の漁場を共同に利用して漁業を営む権利である。以下の5種に分かれる（同法6条5項）。免許期間は10年である。

#### i. 第一種共同漁業

藻類、貝類、伊勢えび、うに、なまこ、餌むし、たこ等、農林水産大臣が指定する定着性の水産動植物が対象である。

#### ii. 第二種共同漁業

網漁具を固定して来遊する浮魚をとる漁業である。小型定置網、固定式刺網、敷網、ふくろ待網の各漁業がある。定置漁業権に該当するものは含まない。

#### iii. 第三種共同漁業

地引き網、地こぎ網、船曳網、飼付、突磯の各漁業である。

#### iv. 第四種共同漁業

寄魚、鳥付こぎ釣の各漁業である。

#### vi. 第五種共同漁業

河川、湖沼等の内水面において営む漁業で第一種共同漁業に該当しないものである。あゆ漁業、こい漁業が代表的。内水面は海面と比較して資源が乏しいことから、遊漁規則に関する条項や増殖義務を課すなど、増殖および資源管理に対する指向は他の漁業権と性質を異にしている。

### 第4項 漁業権の権利主体

定置漁業権、区画漁業権については免許を受ける漁業者個人が権利主体となり、共同漁業権、特定区画漁業権については、免許を受ける漁業協同組合（漁協）あるいは漁業協同組合連合会（漁連）が権利主体となる。

### 第3章 漁業に関する事例研究

#### 第1節 地元漁業法人事例

##### ① 漁業復興に取り組む「OH ガッツ」

今回の被災地域において始動している漁業関連復興事例のひとつとして、雄勝町の「合同会社 OH ガッツ」<sup>9</sup>（以下、OH ガッツとする）がある。雄勝町は、宮城県北東部の牡鹿半島の北部、三陸海岸の南端に位置する。典型的なリアス式海岸に面していて雄勝湾に漁港を有しており、2005年4月に6つの市町の合併に参加して、現在は石巻市の一部となっている。震災前の人口は約4,300人であったが、震災後は約1,000人にまで減少し壊滅的な被害を被っている。漁業に関しては、牡蠣、帆立、ホヤ及び銀鮭の養殖が盛んな地であったが、漁船、養殖棚及び水産加工場は完全に壊滅しており、まったくのゼロの状態となってしまった。

そのような状況の中、長年地元で養殖業に携わる伊藤浩光氏が、自身も自宅、漁船などの全てを失ったにもかかわらず、震災直後から漁業復興のために立ち上がり、志を同じくする多くの人々が賛同して地名に合わせたネーミングで、OH ガッツを立ち上げた。共同発起人の中に、「一般社団法人東の食の会」という東日本の被災地域産の農水産物の食を広めようというNPO団体の理事である立花貴氏が加わっており、東京に拠点を置く支援組織を持っている。この立花氏は都内でおおよそ20年のビジネスキャリアを持ち、雄勝町の伊藤氏を中心とした漁師仲間でも立ち上げたOH ガッツのバックエンドをサポートしている。

OH ガッツは、雄勝町の水産物の中心であった、牡蠣、帆立、ホヤ及び銀鮭の養殖及び販売を主な事業として設立された。しかし必要な設備が全くない状態の中、広く資金を集めるために、養殖オーナー制度「そだての住人」という企画をスタートさせた。一口一円で養殖オーナーとなり、育った水産物を得る、という制度である。この「そだての住人」制度は、これまでの養殖オーナーのように、ただお金を前払いして商品を買うのではなく、実際に雄勝町に行き、漁師と直接話をし、牡蠣や銀鮭を育てる作業を見学し、希望する方は実際に作業にも加わるというものである。ここにある想いは、どこで誰が作ったかわからない商品を食べるのではなく、震災から復興していく雄勝町のOH ガッツが作った、安全で美味しいものを食べるということと、「そだての住人」になる多くの方々自身が作り手となって、自分が作ったものを食べるという喜びを感じてほしいという内容である。そして、大津波により全壊した地域を復興させるまで、一緒に歩いていくという参加型支援である。この考え方は、いわばユーザー参加型のマーケティングであり、かつブランディングであるといえる。

<sup>9</sup> 合同会社 OH ガッツ <http://oh-guts.jp/> (参照日:2011年12月23日)

2011年8月上旬に設立されてわずか2カ月で1,500口を超える応募があり、現在もオーナー数は増え続けている。また、斬新なアイデアであるということで、日本テレビ「希望のしるし」、NHK総合「サキどり!」、TBS「ニュース23」などに取り上げられ、全国への認知度を広げている。また、2011年10月末に東京・国立代々木競技場で開催された東日本大震災の被災地域の農水産物の振興イベント「東の食の福幸祭」に出展し、都心におけるさらなる認知度の向上を図り、さらなる「そだての住人」となる養殖オーナーの獲得を続けている。



図 11 そだての住人イベント

また、「そだての住人」に登録した養殖オーナーが、実際に現地の雄勝町で養殖の作業に参加する1回目のイベントが2011年9月18日に行われ(図11)、全国から200名を超える「そだての住人」が参加した。牡蠣の稚貝を養殖棚に投下するというイベントであるが、OHガッツ設立後わずか1カ月で実施されているということは驚きである。参加された養殖オーナーの方々は、未曾有の大災害を被った被災地の復興に自身が直接参加したという強い体験を共有し、やがて育って出荷される牡蠣に対して強い思い入れを抱くであろう。参加した方々は、「雄勝町は第2の故郷です。」「いつまでも応援していきたい。」などの感想を残しており、彼らの中に雄勝町ブランドが強烈に浸透していると考えられる。この養殖オーナーが数千、数万と増えていく過程で、雄勝町の復興は着実に進んでいくであろう。

## ② 三陸海産再生プロジェクト

「一般社団法人 三陸海産再生プロジェクト」<sup>10</sup> (以下、三陸海産再生プロジェ

<sup>10</sup> 一般社団法人三陸海産再生プロジェクト <http://www.sanriku-pj.org/> (参照日:2011年12月23日)



クトとする)は宮城県石巻市の石巻地区を中心に活動している。この石巻地区も、漁港、水産工場、魚市場、漁船の全てが流され、完全にゼロの状態からのスタートとなっている。この三陸海産再生プロジェクトにおいても、広く会員を募る方法をとっている。

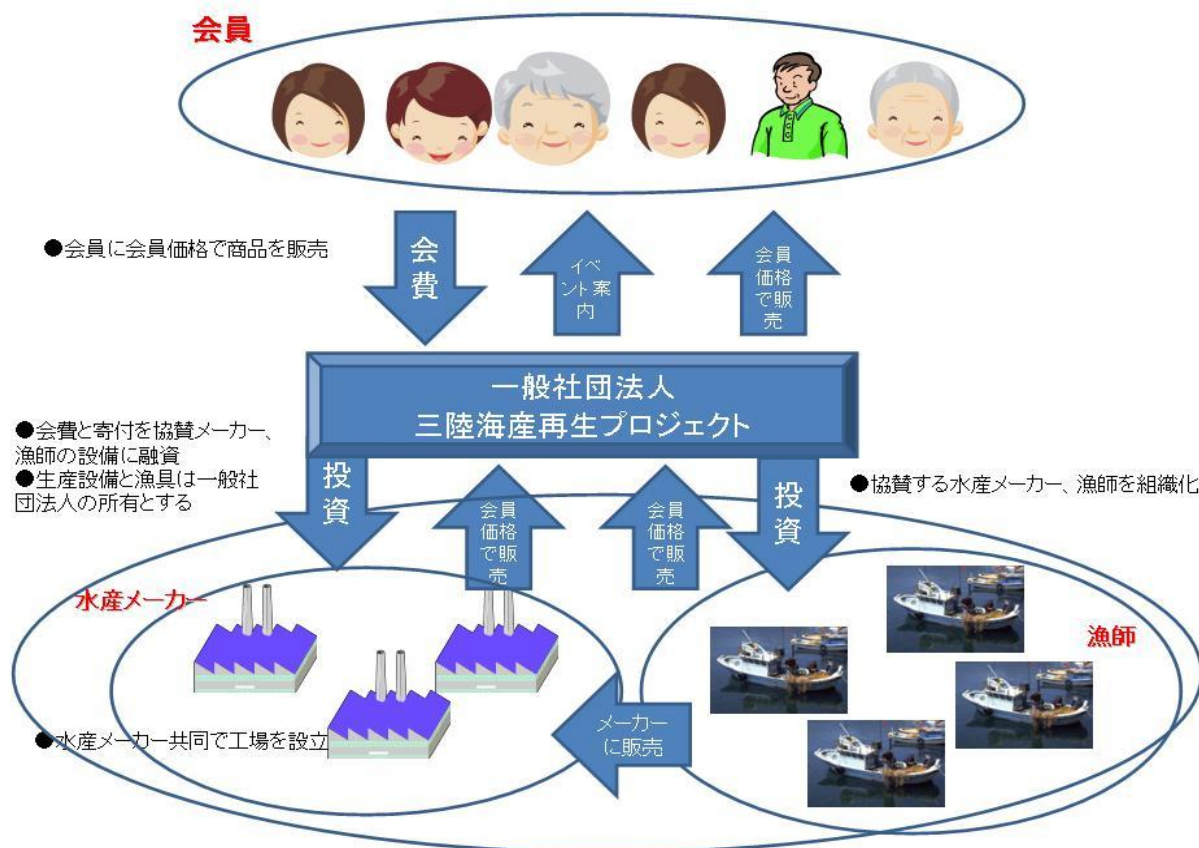


図 12 三陸海産再生プロジェクト

三陸海産再生プロジェクトにおける会員システムは、図12に示すとおりである。まず、三陸海産再生プロジェクトに会員が年会費（個人1万円、法人3万円）を支払う。他に寄付なども募り、集めた資金を漁業者及び水産加工会社へ投資する。この投資を受ける漁業者と水産加工会社は組織化され、協業を行う。投資によって購入された漁具や生産設備の所有権は三陸海産再生プロジェクトに帰する。そして、漁業者の漁獲商品を、あるいは水産加工会社を経由した加工製品を会員価格で三陸海産再生プロジェクトに販売し、さらにこれを会員に対して会員価格で販売する、というものである。会員限定の現地視察ツアーが企画されており、直接、会員は現地と繋がって復興の推移を確認できるようにしている。

また、三陸海産再生プロジェクトのホームページ上に詳細な水産加工工場の設

備案と見積を発表している。総額は1億4,800万円であり、2012年9月の操業開始を目指している。また、事業計画予定は以下の表3のとおりである。

表3 事業計画予定

	イベント開催	工場・設備	漁船・漁具	商品配送の予定	例年の水揚げ
2011年6月				「5000円鮮魚パック」の販売済み	かつお
2011年7月	こども・海と魚のフォーラム	工場用地A選定	イカ釣り漁具購入	イカの沖漬けの予定	エビ、かつお、イカ、アジ、いわし
2011年8月	倫理法人会講演				金華さば、イカ、サンマ、かつお、ホタテ、アジ、いわし
2011年9月	にんげんクラブ講演				金華さば、かつお、さんま、イカ、ホタテ、いわし
2011年10月					金華さば、さんま、いわし
2011年11月	船井メディア講演	工場用地B選定	ホタテ・ワカメの漁具		金華さば、さんま
2011年12月			小女子漁具		
2012年1月					
2012年2月				ワカメの出荷	ワカメ
2012年3月					エビ、ワカメ
2012年4月		工場建設開始			小女子
2012年5月		設備選定開始			小女子
2012年6月					かつお
2012年7月				ホタテ出荷	エビ、かつお、イカ、アジ、いわし
2012年8月					金華さば、イカ、サンマ、かつお、ホタテ、アジ、いわし
2012年9月		工場建設完成		金華さば缶詰め、切り身、練り製品、タラコ	金華さば、かつお、さんま、イカ、ホタテ、いわし
2012年10月					金華さば、さんま、いわし
2012年11月					金華さば、さんま
2012年12月					

会員数に応じて、計画は変わります。

2～3年後に牡蠣の出荷を予定しています。

工場のある魚町は地盤沈下しており、インフラが復旧していないので、新しい敷地で工場を新設したい

なお、会員への安心・安全のアピールのため、放射線測定結果の告知も行っている。取り扱う魚類は表3のとおり多岐に渡るが、2011年6月22日には早くも初出荷を達成している。

### ③ 4億7000万円を集めた小口の応援ファンドの事例<sup>11</sup>

多摩大学OBの小松真実氏は、2000年にミュージックセキュリティーズを設立し、新進音楽家を支えるファンドが出発点となり、熱意があっても夢を叶えられない人が多い現状を変えたいと、ファンらが活動を応援する仕組みを作り出した。

東日本大震災復興事業として、20業種、140案件の一つとして、宮城の水産加工会社や福島の酒蔵など復興資金を、1口1万500円から募るファンドで約1万4000人から4億7000万円近くを集めた。これは本研究で構想していた事業に通ずるものがある。

(添付資料4参照)

## 第2節 水産業復興特区の概要

2011年10月18日、宮城県議会は「水産業復興特区」構想の撤回を求める請願を賛成少数で撤回した。また、この後に政府の復興特区法案も国会で可決され、実施可能な環境が整うこととなった。この宮城県における水産業復興特区の概要は以下のとおりである。

この特区構想の骨子は、漁業免許付与の優先順位の特例である。沿岸漁業者は生産・生活基盤のほぼ全てを失い、個人での再開は困難となっている。現状は漁協が漁業免許の取得につき優先順位を有するとされているが、水産業の早期復興と競争力強化に向けて必要な資本導入を図るため、沿岸部の養殖業に関してのみ、地元の漁業者を7割以上含むなどの要件を満たした漁業会社等の法人は、水産業の復興の担い手として漁業法の適用を除外して、優先的に漁業免許を受けられることとする特例である。

なお、漁業に直接かかわる以外の政府復興特区法案の関連する部分としては、被災地で新たに事業を始めて、被災者を5人以上雇用した企業は5年間法人税が免除されること、国が財政的に支援する東日本大震災復興交付金の創設などが盛り込まれている。

## 第3節 漁業法人として国内最大の「マルハニチロ」の事業概要

株式会社マルハニチロホールディングス<sup>12</sup>及びグループ会社（以下、マルハニチロとする）は、国内最大級の漁業会社グループである。このマルハニチロの概要は以下のとおりである。

マルハニチロは「魚」を根幹事業とし、3つの分野のセグメント、10のユニット

<sup>11</sup> 日経MJ（2012年1月4日）「ファンドで夢を応援」

<sup>12</sup> マルハニチロ <http://www.maruha-nichiro.co.jp/> (参照日:2011年12月23日)

事業と他に畜産事業とを有し、傘下企業 204 社、2011 年 3 月期の連結売上高は 8,233 億 9,900 万円である。水産事業セグメントでは、漁業・養殖ユニット、北米ユニット、水産商事ユニット、荷受ユニット及び戦略販売ユニットがあり、食品事業セグメントでは、冷凍食品ユニット、加工食品ユニット、化成品ユニット及びアジア・オセアニアユニットがあり、保管物流事業セグメントは物流ユニットがある。

特に、直接漁業を行っている事業会社として漁業・養殖ユニットの大洋エーアンドエフ株式会社がある。同社は、50 隻ほどの大型漁船を有し、海外まき網漁業、沖合まき網漁業、南方カニ籠漁業、底はえ縄漁業などの漁獲事業とまぐろ養殖事業、水産物の加工・販売、及び水産物の輸出入などを行っている。

#### 第 4 節 水産食品におけるブランド化の研究

##### ① 氷見ブリ

氷見ブリは、富山県氷見市の氷見漁港産のブリを指しており、特に寒ブリが有名である。寒ブリは 11 月から 3 月に水揚げされ、とても脂がのって美味であるとされ、他の地域産のブリと比較して 3~5 割もの高値で販売される。ブリは出世魚とも呼ばれ、成長の段階ごとに名前がついているほどであるが、その最後の段階がブリである。日本海を北上しながら成長し、脂がのりきったところで南下し始めるのだが、それがちょうど富山湾の先あたりとされ、そのため、富山で特にブリの水揚げの多い氷見漁港のブリが氷見ブリとして呼ばれるようになった。

全国的にも人気化してブランド化が進み、その結果、築地市場において偽装事件まで起きている。2010 年末、築地市場で氷見ブリの品定めをしていた卸売業者が異変に気づいて調査を開始し、警察の捜査の結果、ある業者が福井県産のブリを偽装していた事実が発覚した。

このように偽装事件が起きるほどに人気のあるブランドとなるのは相当なことといえるだろう。一方で氷見ブリとの名称を使用する基準があいまいであったとして氷見漁協は基準と運用の厳格化に向けて対応を協議している。

##### ② 関さば・関あじ

関さば・関あじは、瀬戸内海と太平洋の境界に位置する豊予海峡で漁獲され、大分県大分市の佐賀関で水揚げされ、水産品の高級ブランドとされる。

瀬戸内海のこの海域は餌となるプランクトンが豊富で生育がよく、かつ、潮流が速いために身が締まっている。また、この海域は、波が高く海底の起伏が複雑で漁網を使った漁に適さないため、伝統的に「一本釣り」が行われてきた。そして、重さを量ることなく水面の魚を見て大きさや重さを判断する「面買い」（つらがい）で売買され、出荷に際しては「活け締め」（活魚を麻痺させて素早く脳死状態とし、血抜きをして鮮度を保つ方法）が施されるために内臓の寄生虫が筋肉に

移ることが少ないとされる。このような取り扱いにより、魚にストレスがかからず（ヒスタミンによる味の変化がない）、魚体に傷が付きにくく、鮮度が落ちにくいという特徴も有している。適度な脂肪を持ち、鮮度が落ちにくいという特徴から、関さばは刺身として生食されることが多い。

人気が出てブランド化してきたことに合わせ、地元漁協は、関あじ・関さばの商標を出願し、1996年に水産品として全国初となる商標登録が認められた。そして、出荷する関あじ・関さばの尾に一匹ずつ商標の入ったタグシールを付け、関あじ・関さば料理を提供している全国の料理店には特約加盟店の看板を掲示する等、ブランドの保護・育成に努めている。また、2006年10月には、地域団体商標（地域ブランド）の第1弾として関さばが登録されている。

## 第4章 漁業復興対策の提案

### 第1節 国民“志”ファンド

東日本大震災で壊滅的被害を受けた、宮城県の漁業を復興するには水産事業の新たなビジネスモデルの実行が不可欠であると考えます。これまで述べてきたように、漁業は震災の前から様々な問題から衰退しつつある状態が続いており、そこに東日本大震災の壊滅的損害が起きているのであり、震災前の元の状態に戻すことは引き続き衰退し続けることを意味する。

そこで我々が提案するのは、漁業復興を担う新たなビジネスモデルを遂行する運営体を設立し、ここに必要な資金を投入して事業運営を行うというものである。被災地復興という目標をより多くの方々と共有し、広く資金を集めるという趣旨から、不特定多数からの出資募集を行う方法としたい。

しかし株式会社形態の場合、制度上の制約から管理コストが増大してしまう。まとまった資金を集める場合に、例えば50名以上から出資を募ると有価証券報告書の提出義務が生じるなど、株式会社形態でのオペレーションではどうしても負担が大きくなりかねない。そうした点を考慮し、不特定多数からの出資を募るうえで制度上の特典が設けられており、管理コストの低減や税制上の負担軽減が図れる、ファンド形式での運営体で行うものとする。そこで、「震災漁業復興投資事業有限責任組合（仮称）」（以下、復興ファンドとする。）を設立し、これを出資金募集及び運営の母体とする。

広く全国から多くの賛同者を得て、出資金を集めるには魅力的な意義の高い復興事業案が必要であるが、そのような復興事業計画の策定を前提として、10万人から出資金10万円を集め、総額100億円を目標額とする。まず、資本金数百万～1千万円程度の復興ファンド運営会社を設立し、ここに企画立案メンバーが所属する。

この復興ファンド運営会社が設立するかたちで、復興ファンドを立ち上げ、広く全国から10万人、一口10万円の出資を受け入れ、目標額100億円を集める。この100億円の出資金から各事業を営む事業運営会社へ、資金の拠出を行う。

事業運営会社は、それぞれが宮城県の水産事業の復興を担う事業運営を行い、相互に連携しながら復旧ではなく復興となる目標達成を目指す。事業運営会社の事業計画案に関しては次項以降に詳細を述べる。この水産復興を目指す事業運営を行う復興ファンドが、国民“志”ファンドである。

## 第2節 水産事業会社の可能性

水産事業会社を通じ、将来的には日本国外で姉妹漁港を作り、業務提携を行う。日本からは漁業の技術提供、新興国から研修生を受け入れて人手にする。

### 第1項 現状

#### 1) 研究を行うにあたっての背景

今回のマグニチュード9.0にも及ぶ凄まじい破壊力を持った巨大地震は、青森県から千葉県まで500キロにも及ぶ広大な地域に甚大な影響を及ぼした。とりわけ、沿岸部の被害は甚大で基盤産業であった、漁業・水産加工業などの水産業は壊滅的な被害を受け、漁港なども含む被害額は数10兆円にまでも及ぶと各機関から報告されている。1994年に発生した阪神淡路大震災では、震災直後の数ヶ月で交通・インフラが復旧し、仮設住宅が供給された。阪神淡路大震災の場合は、発生してから3年間で、震災前の約8割程度まで復興したと言われている。しかし、過去にない規模の被害を受けた東日本大震災では、被害地域が広域なため復興にはかなりの時間がかかるといわれている。

#### 2) 宮城県復興基本方針、理想と現実

全雇用の4%強が失われた宮城県は、県民の働く場所の確保が急務になっている。被災地の漁業・農業、各種工場などこれから再始動をする場合、道路や港の整備はもとより個人や企業に対する直接の補助や援助が必要である。しかし、国が税金で被災地を応援するには限界がある。特に漁業などの大規模装置産業では、新しい漁船を一隻調達するのに数千万円から数億円かかり再起が困難な漁業者も多い。他の地域から、使わなくなった漁船の譲渡を受けたりして、被災地に漁船が集まってきているが圧倒的に数は少なく、失業者となってしまう漁業者が大多数である。

宮城県・村井嘉浩知事が震災復興のキーワードとして掲げている、「民間活用」は民間の投資やノウハウ・技術力を呼び込むことで被災地に職を生み出し復興させようという考えである。

#### 3) 被災者の苦しい現状

沿岸部の被災者の生活状況を整理する。河北新報社が、津波により大きな被害を受けた宮城県沿岸部の被災世帯300人を対象にしたアンケートの結果を見てみると、3分の2近い世帯で収入が無くなるか減っており、自宅で暮らす見通しが立たない世帯も7割を超えている。

被災者の多くは依然として、生活再建の道筋を描けない状況が続いていることがうかがえる。家計が悪化した世帯も全体の約6割に達している。月収の減少額は「10万～15万円未満」29.8%、「5万～10万円未満」29.0%と続き、「20万円以上」も23.4%に上る。調査対象者の家屋の被災状況は全壊が90.6%。自宅再建・改修見通しは「ついていない」

(63.3%) が、「ついでに」(15.2%) の4倍以上である。

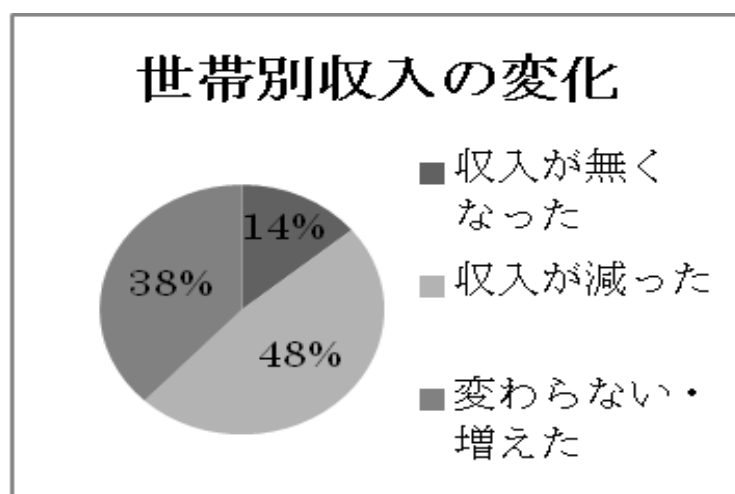


図 13 世帯別収入の変化

震災後の預貯金の変化は「無くなった」と「減った」を合わせて6割超である。将来の不安については複数回答で「自宅再建費用の調達」が68.8%と最も多く、苦しい台所事情が住宅再建の足かせとなっている状況が浮かび上がった。震災前後の仕事の変化に関する設問では「変わらず続いている」が34.4%で最多である。「失業・廃業した」は16%、「仕事の内容が変わった」と「休業・休職している」はともに7.4%であった。「失業・廃業した」を地域別に見ると、漁業が盛んな石巻、気仙沼両市で半分を占めた。

仕事の変化と収入の関係では、仕事を続けている人も半数は収入が減少している。仕事内容が変わった人と転職した人では9割以上が収入を減らした。この資料から分かるように、漁業関連の仕事に従事していた多くの被災者が経済的な打撃を受けている。被災失業者へ雇用を提供する雇用支援が必要とされている。阪神淡路大震災の際、被災地のインフラや民間建設物の復旧・新設のための建設事業で、多くの雇用が創出された。

現に、東日本大震災においても、震災発生後から建設重機の運転免許を取得しようとする被災者が増え、講習会は定員をはるかに超える募集が集まっているのが現状である。しかし、建設についての雇用は、数年後にはおおよその復興が完了してしまい長期的な視点で考えると、一過性に過ぎない産業であると考えられる。失業者と求人側で求められている職のギャップが発生することも懸念されている。失業者が多いということは、ただ単に可哀想ということだけでなく、その地域における消費活動が低下して、集まってくる財・サービスが減少することになり、住民が以前より豊かな暮らしが出来なくなってしまうことを意味する。

失業者が多いほどその地域の経済は悪化してしまい、非失業者の所得も低下してしまう。そうすると、被災者の県外流出者数が増加し更なる被災地の復興の足かせとなって、最悪



の場合その地域の崩壊に繋がってしまうことが予想される。被災地を復興させるには、被災地に新たな産業を創出し雇用の機会を増やし経済の活性化を図ることが必要である。

#### 4) マスメディアから伝えられる被災漁業者の実情

一つの事例として、宮城県気仙沼市で養殖業を営むある漁師は、大震災の津波で2隻の船、ホヤとワカメの養殖いかだを失った。漁師の商売道具を全て失い、年間600万円ほどあった収入は途絶えてしまった。船を新造するには、4,000万～5,000万円掛かる。養殖いかだや漁具にも2,000万円近い資金が必要で、自力での再開は難しい。

現在は漁網を編む技術を生かし、仲間と作ったハンモックのインターネット販売が唯一の収入源となっている。しかし、月収は数万円で、自宅の再建どころか日々の生活費すら苦しく、貯金も残り少なく辛い状況が続いている。このように個人漁業従事者の多くが金銭面など苦しんでおり、漁業への再起が困難となっているケースが多い。

## 第2項 水産事業会社

### 1) なぜ水産事業会社が東北に必要なのか？

水産事業会社は、水産事業を行い水産業の活性化・地域の雇用を創出し経済を活性化させることが最大の狙いである。世界三大漁場と呼ばれる金華山・三陸沖漁礁では、黒潮(寒流)と親潮(暖流)がぶつかることもあり良漁場になっている。

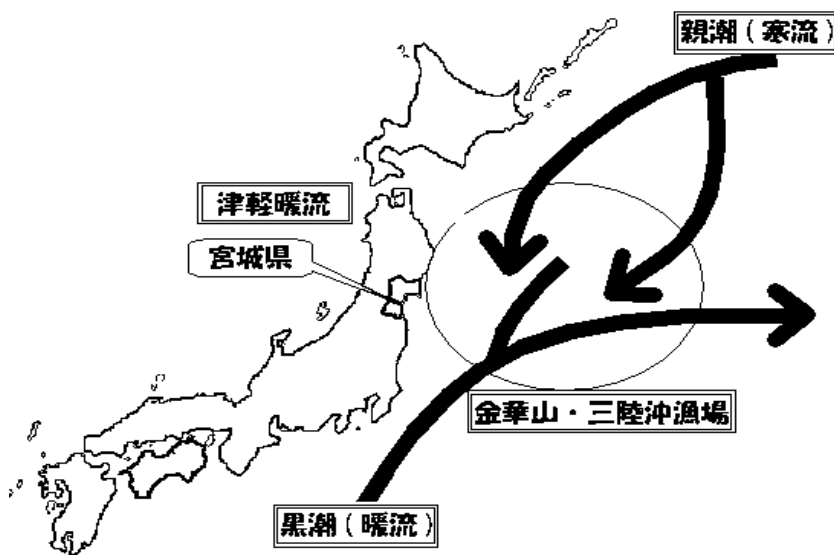


図 14 世界三大漁場と潮流

「三陸沖」はマグロ・カジキ・サメ・オキアミ類・サンマ・カツオなどが供給量日本一位を記録している。そのために日本各地から「三陸沖」で操業しようと漁船が集まっている。

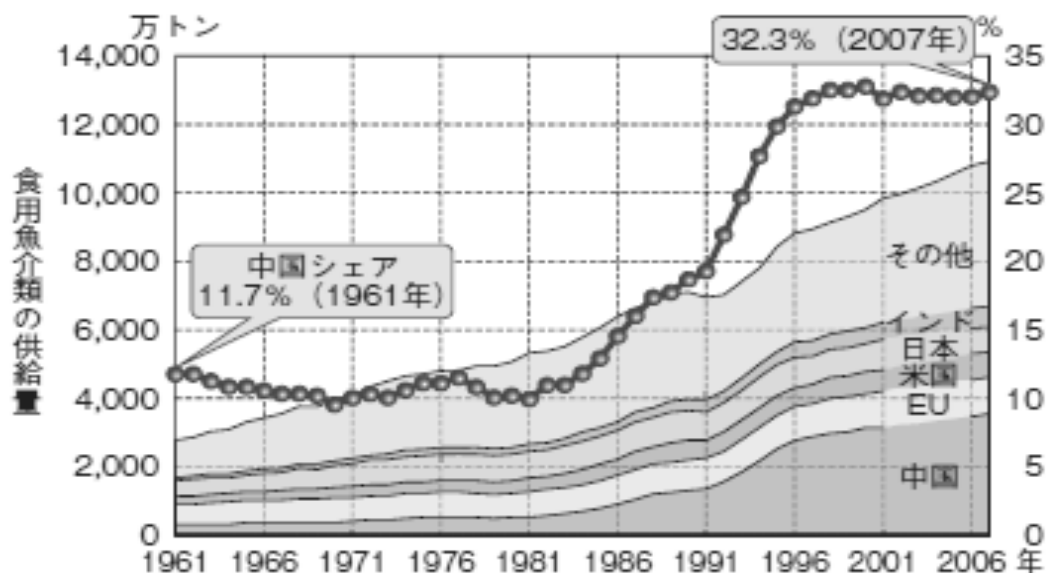
このため、日本の特定第3種漁港と呼ばれる水産業の振興のためには特に重要であるとして政令で定められた漁港の13港のうち、八戸・気仙沼・石巻・塩釜の4港がこの地域に集中しており、八戸港を除く残りの3港が宮城県に存在しているのが特徴的だ。沿岸漁業や養殖漁業では、ウニ、ワカメが全国収穫量の約7割を占めおり、カキ、ホタテ、ホヤなどが主要産物である。水産加工業も発達しており、かまぼこ・塩辛などの水産加工品の供給数は全国比2位で、1935年創業の阿部蒲鉾屋にて誕生した笹かまぼこは宮城県の名産品になっている。

### 2) 世界の水産需要はこれからも急増する

2050年には日本の人口は1億人を割るが、世界人口は現在すでに70億人を超えており今後も確実に増加し続けるであろう。一方、欧米の健康志向の高まりや中国の経済成長により、世界一人当たりの年間水産物消費量は、約50年間で二倍になった。世界中の研究機関は、世界の水産物需要は今後とも増大すると予想している。しかし、需要増加を支える水産資源は貧弱である。FAO(国際連合食糧農業機関)の統計によると世界海洋水産資源は過剰利用され枯渇する状況にあると発表している。

### 3) 養殖産業の可能性と現状

FAO(国際連合食糧農業機関)が発行した報告書によると、水産養殖は、世界で最も急速に成長している動物性タンパク質の供給源で、世界で消費されているすべての魚介類の半分近くを提供しているという。



資料：FAO「Food balance sheets」及び農林水産省「食料需給表」

図 15 世界の食用魚介類の供給量推移

「世界養殖業報告 2010 年」は、水産養殖による世界の魚介類の生産は、2000 年の 3,240 万トンから 2008 年の 5,250 万トンへと 60%以上成長したと報告している。報告書は、2012 年までに世界の食用魚介類消費の 50%以上は水産養殖によるものになると予測している。世界の漁獲漁業生産の停滞と水産資源の急激な需要増によって、公海上の漁業が国際問題にまで発展しているケースが増加している。中国では物流インフラ整備により内陸部の水産物に対する需要が急増し、中国の漁民が排他的経済水域を越えて韓国や日本の領海内に侵入し、拿捕される事件が頻発している。

2010 年には、尖閣諸島にて日本の海上保安庁の漁船と中国漁船が衝突し、中国人船長が逮捕された。この事件で、日中の関係は悪化し中国からのレアアースの輸出が停止したり、日本人が中国当局に拘束されたりした。

また、中国漁船問題は日本だけに留まらず、韓国領海内でも発生し、拿捕をした韓国の沿岸警備隊員が中国漁船の乗組員に刺殺される事件も発生し、韓国国内から強い反発を受けている。漁業者というよりは、海賊化する漁民問題はとても深刻である。水産養殖は増大する水産資源の需要を、安心・安全に満たし、将来より多くの魚介類を生産するのに最大のポテンシャルを持つものとして認識されている。

## 2) 世界の水産養殖事情

水産養殖は、世界の多くの国々における貧困削減と食料安全保障の改善に明確に役立ってきた。アジア・太平洋地域は養殖業の生産量の大半を占めており、2008 年には、世界生産の 89.1%を占めた。また、中国だけで 62.3%を占めて魚の需要急増を賄っている。世界有数の水産養殖生産国 15 カ国のうち、11 カ国はアジア・太平洋地域が占めている。

## 3) 国によって異なる魚

数カ国がいくつかの主要な魚種に特化した生産を行っている。例えば、エビや車エビは中国、タイ、ベトナム、インドネシア、インドなどが生産し、サケはノルウェーとチリが生産している。

養殖システムに関しては、欧米の先進的な水産養殖生産国では、集約的システムがより一般的である。一方、アジア・太平洋地域では、小規模の生産者が水産養殖の中心となっている。小規模生産者と中小企業家は、アフリカにおいても重要な生産者である。商業的で、工業規模の生産者はラテンアメリカが占めているが、小規模生産の開発に向けた強力なポテンシャルも秘めている。

## 第 3 項 成長戦略

### 1) 水産事業会社の成長戦略を考える

水産事業会社を設立するにあたり、企業理念は被災地に雇用を提供し、現地の水産ブラ

ンドを確立することである。雇用を創出すれば、被災者の所得が上昇し地域に財・サービスが集約され地域の活性化に繋がるからだ。

水産事業会社は、津波で甚大な被害を受けたカキやホタテなどの養殖生産に取り組む。養殖産業は、沿岸漁業や沖合漁業に比べて、予定された時期に予定された収穫量を定期的に生産可能で、沿岸漁業や沖合漁業に比べ労働者の負担が少ないことが魅力的である。しかし、養殖モノと天然モノがどちらも存在する品種に関しては、天然モノが豊漁だと養殖モノの価格が暴落してしまい企業としての存続の危機に陥る場合もある。

また、養殖用の飼料になる魚粉についても、大半を輸入に頼っているが、中国をはじめとする世界的な需要増を背景に、魚粉の輸入価格は高値で推移している。養殖事業者の経営への影響が深刻化している。沿岸漁業及び沖合漁業と比較すると養殖漁業は、養殖する魚介物に毎日のエサ投与や養殖場の整備など管理費や諸経費が多く掛かる。

その一方、養殖では一から飼育することが可能で、天然モノに比べての高付付加価値を付けることが出来る。例えば、近畿大学が開発した近大マグロは、全身がトロで脂ののりが良く、天然モノにはない高い付加価値を付けることが可能である。長崎県松浦市の鷹島沖では、大手商社がクロマグロの養殖事業に着手した。従業員の9割を地元で採用し、養殖飼料に地元の定置網で漁獲される未使用魚を利用するなど、地元への貢献を重視した経営を行っている。

## 2) 労働環境改善で漁業の諸問題を解決

水産事業で漁業就労者の減少が大きな問題になっている。全国の2009年の漁業就労者数は21万2千人と前年に比べて4.6%減少した。

また、年齢階層を見ると、60～64歳の階層及び65歳以上の階層を占める割合が増加し、漁業就労者の高齢化が進行しており、将来の漁業を担う人材の確保が課題になっている。

後継者不足の一因として、海難事故の問題が考えられる。2010年の海難事故件数は707件のうち死亡者数57名で危険な職業である。水産事業会社では養殖を基本にし、労働者の安全の確保を最優先し、労働環境の改善を行う。そして、株式会社化することにより安定した給料を提供して、第一次産業が衰退した最大の原因である漁業従事者の所得を大幅に改善する。

## 3) 魅せる漁業化と新たな企業像

漁業者の所得を向上させるために、“水産総合デパート”を沿岸部に造り、水揚げから水産加工、そして物流まで全てを一手に担う。この水産デパート内には、水産関連のテーマパークを併設し、水産業についてより深い興味を持ってもらう。

魚を中心にした食生活のメリットなどを多くの来場者に知って貰う体験型の学習施設を

併設する。水揚げの様子から、水産加工、出荷の様子まで全て来場客が、見て、体験して学べる施設を造る。また、体験乗船や体験養殖など水産事業会社を中心になって様々なイベントを行い、東北へ全国の人が足を運ぶような仕組みを作る。水産事業会社は、本社機能を宮城県現地に持ち、地元地域に密着しローカルな企業として経済格差が激しい都市部と地方都市間において日本の経済状況に新風を巻き起こす企業を目指す。

#### 4) そして、水産物を日本から世界へ

一方海外、主に魚の需要の急増で成長が著しい中国に向けて日本で養殖された水産物又は水産加工品を輸出する。最近の調査で、日本についてのイメージを訊ねると中国では、寿司・刺身などの考えが強いが、一歩発展して日本の海鮮食品・料理というのが高い関心を引いている。中国では近年、食の安全に対する注目や、食における健康志向の高まりにより、ヘルシーで健康的な日本食が注目されている。

図 [ネット調査]興味のある輸入食品はどの国・地域のもの？(複数回答)

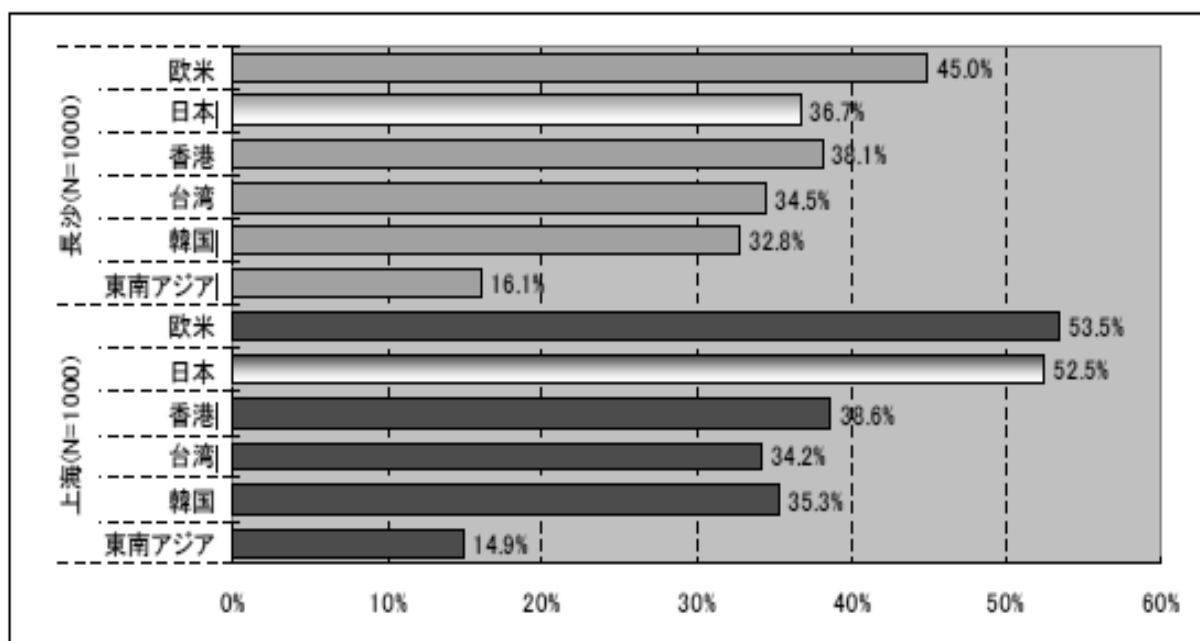


図 16 長沙市、上海市における輸入食品の興味 (ジェットロ日本産食品調査)

経済発展著しい中国の内陸都市では、一昔前までは新鮮な海鮮を入手することはできなかったが、交通インフラの整備により以前よりは、内陸部の地域でも魚類が手に入り易く

なり、内陸部の住民は魚類に関して大変関心を持っている。簡単に魚が手に入る沿岸部と併せて魚が目新しい内陸部の人にも魚の潜在的な需要は強い。

図 [店外調査と店内調査]日本の食品で今最も興味のあるものは？(単一回答)

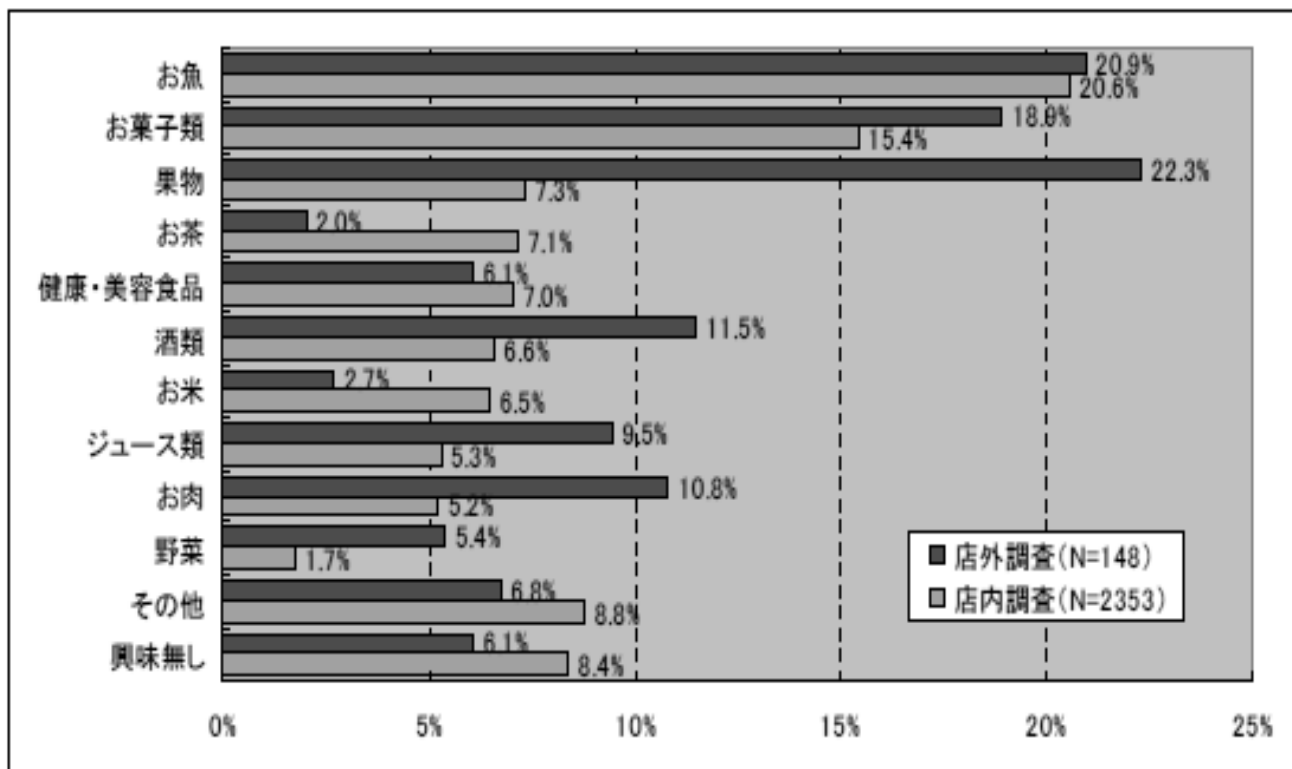


図 17 日本食品に対する意識調査 (ジェトロ 日本産食品調査)

図 【ネット調査】ここ半年で、日本食品をどの程度の頻度で食べていますか？（単一回答）

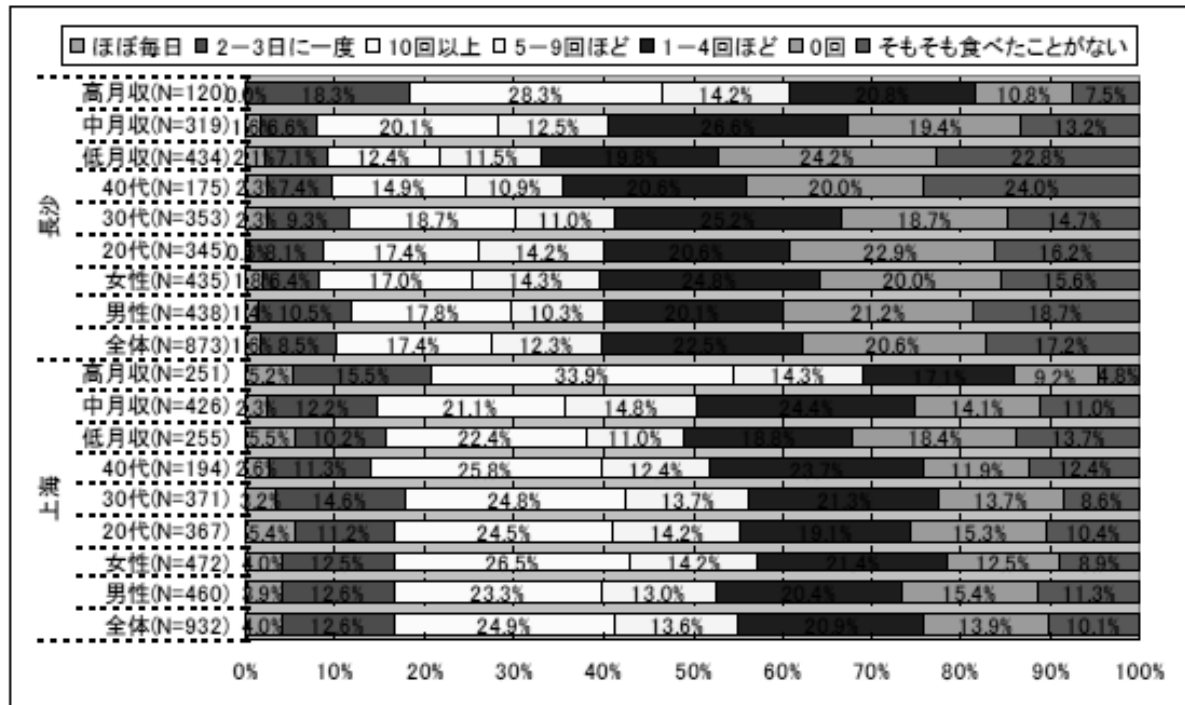


図 18 日本食の頻度調査(ジェトロ 日本産食品調査)

また、図 18 の調査データによると沿岸部も内陸部も日本食を食べる頻度が高い人は富裕層に多いことが共通して言える。日本産の水産物のブランディングを行い、水産事業会社がマーケティングから生産、そして流通・販売まで行い中間コストを省き、アジアダイナミズムの潮流に東北の水産物が流れに乗って、今まで以上に販路が拡大することが期待できる。

日本の瞬間冷凍の技術を利用し、東北で水揚げされたばかりの水産物を新鮮な状態のまま、仙台空港や新潟空港など東北の各空港からから空輸する。中国南部の湖南省長沙市では、サーモン以外の魚類は冷凍ものばかりであるので、東北の水産物を日本の瞬間冷凍技術を用いて、鮮度の高い状態で提供する。この技術は、例えば、洋菓子店などにおいて、長時間の持ち歩きに対応するためにケーキを凍らせるために氷の結晶がほぼ出来ず、素早く凍らせる技術である。

#### 5) 地産地消からの脱却を図る

瞬間冷凍の設備を使用している製品は解凍しても元の味が損なわれない。洋菓子店から

始まった瞬間冷凍の技術は、漁業などにも適用され、遠くの消費地へ運ぶことが可能になり、今までは地産池消だったものが全国に流通を可能にしている。

この瞬間冷凍技術を利用し、生の鮮魚や、加工した魚であるが長期保管の出来ない加工水産物などを中国に輸送し、魚料理として提供することで高い付加価値がつく。鮮度は、中国の沿岸部で水揚げされ内陸部まで運搬されてきた水産物とあまり変わらないであろう。中国ではあまり高度な冷凍技術を持っていないため、富裕層を中心に高付加価値を付けて販売することが期待できる。水産事業会社は東北発のグローバル（グローバルでローカル）な企業を目指す。

#### 第4項 観光産業

##### 1) インバウンド効果を狙う

観光産業という視点から、新たな観光産業創出を考察する。国内の観光需要と消費は低迷する一方である。2003年から、政府は「観光立国」宣言に基づき、キャンペーンを展開し、訪日外国人旅行者数を増加させ、新たな観光消費や交流人口を拡大させるインバウンド観光の振興を目指し、地域の活性化をさせる振興策を全国で行っている。

そのためには、訪日外国人観光客の誘致を徹底的に進め、地域の活性化を図るには対象とする国の旅行者の観光動向やニーズとともに、地域のポテンシャルを的確に把握し、それに対応した観光メニューの整備や広報・プロモーション活動が必要である。

##### 2) ニューツーリズムと東北

東北に日本国民は勿論世界中の人に注目して貰うには、ニューツーリズムなどと言われる、地域住民主体のお祭りやイベントに旅行者が参加したり、地域の生活と密着した農林漁業、伝統文化、地場産業、郷土料理づくりなどの体験を通して、旅行者と住民のふれあいや交流を行ったりするなど、地域資源を活用した住民参加型の観光振興策を行う必要がある。

前項で述べたように、中国国内でも日本の文化に対する興味が増している状況は尚更有利な状況である。

##### 3) 着地が主体になって行う東北版・ゴールデンルート

訪日旅行者の一般的な観光ルートは、関西国際空港から入国し、大阪・京都・奈良地方を見学後、新幹線を利用し東京に向かい富士山や東京都心を見学後成田空港から帰国するのが最も多くの観光客が利用しているルートである。このルートはゴールデンルート呼ばれており、知名度があり人気のある観光地を回る旅行の行程のことを指す。旅行会社が企



画してパッケージとして組み立てており、旅行する国や地域の要所だけを極力急ぎ足で、効率的に見て回るルートになるため、最小限の旅費で多くのスポットを見て回る事が出来るのが最大のメリットである。

震災直前に開通した東北新幹線、八戸～新青森の開通は東北地方に新風を呼び込んだが、新青森から青函トンネルを抜けて札幌まで新幹線を通す計画が持ち上がっている。もし北海道から東京までが鉄路で結ばれれば、新千歳空港から入国し函館・八戸・石巻・気仙沼・塩釜など日本を代表する漁港を見学、世界自然遺産に登録されている白神山地や世界文化遺産に登録されて間もない平泉の中尊寺金色堂など日本の自然・文化遺産を見学後、東北最大の経済都市である仙台へ抜ける。

仙台空港から帰国することも可能だが、時間に余裕があれば新幹線を利用して東京へ向かうことも可能である。日本各地に必要以上に造られた空港や交通インフラを最大限有効利用できるだろう。この東北版ゴールデンルートの企画から運営までを水産事業会社が中心になって行う。東北の産業の中心は漁業であるということを内外にアピールし、日本の食文化から日本について興味を持ってもらい多くの人々の訪日を目指す。

### 第3節 技術を生かした水産加工事業の可能性

#### 第1項 漁獲・近海物

前節にて、瞬間冷凍技術を水産物に利用して新たな販路を広げるべきだと述べたが、水産物に対する需要が急激に増加しているのが航空機でも3時間圏内の中国だ。中国では、交通インフラの整備及び拡充により、以前は沿岸部や交通インフラが整っている都市のみで流通していた水産物だったが、昨今では短時間で内陸部にまで輸送ができるようになったことにより、内陸部では真新しい魚は注目を浴びている。それに加えて健康志向の高まりも相まって、急速に水産物の需要が大幅に拡大している。日本の水産業も、大きな可能性を秘めている大中華圏にもっと目を向けるべきである。

中国内陸部の湖南省長沙市では、サーモン以外の魚類は冷凍ものばかりで中国内陸部まで鮮魚を輸送する際に鮮度が失われてしまうのが現状である。そこで、東北の様々な魚を日本の瞬間冷凍技術を使い、鮮度の高い状態で提供し鮮度の良い状態で出荷する。

今回、長沙市を取り上げたのは中国内陸部に位置し、魚介類の需要があるがそこまで鮮度を保ちつつ、輸送可能な手段が見つからない地域でそれを裏付ける有効な文献のある都市として、湖南省長沙市を一例として用いた。

冷凍技術の進歩から見ると、現在、日本の洋菓子店では、鮮度が求められるケーキなどを凍らせても氷の結晶が出来ないほど素早く凍らせる技術が使われている。瞬間冷凍の設備を使用している製品は、解凍しても元の味が損なわれない、素晴らしいものであると思われる。ケーキ屋から始まった瞬間冷凍の技術は、漁業などにも適用され、遠くの消費地へ運ぶことが可能になり、今までは地産池消だったものが全国に流通できるようになっている<sup>13</sup>。

この洋菓子店の瞬間冷凍技術を利用し、鮮魚の輸送を行ない、加工した魚や長期保管の出来ない魚などを中国で魚料理として提供することで、高い付加価値がつくと予想される。日本と比べると中国では高度な冷凍技術を持っていないため、富裕層を中心に販売することが期待できる。

---

<sup>13</sup> 日経B Pnet (2009年11月30日) 「第31回凍結技術の進歩」

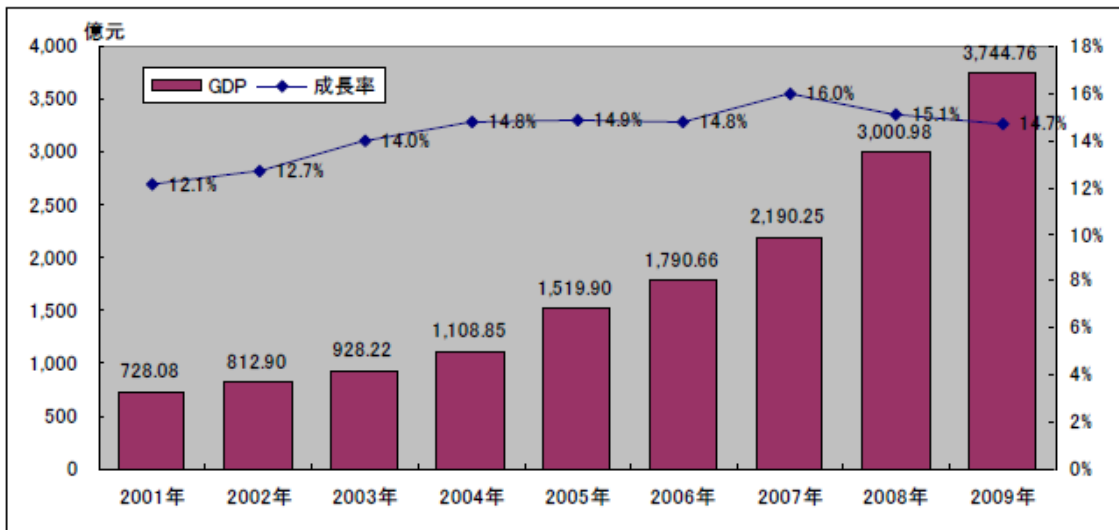


図 19 長沙市の GDP と GDP 成長率推移（出典：長沙市統計局発表のデータ）

長沙市の GDP (国内総生産)は 2001 年には約 728 億元だったのが、2009 年には約 3,744 億元にまで増加している。この期間で 5 倍以上の経済規模拡大を実現している。その間の経済成長率は年間 12%を下回ることなく、最大では 2007 年、16%に達した。経済成長率を、中国全体、湖南省と比べてみると、2001～2009 年における長沙市の経済成長の力強さがより明確になる。湖南省全体も、中国全体を総じて上回る経済成長を遂げているが、長沙市はそれを上回る。これは、長沙市の経済成長が湖南省経済を牽引しており、その結果、湖南省の経済成長は中国全体平均を上回る成長率を記録している要因の一つになっていることを意味している。この図から見て取れるように、長沙市は急速に成長を遂げており、瞬間冷凍技術という付加価値の高い製品であっても富裕層を中心に売れる見込みが高いと思われる。

## 第 2 項 養殖、牡蠣、あわび、わかめ

上記の瞬間冷凍技術を養殖した牡蠣、あわびやサメなどにも利用し東北で養殖した鮮度が非常に高い魚介類を素材のまま、もしくは加工した上で中国の富裕層などに高い付加価値を付けた状態での販売を提案する。

日本貿易振興機構（ジェトロ）の「日本産食品のモニタリング調査＜中華人民共和国・湖南省長沙市＞2011 年 3 月」の調査報告書に中国は麺食が盛んであるとある。

その麺食に養殖した海産物を入れたら、ラーメンという大衆食に大きな付加価値がつき、高級品には目がない富裕層にはとても魅力的な食品として注目されると推測する。

### 第3項 加工 缶詰、レトルト

東北で獲れる天然鮭は缶詰や干物、さらにはサプリメントにも転用でき、いわばオールマイティ食品である。収穫高の高い鮭は多種多様な素材へと転用可能である。この鮭の特性を生かし、現地の様々な郷土料理など保存の効く料理を缶詰サイズに加工し、販売する。缶詰製品にすることにより、鮮魚のような瞬間冷凍技術を用いた製品と同等の鮮度を維持することができるはずであり、鮮魚も缶詰も付加価値の高い製品として輸出することが可能である。

### 第4項 製造 サプリメント

北海道や東北で獲れる天然鮭を使った「純国産・天然成分100%の海洋性コラーゲン・サプリメント」というものがある。その製品の特徴は以下の通りである。

このサプリメントは、トレサビリティーを知ることができる、無添加総天然成分の安心安全製品である。低分子量のため消化・吸収に優れており、特殊な加工法により非常に細かい繊維構造となったコラーゲンは伸縮性を持ち、医療の分野で活用している。臭いがほとんどなく、たいして抵抗感なく飲用できる。脂肪分がない上に新陳代謝を活性化できるのでダイエットにも効果を発揮する。これは天然の鮭を利用しており、特に希少性の高いものではない。そのため量産が可能であり、かつ、ブランド効果を得ることで、高付加価値を付けた製品の実現が可能であると考えられる。

またネット調査で、市販のドリンク剤や錠剤（サプリメント）などで栄養を補うことがあるかどうかを聞いたところ、長沙市全体では「よくある」「ときどきある」の回答者の合計は46.0%となった。上海市全体では「ときどきある」の回答者の割合はほとんど変わらないのに対し、「よくある」の回答者の割合は長沙市のほぼ倍の13.2%となった。

上海市と比べ、長沙市ではあまり栄養補助のためのドリンク剤やサプリメントが浸透していないことがわかる。ジェトロの文献によると、両市とも、収入が多くなるにつれ、栄養補助食品を使用するケースが多くなるようだ。長沙市では栄養補助食品は高齢に伴って必要になる栄養補助のために使用されていることが多い一方で、上海市では仕事などの疲労回復のために使用されている傾向が多い。

この両市の特徴を上手く生かし、地域の需要に即しかつ東北産の鮭を多く配合した栄養補助食品を生産・開発し、供給することが出来れば、需給関係としてベストバランスの形とが考えられる。

また、ネット調査では長沙市は収入が高ければ高いほど、年齢が低ければ低いほど、間食の頻度が高まる傾向にあることがわかった。このことから、高収入層や低年齢層に向けた間食に代わる栄養補助食品を開発すればベストマッチと考える。

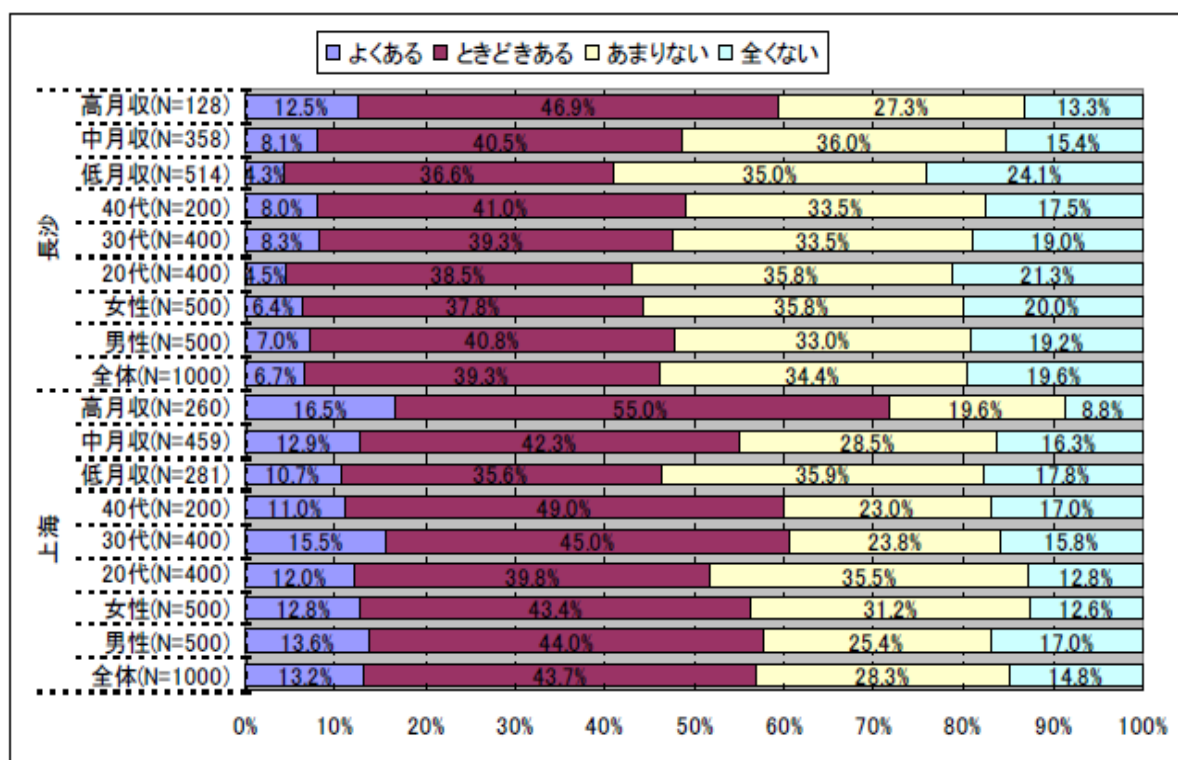


図 20 長沙市、上海市における栄養ドリンク、サプリの需要 (出典:ジェトロ)

今回、題材とした長沙市は中華人民共和国湖南省の省都で、湖南省の中核都市である。中国内陸部にある長沙市の経済規模はGDPベースで主要都市中最大の上海市と比べ、4分の1程度である。

表面上、日中間には過去の歴史問題などがあるが、現地で2010年9月に行ったネット調査で食に限らず、日本について興味があるモノ・サービスについて尋ねたところ、長沙市全体で最も多くなったのは、電子製品(PC・デジカメ・携帯電話など)で7割近くに達した。次いで、電化製品(テレビ・冷蔵庫・エアコンなど)が5割強、「ゲーム、漫画、アニメ」が5割弱と突出した。全体的な傾向として上海市でも大差なく、デジタル、家電、ポップカルチャーが長沙市民や上海市民にとって興味のある事項だとわかる。また日本製のモノ・サービスについて尋ねたところ、高品質が過半数を占め、デザインが綺麗というのは約半分を占めた。

このような日本に対する興味の度合いを参考に、サプリメントなどの東北産の製品を開発すればよいのではないだろうか。パッケージは、日本の「ゲーム、漫画、アニメ」とコラボした製品のデザインでどこから見ても日本と瞬時に判断できる製品であれば現地住民により一層受け入れられやすいものとする。

## 第4節 東北マリン高等専門学校（仮称）設立案

### はじめに

今回の東日本大震災の特徴は、その規模の大きさもあるが、被災地が広域にわたり、分散していること、原子力発電所の放射能問題など、単なる地震・津波災害の域を超えて複合的であること、被害の大きさ、深刻さ、更に放射能や電力不足などの問題もあり、長期的な復興プランが必要になる。

被災地は元々、人口減少、高齢化の進んだ地域が多い。また、地域の特徴である水産業は極めて大きなダメージを受けている。今後とも津波の危険性がなくなるわけではなく、防災に強いまちにしていくには、単純に復元するだけでなく、新しく、かつ柔軟な発想に基づく都市計画が必要である。

そこで私たちは、少子化の課題先進地域として、教育、産業、学生の高い付加価値に関する取り組みに着目した。そこで中学卒業後から水産業の専門技術を身につけ、研究も行う特別な教育機関、「東北マリン高等専門学校（仮称）」の設立を提案する。

東北の特徴である水産業の再生戦略を研究し、高い技術を身につけ、若者が東北で働く仕組みをつくることから「新しい長期的な復興」を目指す。

### 第1項 高等専門学校の意義および必要性

#### 設立の意義

東北地方沿岸は、東シナ海から北上してくる暖流の黒潮（日本海流）と、千島列島から南下してくる寒流の親潮（千島海流）がぶつかって潮目を形成している。大量に発生するプランクトンを目当てに多くの魚種が集まる世界有数の漁場となっている。また、岩手県南部から宮城県北部にかけてのリアス式海岸は天然の良港となることから、古くから漁業が盛んで、岩手県には111、宮城県には142の漁港があり、世界から認められている。中でも宮城県の石巻港は水揚げ量全国3位である。

生カツオの漁獲量は県内の気仙沼港と例年全国トップを争っているほか、たら、さば、するめいか、いわし、さけ等、水揚げされる魚種も豊富で、気仙沼港は生カツオのほか、フカヒレの産地として世界的にも有名である。

しかし2011年3月11日におきた東日本大震災の影響で、漁船、漁港施設、養殖施設などの水産業被害総額は約6千億円を超える。（2011年8月時点）。「一日も早く漁を再開したい」「船さえあれば魚は捕れる」という漁師の声が連日のようにメディアで取り上げられているが、資金、高齢化と言った問題や、一度失ったシェアは、前と同じ価格・品質では取り返せないという事から水産業の復興は難しい。

そこで、今回の東日本大震災をきっかけに、都市機能の回復のみならず、新たな都市開発を加えた復興を目指したい。そのためには、古くから受け継いでいる東北特有のローカ

ルな文化的視点と今日の文化、グローバル化にも目を向けた若者が参画する復興が必要であると考えられる。（資料6 学校設立案（概念図）参照方）

本学が「海を育て、水産業を守り、世界に発信する」ための中心拠点となり、教育研究の成果を地域に還元することで地域貢献、地域発展の要となれる高等専門学校となるよう志す。高度な技術と知識を身に付けた学生達には、世界で本学でしか取得できない「水産業高度専門士」の称号を付与し、水産業のスペシャリストとして立派な社会人となるよう育成する。

### 1、設置の必要性・東日本大震災、大津波の研究

2011年3月11日午後2時46分、震源は三陸沖、牡鹿半島の東南東130km付近、深さ24km、マグニチュード9.0の東日本大震災が起きた。国内観測史上最大、世界でも20世紀初頭からの110年で4番目の規模といわれる。宮城県北部での震度7、東北・関東8県で震度6以上の強い揺れ、東日本を中心に北海道から九州にかけて、日本列島全体が揺れた。太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した海溝型地震で、大規模な津波も発生した。最高潮位9.3m、津波の遡上高は国内観測史上最大の40.5mといわれている。人的被害は、死者行方不明者合わせて2万3千人をこえる<sup>14</sup>。比較されるべき関東大震災、阪神・淡路大震災は建物倒壊と火災による被害であったのに対し、今回は津波被害に原発事故、液状化現象、地盤沈下、ダムの決壊といったまったく新たな災害であることを示している。

歴史に残る大きな自然災害や様々な被害を踏まえて、東日本大震災を研究し、後世に残す必要があると考える。

### 2、若者が参画する水産業

水産庁公式サイトによると、日本国内の漁業就業者数は、1953年の約80万人を頂点に、以降は減少傾向が続き、2005年のそれは22.3万人にまで落ち込んでいる。また、漁業従事者の高齢化も進んでおり、男子就業者では全体の約3割が65歳以上、そして、25歳以下の若年就業者は全体の3%にとどまっている。日本での魚の消費が減少する中、燃料価格の高騰で経営的には多くの漁業が苦しい状況にあり、このままの高齢化だと後継者問題も懸念される。

また、水産業高齢化の大きな原因の一つとして、年収が考えられる。水産白書によると日本漁師の平均年収は296万であり、収益の不確実性かつ、命がけの仕事であるため、後を継ぎたいと思う若者が減っている。

---

<sup>14</sup> 朝日新聞 2011年3月13日「世界三大漁場 三陸沿岸の漁港破壊」

そこで本学では、宮城県が持つ、「豊かな海」を守り、発展させたいという意志と、東日本大震災を経ての産業を復興したいという意志を持つ学生を集め、若い世代の意見や考えで、水産業が抱える問題を改善する必要があると考える。そして、本学の学生だけでなく、国内・海外からも学生を集め、一人でも多くの若者に宮城県水産業を基とする、「東北の復興」に参画して頂きたい。

様々な地域から環境や価値観の違う学生を集め、学生同士が学び合うことで、東北のアイデンティティを再発見できる可能性がある。また、ボランティアではなく、単位互換制度にすることで、他大学、短大、専門学校とのネットワークを広げることができる。本学は若者と東北水産業の関心をつなぐ架け橋となるような存在となり、被災地の復興を図るシンクタンクとしての役割を担う必要がある。

### 3、世界三大漁場で学ぶ

世界に多数存在する漁場の中でも特に漁獲量の多い優良な漁場として、世界三大漁場と呼ばれる地域が存在する。日本水産庁の定義では、以下の3漁場を指す。1つ目が、北東大西洋海域（寒流：東グリーンランド海流、暖流：北大西洋海流）アイスランド・イギリス・ノルウェー近海である。2つ目が、北西大西洋海域（寒流：ラブラドル海流、暖流：メキシコ湾流）アメリカ・カナダ東海岸である。そして3つ目が、北西太平洋海域（寒流：親潮、暖流：黒潮）東北の三陸沖、常磐沖である。ところが、今回の東日本大震災で、宮城県気仙沼市、岩手県大船渡市などの主要漁港は津波で壊滅的被害を受けた。元々、三陸沖は、カツオやサバが群れをなす漁場であり、ワカメの大産地でもあった。水揚げされる水産物のシェアは全国の約2割に達する。中でも、市街地の大半が流された気仙沼はカツオやマグロの主要水揚げ港で、フカヒレをとるサメ類でも国内屈指の水揚げを誇る。しかし震災の影響で、気仙沼港の湾内にあったカキや昆布の養殖施設が全滅してしまい、石巻はイワシ、青森県の八戸はサバなどの水揚げが多かったが、震災の打撃を大きく受けた。東日本大震災による宮城県漁業の被害額だけでも6千億円を超える。

三陸沖は、寒流と暖流が交わり、太平洋に流れて行くという海流の関係や、魚が育つ餌であるプランクトンが豊富にあることから様々な水産物がとれる漁場である。その反面、今回の東日本大震災をはじめ、1896年の明治三陸地震、1933年の昭和三陸地震など歴史的に考察すると、地震や津波被害が発生しやすい環境である。

以上の点から本学では、学生が世界から認められている漁場で学ぶことができる環境を用意し、水産業、東北復興の原動力となるような人材を育成する。そして、三陸沖における自然災害を主要の問題点として掲げ、研究を行う。

### 4、真の復興を東北で学ぶ

本学では、持続可能な産業を築くことから真の復興を目指す。震災で失ったものは大き



く、残念ではあるが、震災から新しいものを創生できる可能性も秘めている。東日本大震災が起こった傷跡が残る東北、世界有数の漁場を有する東北で、地元産業を生かした「東北水産業のブランド化」「東北グルメ大国」など東北水産業の創造を担える人材の育成が不可欠である。また、東北水産業の政策を立案し、実現できる指導者を養成することが、課題となっている。雇用を生み出し、若い世代が東北で働く道筋をつくる研究と実現を果たす役割を本学が請け負う必要がある。

## 5、世界へ発信させる軸となる

水産白書によると、日本の食卓では料理に手間がかかるため魚離れが進む半面、欧米や中国などでは健康志向から魚の需要が拡大している。生活習慣病の防止などの観点から、潜在需要はあると指摘し、価格安定に向けた漁獲量拡大への取り組みの必要性が訴えられている程である。近年、欧米の魚の消費量は2倍になり、中国に至っては消費量が5倍にも跳ね上がっている。世界的な日本食ブーム、寿司ブームの人気によってマグロの需要が高まっているが、最近ではマグロだけではなく魚類全体の需要が右肩上がりとなっている現状である。中国においては、海洋エネルギーの採取、海洋汚染問題、そして中国とロシアによる魚の乱獲があるため、日本の魚、水産物を大量に買い付ける。そのため、魚の値段が徐々に高くなってしまい、価格の安定化を求められている。また、将来のアジア、アフリカといった新興国の世界人口の増加を考慮すると、世界一人あたりの水産物消費量は右肩上がりになっていくと考えられる。

大量買い付け、人口増加による水産物の需要に備えるために、本学では授業や研究を通して、養殖での大量生産に力を入れる。元々、三陸沖はカキ、ホタテ、ホヤといった養殖地として有名であり、海洋面、指導者の環境が整っている。大量に作り、付加価値をつけて高く売るサイクルを作ることで、世界のニーズに応えるとともに、東北水産業の復興を遂げることができると考えられる。

中国の大量買い付けの現状と、生物の鮮度の関係から、主にアジアを中心に東北水産業を広げて行きたい。また、東北水産業の復興だけでなく、地震、津波の研究所として世界から学生を集め、学びの場を提供する。そのためにも、世界から留学生を迎え世界中の大学ネットワークを広げる必要がある。

## 6、高等専門学校の必然性

東日本大震災を経て、東北の水産業が復興するためには、自然災害に備えた政策や、将来を見据えた養殖研究、高い価値で売るために地元を生かしたブランド化など東北の水産業を創造できる人材が必要である。このような地域活性化、マネジメント、研究に貢献できる人材を育成するという教育目標を実現するためには、専門、短大の2年間という修業期間では不十分である。また、4年制大学であると、研究の時間としては適切であるが、

学生が水産を学ぶタイミングに問題がある。高等専門学校にすることで、中学卒業後という若いうちから水産の基礎を学ぶことができ、大学と比べて実験や実習も多く行うことができる。カリキュラムは、バランス良く配置されているので5年間で大学とほぼ同程度の専門知識や技術を身につけることが可能である。

また、高校から大学というコースに比べ途中の入学試験がないため、受験勉強にわずらわされずに勉強ができる。高等専門学校は社会から高い評価を受けており、平成18年度では16.8倍の高い求人倍率がある。大学では、自由応募制が普通であるが、高等専門学校ではほとんどが学校推薦制であるため、大変有利に就職活動も進められる。

そして、卒業時には、世界で本学でしか取得できない「水産高度専門士」の称号を付与することとし、学生に高い付加価値をつける必要がある。

## 第2項 高等専門学校の概要

### 基本的な理念

新たに設立する高等専門学校は次の基本的な理念に基づく。

- 1、 東北水産を創造する
- 2、 東北復興を目指す学生が集まる
- 3、 世界市場に応え、発信する

### 学部・学科の構成と入学定員

4学部4学科で構成する。

また、学生の定員については、1学年150～200人程度とし、他に4年次編入枠（20人程度）を設けることとする。

### 教育・研究体制

#### 教育方針<sup>15</sup>

東北が海洋立国として発展し、国内、国際貢献を担うためには、「海を守り、海を育て、世界に発信」するための教育研究の中心拠点となる必要がある。このような基本的観点に立ち、本学は、海洋に関する総合的教育研究を行い、次の能力・素養を有し、実践できる人材を養成する。

---

<sup>15</sup> 東京海洋大学 <http://www.kaiyodai.ac.jp/> を参考に引用

- 一、 東日本大震災を経て東北の海を復興するデザインマネジメント力。
- 二、 東北の水産業を世界市場に発信する IT マーケティング力。
- 三、 地域に密着した連携活動や地域貢献に基づいたローカルブランディング力。

#### ■ マリンマネジメント学科マーケティング専攻

##### 教育目標 <sup>16</sup>

- 1、 消費者が何を求め、何を必要としているのか、企業が今何を行わなければならないかを適切に判断する。
- 2、 現状、事象を論理的・客観的に分析することであり、それに基づき行動をすること。
- 3、 マーケティングセンスとサイエンスのもとに、いかに効果的に顧客満足を達成するかに関するマーケティング能力を養うこと。

##### 概要

マーケティングとは、「売れる仕組み」をつくることである。具体的には顧客の視点で物事を考え、どのようなニーズや不満があるのかを調査し、それを満たし解決するような商品やサービスを開発し、効率よく特徴を顧客に伝え購入を促す活動全般を言う。

本学科では、マーケティングの科学的な分析力を身につけ、多様でグローバル化が進む時代に必要な完成を磨き、戦略的な発想で、企画、立案、実行ができる人材を養成する。

##### 特色

本学科では、養殖した水産物をどのように高い値段で販売するか、ブランディングマーケティングや働き甲斐や雇用の問題といったもっとも身近な問題に対応するために人的資源のマネジメントに関する科目を配置し、現代の要請に応えた幅広いカリキュラムを通して東北水産業の社会の未来を読み解いていく。

#### ■ マリングローバルビジネス学科オリエンタル専攻

##### 教育目標

- 1、 国境を越えて移動するモノ、カネ、サービスを研究対象とし、激動している現代の世界の動き、世界の水産業や水産物の市場、世界的水産物のニーズに注目する。

---

<sup>16</sup> 東洋大学 経営学部 国際地域学部 [http://www.toyo.ac.jp/rds/drds/index\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/rds/drds/index_j.html)

を参考に引用

- 2、 貿易および、グローバルビジネスに携えるために必要な知識を取得し、異文化コミュニケーションやビジネス交渉などの企業活動も理解して、国際舞台で活躍できる人材を育成する。
- 3、 日本をはじめとする、オリエンタル＝東洋に焦点を絞り、東北とアジアの国際関係学と、中国、東南アジアの水産物市場を学ぶことから東北水産業の問題、養殖マーケティングの課題を客観的に評価できる能力を養う。

## 概要

日本の経済が世界の経済と密接な関係を保ちながら存在するように、いまや企業活動は世界市場を抜きにしては考えられない。本学のオリエンタル学科では、東洋、アジアに焦点を絞り、世界と日本との貿易や経済の関係を一貫して学ぶことで、日本の企業活動や経営を世界的な視野に立って研究する。

同時に、異文化コミュニケーションやビジネス英語、実践的バーバルを学び、「国際マーケティング」、「国際コミュニケーションツール」の双方から東北水産業ビジネスを世界にリードする人材を育成する。

## 特色

本学科では、世界の中でも東洋に焦点を絞り、どのように東北水産業を発信するかといったメディアデザイン科目、貿易関係と世界経済科目、そしてコミュニケーションツールである外国語科目の3つを中心に、東北水産業を客観的に考察する。また、4年次では希望者から選考で若干名、水産業が発達している北欧地域、アラスカ地域への1年間派遣留学、1か月程の短期留学制度を設けている。

## ■ マリンテクノロジー学科エコロジー専攻

### 教育目標<sup>17</sup>

- 1、 世界三大漁場である東北の海を環境面から守り、生態面から育て、自然環境の総合的理解と環境中で生じている問題の解決を目指す。
- 2、 養殖業、生体機能の応用、食料の持続的生産と効率的利用と、その安全性や養殖の食育について多面的な視点から学ぶ。
- 3、 健康的・文化的な生活を支える住まいと建築、都市と地域、さらに海洋から地球環境までその仕組みを理解し情報化してよりよい環境を作り上げるための知識と技術を身につける。

---

<sup>17</sup> 滋賀県立大学環境生態学科 <http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/gakubu/kankyo/seitai.html> を参考に引用

## 概要

東北の豊かな環境の中で、自然と人類の共生社会の創造、環境に負荷をかけない、安心・安全な食料生産を目指す教育研究の指針として、生物多様性を活かした持続可能な養殖技術と、それらの社会経済的側面を総合的に研究する。具体的には、新しい養殖技術の開発、海洋衛生、東北の環境保全・修復、建築等についての理解を深め、生命科学分野に対応できる幅広い人材を育成する。

## 特徴

本学科では、養殖実験や野外研修が用意されている。この研修では、山梨県水産技術センターや宮城県復興会社で養殖業に取り組んでいる「OHガッツ」など養殖や、環境科学に関する現場で研修することにより、現在行われている最新の技術や研究について学ぶことが可能である。また、地震津波といった自然災害や建築、海洋環境を学び、人と自然が安心して共生できる社会の実現に取り組む。

### ■ マリンソーシャルコミュニティー学科ウェルビーイング専攻

#### 教育目標<sup>18</sup>

- 1、 東北の地域発展に貢献することを目指し、環境との調和を図りながら地域の特性を生かした「まちづくり」とその持続的な発展を実現できる知識と実行力を有した人材を育成する。
- 2、 人々の心の問題も視野に入れた豊かな福祉コミュニティの創造に貢献でき、地域社会の福祉リーダーとして地域社会で起きている問題に主体的に取り組む人材を社会に提供する。
- 3、 地域のくらしや、産業、人々の生活を視野に入れつつ、心の問題に関わる専門的人材を育成する。

## 概要

東北を感じ、追求する力、東北をマネジメントする力、地域を持続的に発展させる力を身につけ、豊かな地域を創造する担い手を育てる。地域には、歴史や文化、環境が継承されている。本学のウェルビーイング学科では、その価値を再評価するとともに、地域が抱える現代的な課題を調査、分析する手法を取得し、活力あふれる地域づくりの方策を考え

---

<sup>18</sup> 法政大学 現代福祉学部 <http://www.hosei.ac.jp/> 参考に引用

るための研究と実験を行う。NPO 活動や、シンクタンク、地元企業との連携事業を通じて、地域の活性化、地域振興に貢献できる人材を育成する。

### 特色

本学科では、本学と地域社会との関係を深めるためのプランニングや、東北地域の歴史、伝統、と東日本大震災後の現代文化との比較、そして東北の美しさをどのように発信するか、といった IT、メディアに関する科目を配置する。（下図参照）

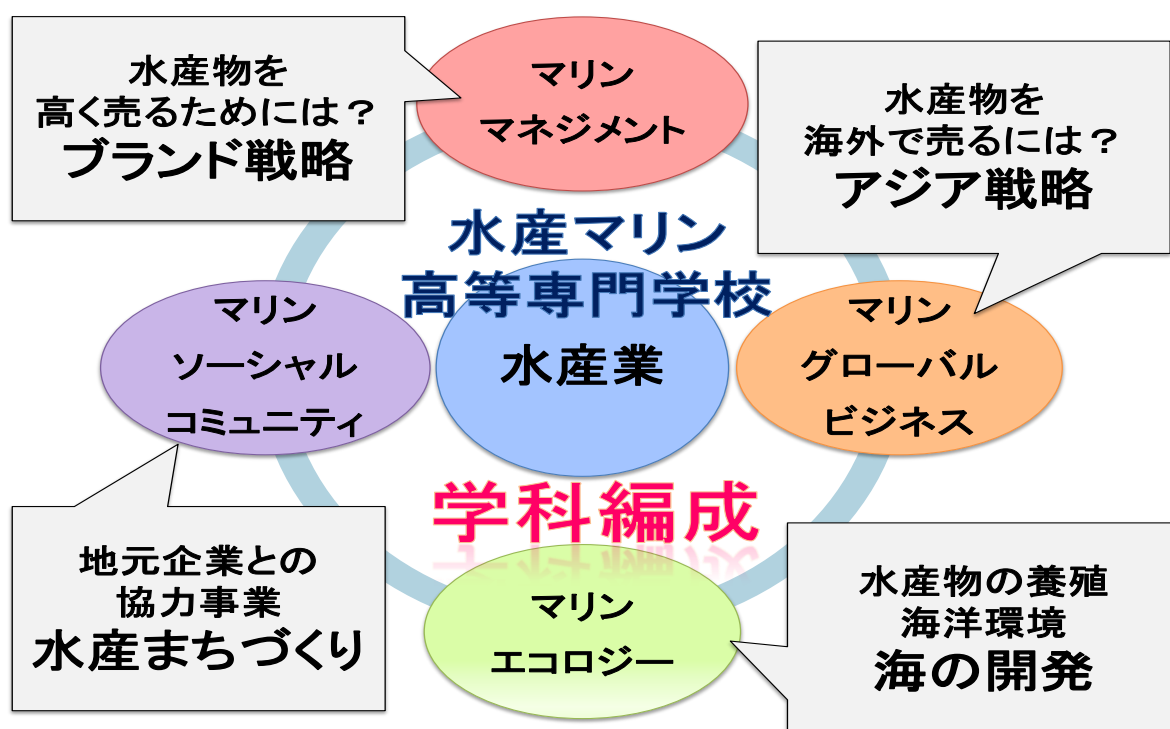


図 21 19

また、東日本大震災をはじめとする歴史的大地震、大津波に備えたまちづくりの研究にも着目し、歴史、現代、将来の3面から東北地域を発展させる企画、研究、実験を行う。

19 久恒啓一(2004年3月) 実践!-仕事力を高める図解の技術 ダイヤモンド社 を参考に作成

### 第3項 教育課程の編成と特色

#### 教育科目群

豊かな人間性を養うための幅広く深い教養だけでなく、各々が所属する専門教育へと導く助走路としての役割を担う科目群。東日本大震災を代表とする歴史的大地震、大津波の教養科目や、グローバル化に対応した外国語科目、東北の食を支える水産業教養科目も含む。

#### 本学の特色、設備

##### 1、 養殖授業

本学では、学生全員が養殖に携わる。養殖物は、牡蠣、帆立、ホヤ、サンマ、サケ、アワビから選択することができ、3～4年の長い期間をかけて育てる。

##### 2、 お料理教室

本学では、感覚で友人との交流、食事に行くような感覚で行きたいときにいつでも行ける気軽なお料理教室を実施する。本学の学生だけでなく、近所の方や興味のある方で、6歳以上の老若男女だれでも参加できる地域交流の場を提供する。そこでは、本学の養殖した魚などの水産物を必ず使用し、調理方法、レシピを伝授し、食がもたらす喜びや食生活の大切さを広げる教室にする。パソコンや携帯電話から24時間予約ができ、好きな時間、好きな先生が選べるシステムとする。料金は日払い制で、レシピや時期によって料金は変動するが3000円程度とし、1割は水産業支援に募金する。

##### 3、 マリン食堂（学生食堂）

学生食堂では、本学の学生が養殖した水産物を使用したメニューや、宮城米、牛タン、納豆、笹かまぼこ、仙台みそ、ずんだもちといった食材大国、宮城県の特産物を使ったメニューが格安で食べることができる。季節ごとに旬の食材を味わうことができ、海鮮丼、東北食材を使ったコース料理、東北食材バイキング、と言った催し物も期間限定で行う。本学の昼休み以外は誰でも食堂を利用することができ、食材は近所の農家から仕入れ、地元のレストランシェフがローテーションで日替わりメニューを考案して頂くこともある。都会には見ることができない緑豊かなのどかな町並みを見ながら食事ができるのびのびとした環境を創る。

##### 4、 オイスターバー事業

本学の学生食堂の場所を利用し、カキの収穫時である9～10月の午後18時以降から、期間限定で「オイスター（牡蠣）BAR」を催す。牡蠣は学内で養殖したものを使用し、一般の人でも利用できる。

##### 5、 マリンミュージアム

本学では、養殖の過程を一般の方にも見て、学んで頂けるようなミニ博物館を併設する。入場料は無料とし、小学生の夏休み自由研究の手助けとなるような分りやすく、面白い企画を本学の学生が行う。

## 6、 マリンスーベニアショップ（購買）

本学の購買では、文具、文庫、軽食の販売だけでなく、養殖で作った魚介のエキスを使用したミネラル豊富なシャンプーや化粧品、本学特製の魚介ふりかけなど本学独自のブランドを立ち上げ、商品を販売する。

## 7、 東鳴子温泉足湯<sup>20</sup>

宮城県東鳴子温泉は江戸時代中期に開湯した歴史ある湯治場である。東鳴子温泉は美肌効果の高い重曹泉を中心に多彩な泉質に恵まれ、沢山の人を癒している。本学が東鳴子温泉を毎日温泉輸入し、本学に足湯を設置する。誰でも利用することができ、料金は学生無料、その他一般の方は100円と低額で利用することができる。本学に足湯を設置することで、東鳴子温泉のターゲットである20代女性に気軽に親んでもらえるきっかけが作れ、本学でも話題となり、東鳴子温泉、本学の宣伝に繋がる。

東鳴子温泉では、平成14年を境に東鳴子温泉の客足は激減していることが問題となっている。本学の足湯を利用して頂くことから、東鳴子温泉に興味を持って頂き、実際に足を運んで頂くことができれば、本学と東鳴子温泉のコミュニティーを向上することを目的とする。

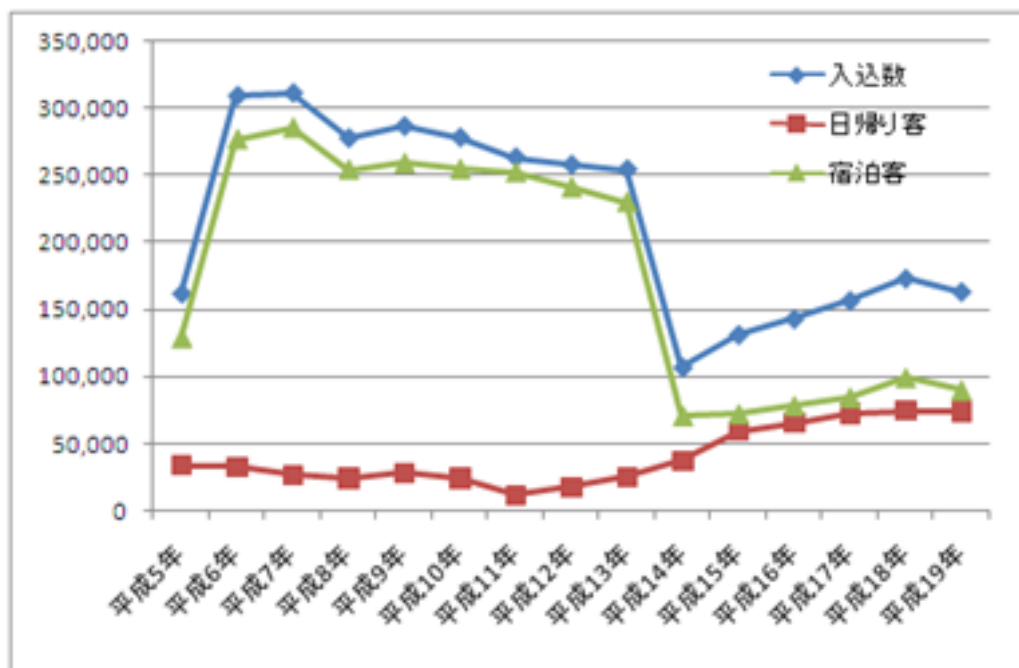


図 22

<sup>20</sup> 2009年度多摩大学インターゼミ『東鳴子温泉活性化に向けて都会の若者からの提言』  
[http://www.tama.ac.jp/guide/inter\\_seminar/img/20091226\\_higasinaruko.pdf](http://www.tama.ac.jp/guide/inter_seminar/img/20091226_higasinaruko.pdf)



## 8、クルージングツアー

地域の人や、養殖業に興味がある人、船が好きな人のために、本学の文化祭の期間限定で、クルージングツアーを設ける。1日3便で雨天中止とするが、東北の海を船でまわり、実際に養殖をしているところを見学して頂く。本学が学校としての役割だけでなく、「スクールシティ」として地域の人、観光客にも来て頂けるよう、研究と実践をする。

### 学びのプロセス

1年次の学生は、5つの本学共通科目、「東日本大震災」「歴史的な大震災・大津波」「東北伝統文化」「東北モダン文化形成」「東北水産業現状」を中心に学び、一般教養科目、外国語科目にも取り組む。また、全ての学生の学内養殖を必修とする。

2年次の学生は、学部を問わず4学部（マリンマネジメント、マリングローバルビジネス、マリンテクノロジー、マリンソーシャルコミュニティー）における全ての「序論」を幅広く学ぶ。

3年次の学生は、各々の学部の専攻科目に特化しつつ、地元企業との連携事業やインターンシップなどの学外からも知識を取り入れる。

4年次の学生は、3年次と同様であるが、希望した学生全員が本学と協定を組んでいる全国の国立、私立大学で学部を問わず1年間の国内留学に行くことができる。学生自らが本学のPRを兼ねて他大学、異なる地域から東北を見ることで思考の視野を広げる。また、希望者から選考で海外留学、短期留学にも参加できる。

5年次の学生は卒業研究に向け、高度な知識と技術、思考力を身につける。

### 教員組織

専任教員の体制については、カリキュラムの実施に必要な、教授、准教授、助教授とし、専任教員以外の教員については、カリキュラムの編成上の必要性、高等専門学校としての魅力発信の観点、知名度の向上など、それぞれの目的に応じて職を設置し、必要に応じて、水産業関係者、地元企業の方、芸能人、著名人を起用する。

### 第4項 他大学や民間企業との連携

設立にあたり、「日本復興を目指す若者が集まる中心の場」という観点から、宮城大学、東北大学などの宮城県内の大学を始め、日本全国の大学との単位互換や共同授業により、本学と他大学、相互の学生が刺激し合える環境を提供する。

また、多種多様な企業や行政との共同研究や共同開発も行う「連携事業」や大学から企業へのインターンシップ派遣、学内養殖物の販売、レストラン事業も行う社会貢献活動を実効性のあるものとする。

## 進路

本学卒業後は、就職、4年制大学への編入、海外留学などの進路が挙げられる。就職面においては、水産業関係、水産加工関係、貿易関係、地元企業など水産業を中心とした様々な分野の学校推薦枠を用意する。

## 第5項 問題点、課題

### 校舎設立の問題

本学では、宮城県の廃校校舎をリフォームして設立する。宮城県だけでも20の高等学校が合併などの理由により廃校となっている。廃校校舎をリサイクルすることで、環境的にやさしい。また、リフォームをする際に、今回の東日本大震災から地震、津波に強い建築とし、安心して通える学校となる。

### 養殖の問題

養殖業を行う上で、漁業権問題がある。漁業権とは、漁業者が生産を確保するために一定の区域に与えられた漁業を営む権利である。そのため、宮城県沖では、漁業権を持っている人でしか漁業をすることができない。だが、本学では、漁業権を持っている企業、漁師に交渉し、共同で養殖を行うため、安心して養殖業をすることができる。

### おわりに

東日本大震災を経て東北のまち、人、仕事と大変大きなダメージを受けた。震災後は「日本は大丈夫」と言ったテレビCMが連日流れたが、これでは、根拠がない。元々、少子高齢化が進んでおり、若者の東北離れがさらに進行して行くと考えられるため、そのような地域の復興は難しいと考えられる。そこで、「若者」「水産業」「長期的復興プラン」というキーワードの下、若者が自然と復興に参画できる高等専門学校設立案を提案した。

この高等専門学校設立を機に、4年制大学、大学院設置の展開の可能性、発展性もある。

学生が東北で東北の伝統やモダン文化の良さを理解できるきっかけを創り、新しい東北の価値観を生み出すことが東日本大震災後の日本創生であると考えている。

## 第5節 観光と水産業のリンク

### 1 はじめに

2011年3月11日に日本観測史上最大の地震が起きた。被災地ではガレキ撤去や清掃活動など短期間の労働ボランティアや長期的・継続的に被災者と関わる生活支援のボランティアが行われている。一方では直接被災地にボランティアへ行くのではなく、被災地でとれた野菜や水産物などを購入し応援しようとする動きや物産展などが各地で行われている。

### 2 宮城県の観光事情

2010年の宮城県観光客数が約981万人で過去最高であった。観光客数が増加した要因としては高速道路料金割引効果が継続されたことや新規オープンした「道の駅」を代表する観光施設が好調であるなどが考えられる。

宮城を観光で訪れた多くの人に長期的かつ継続的に被災地・宮城を支援してもらうため『宮城県水産業復興支援パーク』を提案する。

### 3 宮城県水産業復興支援パーク

『宮城県復興支援パーク』（以下、復興支援パーク）とは、市町村や各漁協が連携を図り観光客誘致のため一致団結し、観光客と水産業を触れ合わせる環境を整備することである。

#### ①概要

“水産総合デパート”を造り、水揚げから水産加工、そして物流まで全てを一手に担う。また、水産関連のテーマパークを併設し、水産業についてより深い興味を持ってもらい、魚を中心にした食生活のメリットなどを多くの来場者に知って貰う資料館を併設する。水揚げの様子から、水産加工、出荷の様子まで全て来場客が、見て、体験して学べる施設を造り、体験乗船や体験養殖など水産事業会社を中心になって様々なイベントを行い、東北へ内外の人が足を運ぶような仕組みや観光ルートを作る。

#### ②設立の意義

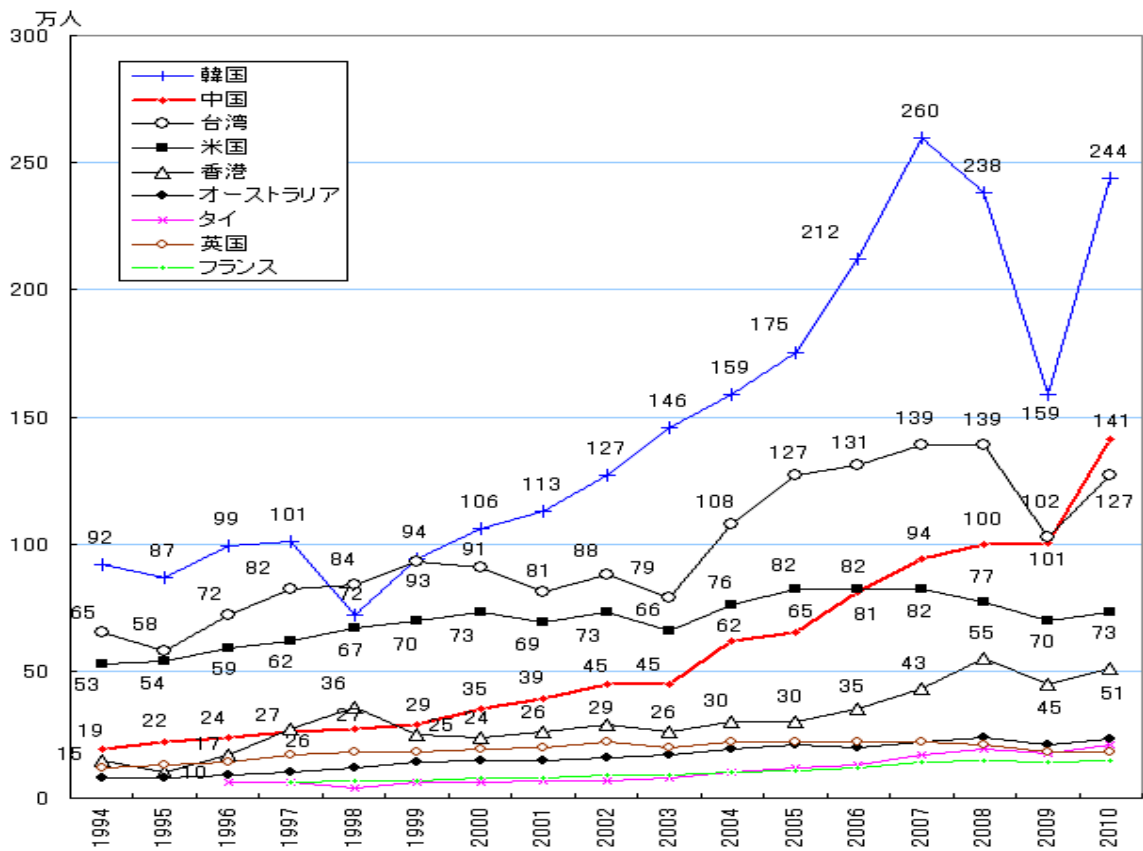
設立の意義は大きく3つある。

I、世界三大漁場でとれる水産物を水揚げの瞬間から日本だけでなく世界の人に見てもらい、味わってもらう。

宮城県震災復興計画の中には「本県の代表的な景勝地の一つである松島や被害の比較的少なかった内陸部等が中心となって観光復興の取組が進められていますが、風評被害、交通インフラの未復旧等により観光客は大きく減少しています。このため、観光情報の発信や、交通インフラの復旧・充実を図るとともに、DC（デスティネーションキャンペーン）等の観光キャンペーンの実施、インバウンド（外国人旅行者の誘致）への対応強化、新たな観光ルートの構築、震災の経験を生かした観光復興の取組等を推進し、多様な魅力を有するみやぎの観光を再生します。」と書かれているように外国人旅行者を取り込む計画が盛

り込まれている。訪日外国人旅行者の第一位は韓国、第二位は中国であり（図 23）、韓国・中国は世界の水産物の 1 人当たり年間消費量が日本に次いで多い国である（図 24）。特に中国は近年経済成長が著しく、水産物の消費量が急激に増えている。世界三大漁場の三陸沖で水揚げされる新鮮な水産物をその場で食べることができ、加工品を土産にすることもできる宮城県は日本人だけでなく中国人旅行者や近年健康思考が高まり魚の需要が多くなってきている欧米各国にとっても魅力的な観光地であると考えられる。

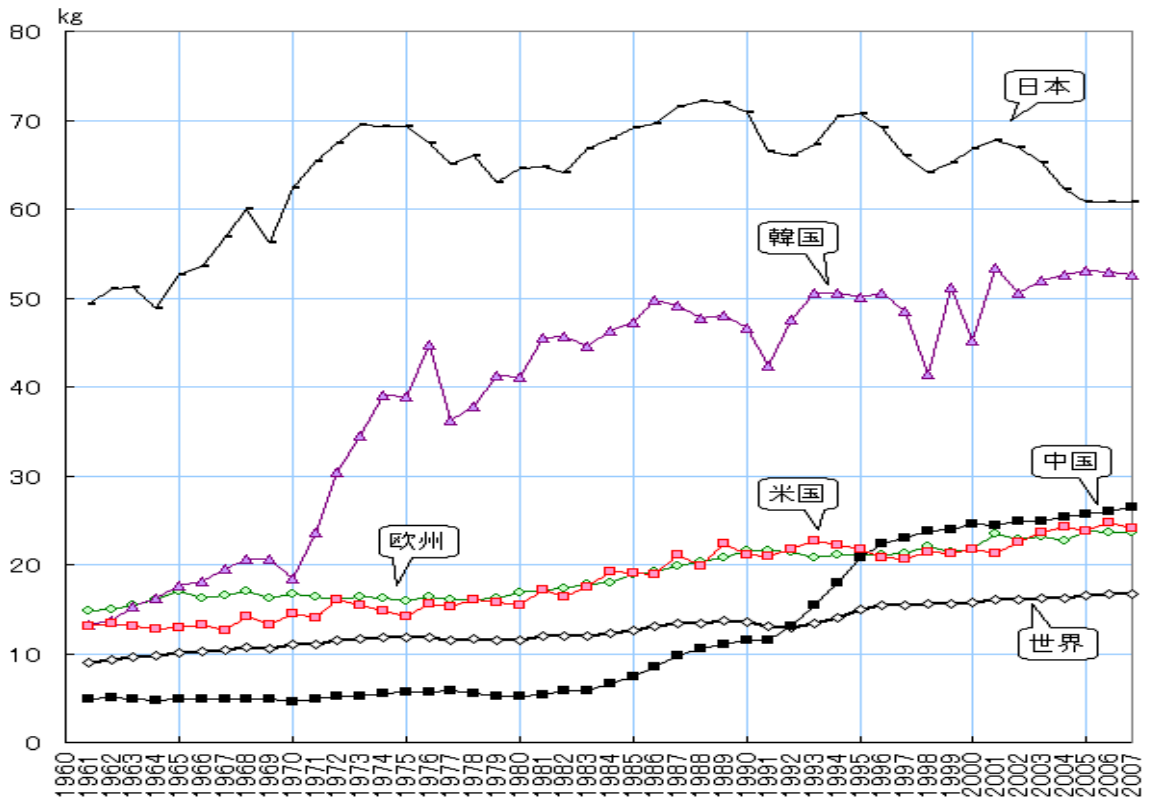
訪日旅行者数の国別推移



(注) 最新年次は JNTO の推計値 (資料) 観光白書、日本政府観光局 (JNTO)

(図 23 : 訪日旅行者数国別推移)

世界の1人当たり食用水産物年間消費量の推移



(注) Fish, SeafoodのSupply/Cap/Yr (Kg)の推移である。欧州は英仏独伊4カ国の単純平均  
 (資料) FAOSTAT Food Supply 2010.7.24

(図 24 : 世界の一人当たり食用水産物年間消費量の推移)

II、震災の資料館を気軽に、しかし必然的に立ち寄ってもらう。

今回の震災は世界中の人々にとっても非常に衝撃的であり、関心の高い出来事である。復興支援パークでは震災が起きてからの復興の歩みや被害を受けた漁船、施設の写真を展示し訪れた観光客が復興支援パークを訪れると必然的に見て学ぶことができるようにする。

III、次世代を担う若者に水産業に触れてもらう機会を作り、後継者の育成につなげる。

第一次産業であり日本にとって重要な産業である水産業だが、年収の低さや世襲制などの問題から後継者不足となっている。後継者不足問題の原因の1つは多くの人が水産業という業種に直に関わる機会がなく、水産業の魅力を知らずにいることにあると考えられる。牡蠣や帆立、アワビなどの高級食品を養殖するものづくりのプロフェッショナルや、市場の動向を見極めて新しい笹かまぼこなどの商品開発を行うマーケティングなど漁師以外にも水産業に関わる現代の若者が興味を示す職種が数多くある。水産高等専門学校と連携し全国から小・中学生を対象に公開講座を開き水産業について知ってもらう情報提供の場を作る。

以上の3つが復興支援パーク設立の意義である。

#### 4 宮城県の観光資源

宮城県には多くの観光資源がある。今回の論文は水産業復興と観光についてなので海に面している三陸エリア～仙台エリアの観光資源について記述していく。

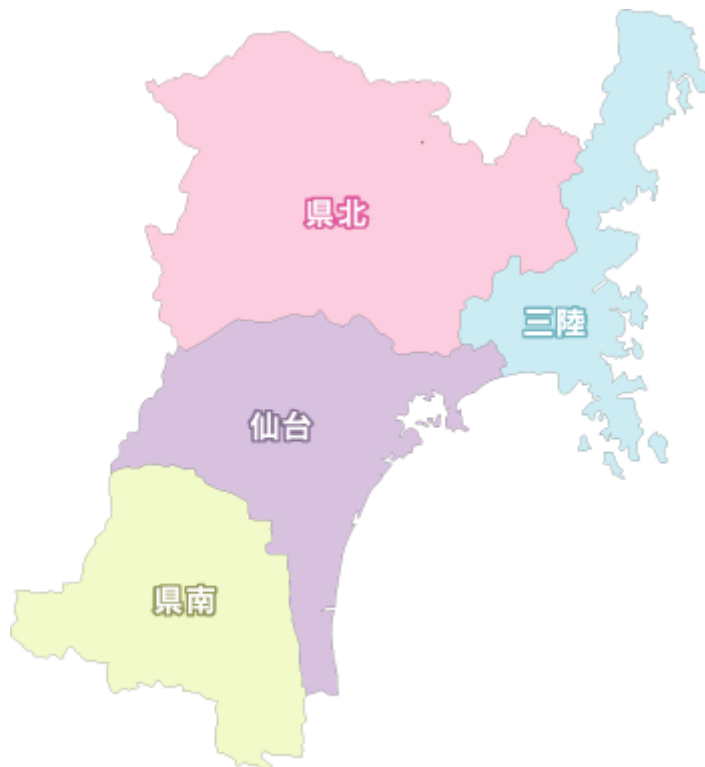


図 25

##### ① 三陸エリア

宮城県北東部の太平洋沿岸、石巻、気仙沼・本吉地方は、「黄金海道」と呼ばれている。その名の由来は、まず奥州藤原氏四代の平泉黄金文化を支えた金の産地が、このエリアに散在していたことにさかのぼる。その証として、今も当時産金を行った坑道の跡地がたくさん残っており、藤原氏や源義経の伝説が数々あることやゆかりの深さを物語っている。また、日露戦争中の明治37(1904)年には、現在の気仙沼市の鹿折金山から、重さ2.25kg、金の含有量83%という金鉱石が採掘され、世界から注目された。モンスター・ゴールド＝怪物金の異名をとったこの金鉱石は、日露戦争の戦費調達にあたり、明治政府の威信を保ったともいわれており、その経緯は小説「坂の上の雲」(司馬遼太郎作)にも描かれている。

三陸エリアは世界三大漁場である三陸沖に面しており、気仙沼で水揚げされるフカヒレや広島県に次いで生産量全国2位を誇る牡蠣、石巻港で水揚げされるブランドサバの金華

サバ、ホヤやアワビなどが有名である。

気仙沼市では市の階上観光協会が主催している地引網体験に参加することができる。遠浅の海水浴場であるお伊勢浜で行われる地引網体験では獲れた魚は持ち帰ることができるほか、その場でバーベキューにして食べることもできる。

## ② 仙台エリア

仙台エリアには万葉の昔から歌枕として用いられ、「宮島」や「天橋立」と並び日本三景の1つに数えられる、松島湾内外にある大小260余りの諸島「松島」がある。また伊達政宗が心血を注いで完成させた瑞巖寺をはじめ国重要文化財・五大堂や円通院等の絢爛豪華な桃山様式に彩られた仏閣や茶室など歴史的建造物を目にすることもできる。遊覧船や水族館、伊達政宗や松尾芭蕉の歴史観や資料館の他にも松島さかな市場といったレジャー施設がある。

このエリアに仙台塩釜港（仙台港区）、仙台塩釜港（塩釜港区）、松島港の3つの港があり、仙台塩釜港は特定重要港湾であり北米西海岸に最も近い日本の港として、世界に開かれた東北の海の玄関口として地域経済の発展に大きく貢献することが期待されている港である。

## 5 観光ルートの提案

### ①日本人観光客向け

日本人に提案する観光プランは「宮城県食べ歩き一泊二日の旅」である。宮城県は海産物以外にも牛タン、ずんだもちなどの特産物がある。

東京駅から8時12分発の東北新幹線に乗り9時48分仙台駅に到着し、一日目は宮城県の定期観光バスに乗り松島や仙台城を巡り夜は石巻に宿泊をする。二日目は石巻の朝市に行き新鮮な魚を食べ、地元の人と交流や震災資料館の見学の後、仙台市内に帰ってくるプランである。

高速道路を利用し車で宮城県を訪れる場合は海岸線をドライブしながら道の駅を利用するプランもある。

### ②外国人観光客向け

外国人観光客は主に中国人旅行客をターゲットとする。中国から北海道に飛行機で来日してもらおう。北海道で世界三大夜景の一つとされる函館で観光し一泊、翌日青函トンネルを通り青森から東北新幹線で宮城まで移動する。宮城では中国人観光客に「世界三大漁場で収穫した旬の魚」という付加価値を付けて購買意欲を沸かせる。購入した魚は瞬間冷凍技術を使い鮮度を保ったまま中国へ輸送するシステムを作ることで、何度も宮城県に魚を買い付けに来るリピーターを生むことにも繋げる。宮城を後にし新幹線で東京に移動し観

光の後帰国、という3泊4日のプランを提案したい。

## 6 体験型・参加型イベント

復興支援パークの目玉は訪れた観光客が実際に水産業の体験ができることである。

### ■ナイトクルーズ

夏休み親子限定で夜明け前から漁船に乗り込む底引網漁業体験や地引網漁業体験ができる二泊三日の旅行プランの提案をする。海での遠泳経験がある親子でかつ中学生限定で漁船に乗り込む前には乗組員の方から安全対策に関する講義にも必ず出席してもらい、乗船中はライフジャケットの着用を義務付ける。この体験を通して子ども達には同じ海の中でも場所によって収穫できる魚の違いなどを学び、夏休みの思い出や自由研究に役立ててもらおう。一日先着一組限定とし、通常の漁業業務に支障をきたさぬようにする。

### ■笹かまぼこ作り

宮城県名物の笹かまぼこを、かまぼこにする魚から体験者自身が選び作る体験ができる。生魚を触る体験やさばく体験ができる他、手作りする楽しさも学べる場所にする。

### ■養殖場でのえさやり体験

銀鮭など魚を養殖している場所でえさやり体験ができる。勢いよくえさを食べる魚の迫力を間近で見ることができ、養殖場見学もできるようにする。

### ■大漁旗のデザインコンテスト

大漁旗とは漁に出た漁船が大漁で帰港する際に船上に掲げる旗のことである。デザインの多くは海上でも目立つよう、あるいは縁起を担ぐ目的で派手な色彩や大胆な構図で描かれることが多い。震災によって多くの漁船を失ってしまった人たちの新しい船の漁船に欠かすことができない大漁旗のデザインを国内外、プロ・アマチュア問わず多くの人から公募し毎年コンテストを行う。復興への願いや応援など前向きなメッセージをデザインの中に盛り込み、審査は漁師や漁港で働く全ての人で行い自分の船に掲げる大漁旗を選んでもらう。

応募作品の中から一つだけ漁船ではなく港の一番目立つ位置に掲げその年の港のシンボルとなる大賞作品を選出する。大賞を選ぶ審査員として釣り好きの芸術家として知られている嵐の大野智を起用する。芸能人を起用することによってファンを新たに観光客として獲得できるメリットがあり、国民的アイドルであり世界（特にアジア）でも人気の高く日本の観光立国ナビゲーターも勤める嵐のメンバーを起用してアジアからの新たな観光客増加にも繋げていく。



#### ■牡蠣の殻剥き大会（8月～4月）

東北マリン高等専門学校（仮）の学生が授業の一環として養殖を行った牡蠣を利用して学園祭や学校開放日には観光客を招いて殻剥き大会を開催し、自分で剥いた牡蠣をその場で味わうことができる観光スポットを作る。この殻剥き大会は牡蠣を収穫できる8月から翌年4月までの期間限定のイベントとして「特別感」を演出することにより、多くの来場者数を狙う。このようなイベントを行うことで学生は自分が養殖した牡蠣を食べてもらう機会を得られモチベーションを維持、向上できるメリットがある。学園側のメリットはイベントを行い、来校客を多く取り込むことで学園の宣伝にもなり今後の入学者を確保できる。

その他にも学園主催のイベントは宮城県や自治体、観光協会の協賛を得られる仕組みを作り、学園だけのイベントでは終わらない市町村、県と一体になり毎年3月11日前後の休日には「宮城県復興祭」という名の祭りを開催する。復興祭では地域の人たちが主役となり観光客と触れ合いながら震災の体験談などの生の声を聞けるブースや、地元の人と観光客が交流を深め再び宮城を訪れてもらう継続的に宮城と関わってもらうための絆をつくる場とする。

## 第5章 まとめ・今後の課題

本年3月の東日本大震災からの復興をテーマに研究を進めていく中で、単なる元に戻すだけの復興でなく、長期的な将来を見据えた再生、創生を考える中で、学生視点から見た独自に水産業を軸に以下の5つの提案に収束することができた。

1. 国民“志”ファンド
2. 水産事業会社
3. 技術を生かした水産加工事業
4. 東北マリン高等専門学校（仮称）設立案
5. 観光と水産業のリンク

実現性、収益性、継続性など、不安要素は多々あるものの、世界三大漁場という水産資源に恵まれた環境、IT、日本の水産加工技術を最大限生かし、21世紀型の新しい形の水産業を創生する方向性を見出した。

そして、東北グローバル・イノベーションの実現に向け、

- ・宮城で捕る
- ・宮城で創る
- ・世界で売る

をテーマに「宮城の価値を世界へ」と結論つける。（資料5参照方）

本研究にかかわることで被災地の実情への理解が深まっただけでなく、自らも何らかのかたちで被災地復興に携わりたい気持ちが強くなった。復興への道のは長期に渡るであろうし、様々な問題で困難もあるだろうが、金銭的支援だけでなくかかわっていききたい。また、研究に関連する事例としてOHガッツという宮城県の漁業復興を目指す会社を知ったのはとても有意義であった。OHガッツが提案する金銭的支援だけでなく、実際にプレイヤーとして復興に携わるという経験を通じて被災地のサポーターをつくっていくという手法が、マーケティングの考え方としても斬新で大変勉強になった。引き続きOHガッツの活動は注視していきたい。

2011年5月と9月に宮城県七ヶ浜町に現地支援に行った。港もなにもかもが壊滅的な状態で復興・復旧にはかなりの時間を要するだろう。また、今回の論文作成により東北の将来の様々な可能性を見出すことができた。

隣国、中国の現状から新鮮な鮮魚を内陸部へ輸送する技術を持っていないことも判明し、それを補うことができる日本の技術を活用することにより、現地の需給関係を満たすことができる点に着目した。更なる市場発展が見込まれる中国と共に歩んでゆけば、東北の可能性は広がると考える。

2011年10月下旬に東京の代々木で行われた東北食の福幸祭を訪れた。

その時に模擬店を出していた何人かの東北出身の漁師の方と軽い会話を交わした。ほとんどの人が家を失った、家族を失った、職を失ったと非常に心が痛くなるバックグラウンドがあるにも関わらず、東北を復興させたい！水産業を立て直してもう一度仕事をしたい！という熱意にあふれていた。そこで、震災で壊れてしまった物を元に戻すといった復旧ではなく、新たなものを創るという当研究を経て、将来の東北の人、まち、産業がどのように発展していくのかが今からとても楽しみである。

同時に「OH ガッツ」の発起人の立花さんと直接会う機会を得られ、強いリーダーシップ、構想力、そして何より人柄の良さを感じられた。単に素晴らしい仕組みだけでなく、実行し継続するためには、心、意識のあたたかいつながりが重要であると痛感した。

(資料7 「OH ガッツ」の戦略 参照方)

本研究から東北に愛着がわき、再度、東北を訪れ、更に深く見て聞いて今回の研究をより明確化させていきたい。

以上

## 謝辞

本研究の全過程を通じて、研究の指針、考え方、的確なアドバイスをいただいた寺島実郎学長、様々な資料を提供いただき、根気良く懇切なるご指導をいただいた久恒先生、長田先生、木村先生、豊かな経験から貴重な意見をいただいた大学院生の柳生さん、研究のスタート時リーダーシップを発揮された田邊さんらに心より感謝の意を表します。

また、震災の被災まもない6月に我々学生のために、貴重な時間をさいていただいた鳴子温泉の大沼様、河北新報 栗原支局長の宮田様、本研究の基調となる復興対策の事例をみせていただいた「OH ガッツ」の立花様、伊藤様、そして、インターゼミ生みんなの世話をみていただいた学長室の高野さんに感謝の意を表します。

最後に、自らも忙しい中、我々に学びの機会を与えてくれた両親、家族、そして、論文を書く力を与えてくれた学友に感謝いたします。

参考資料

資料 1 農業への被害

## 農業への被害

- ・約**2.4万ha**の農地が冠水(水田20千ha、畑3.4千ha)。岩手県、宮城県、福島県で**2.3万ha**。
- ・農業関係の被害額は新潟県中越地震の**約8.2倍の8,418億円**(農地や農業用施設等の被害額が**7,903億円**、農作物や家畜等の被害額が**515億円**)。

**津波により冠水し、がれきに埋まった農地(宮城県仙台市)**



**【津波による田畑が流失・冠水被害(6県)】**

県名	流失・冠水等被害推定面積	田畑別内訳試算	
		田	畑
青森県	79 ha	76 ha	3 ha
岩手県	1,838 ha	1,172 ha	666 ha
宮城県	15,002 ha	12,685 ha	2,317 ha
福島県	5,923 ha	5,588 ha	335 ha
茨城県	531 ha	525 ha	6 ha
千葉県	227 ha	105 ha	122 ha
合計	23,600 ha	20,151 ha	3,449 ha

(資料)「津波により流失や冠水等の被害を受けた農地の推定面積(平成23年3月)」

※  は震災による被害が確認された17県



**【農業関係被害】**

被害内容	被害数	被害額
農地の損壊	17,456箇所	3,992億円
農業用施設等の損壊	21,867箇所	3,911億円
農作物、家畜等の被害	—	118億円
農業・畜産関係施設等	—	397億円
合計	—	8,418億円

**破損した農道(岩手県奥州市)**



**がれきの堆積した幹線排水路(宮城県名取市)**



新潟県中越地震の被害額(1,026億円)の**約8.2倍**

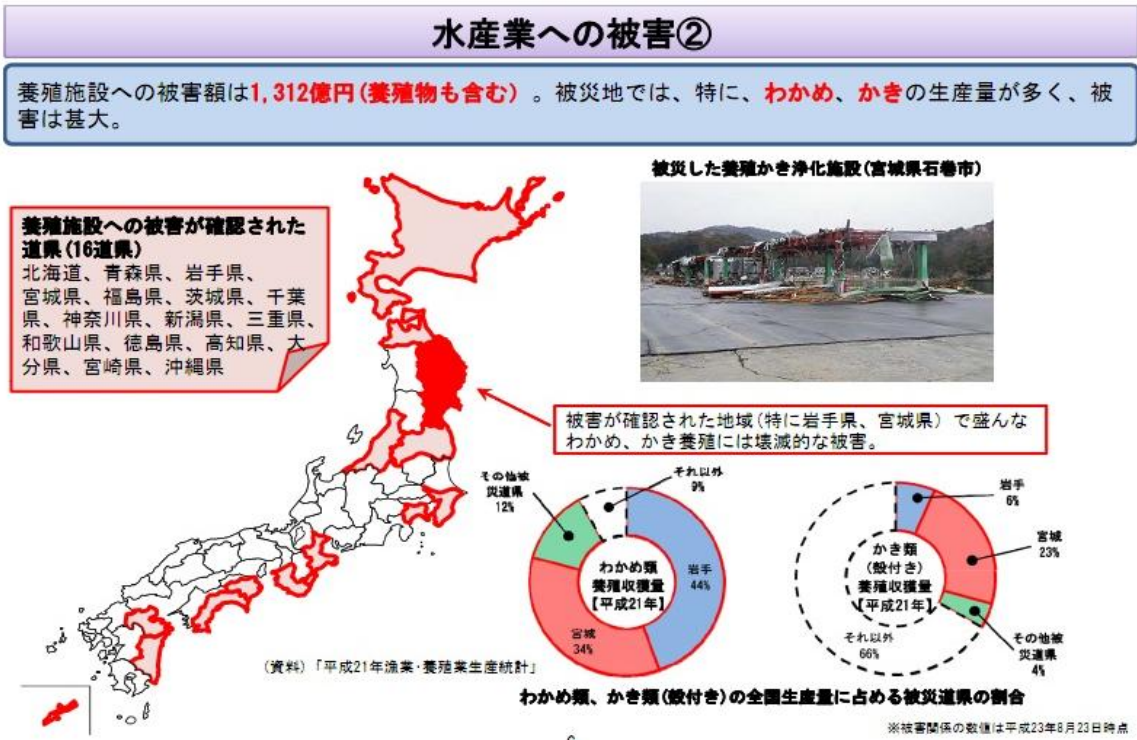
※被害関係の数値は平成23年8月23日時点

資料 2 水産業への被害 1



5

資料 3 水産業への被害 2



6



ミュージックセキュリティーズ社長

小松 真実さん

東日本大震災の被災地支援の新たな手法として小口の応援ファンドが注目を集めている。宮城の水産加工会社や福島酒蔵など復興資金を1口1万5000円から募る。仕掛けたのはミュージックセキュリティーズ(東京・千代田)社長の小松真実(36)。すでに約1万4000人から目標額の半分を超す4億7000万円近くを集めた。

起業は多摩大学卒業後の2000年。社名にもあるように、新進音楽家を支えるファンドが出发点だ。自らも根っからの

ファンドで夢を応援

音楽好きで、ロックバンドでドラムをたたいていた。だが成功は一握り。熱意はあっても夢を諦めざるを得ない人が多い現状を変えたいと、ファンらが活動を応援する仕組みを生み出した。

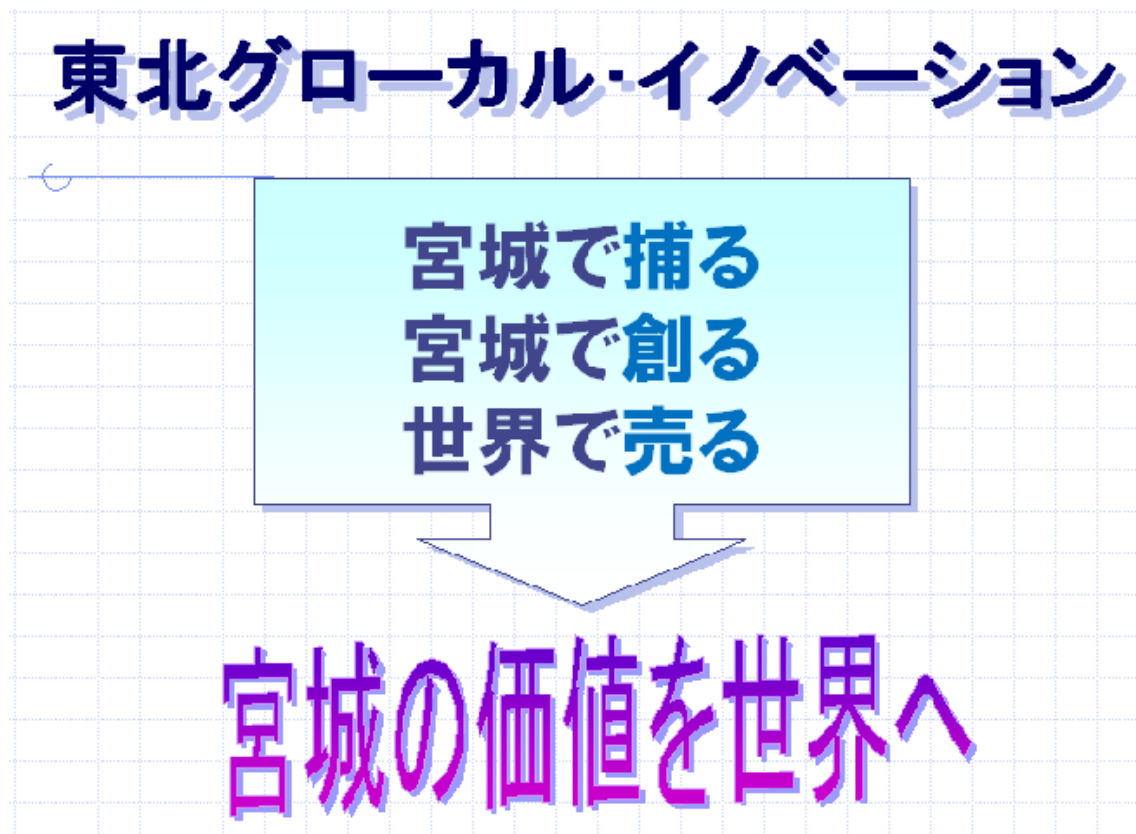
音楽家の支援資金を小口で募り、それを元手に音楽CDを売り出して利益が出たら出資者に分配する。元本割れのリスクも伴うが、コンサートへの招待など出資者に特典を設け、CDの販売実績をネットで詳しく公開するなど、「徹底的に説明責任を果たす」ことで信用を高めてきた。

酒蔵、タオル製造など地場産業や農産物……。対象も広がり、ファンドは約20業種、140案件を超えた。そこへ今回の震災。手法を役立てたいと、1口1万5000円のうち5000円は返金が不要な応援金として投資を呼びかけた。

被災地では津波にすべて流されて担保がなく借り入れが難しい中小企業が多い。被災地応援ファンドで得た資金を工場や機材の修繕などに充てるだけでなく、担保として金融機関から融資を取り付けるなど資金循環も生まれているという。

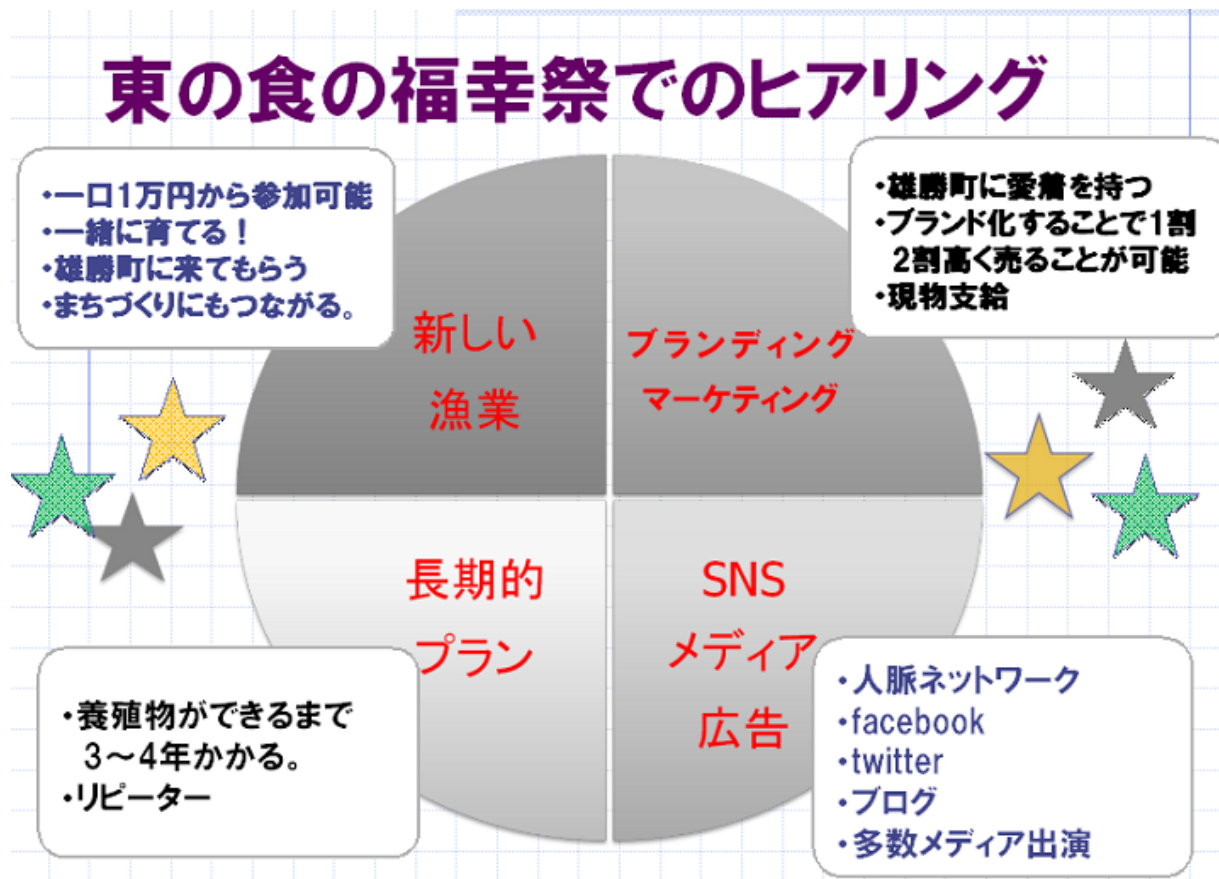
出資者も相手の顔が見え、充実感が得られる。資金を出すだけでなく、ネットなどで支援先の商品をPRする「勝手連」的な動きもあり、「被災地支援にびったり」と手応えを感じている。

パルコと連携し、今年から新進ファッションデザイナーの育成ファンドも立ち上げる。「こだわりの持った、かっこいい人を応援したい」。夢を追う才能との出会いを求めて全国を飛び回る。









## 参考文献

### 出版物

- 寺島 実郎(2011年7月) 世界を知る力—日本創生編  
水産白書 平成22年度 水産庁  
日本産食品のモニタリング調査(2011年3月) ジェトロ(日本貿易振興機構)  
藤井聡(2011年5月) 列島強靱化論  
榊原英資(2011年4月) 日本をもう一度やり直しませんか  
池上彰(2011年5月) 先送りできない日本  
勝川 俊雄(2011年11月) 漁業復興に必要な資源管理と加工・流通業への支援 エコノミスト  
染川藍泉(1981年8月) 震災日誌 日本評論社  
大地震・市民編1995(1996年5月) 長征社編 長征社  
吉村昭(1973年8月) 関東大震災 文藝春秋  
吉村昭(2001年3月) 三陸海岸大津波 文春文庫  
住田功(2003年9月) 語り継ぎたい命の尊さ～阪神大震災ノート 一橋出版  
久恒啓一(2003年3月) 事業構想学入門 学文社  
久恒啓一(2004年3月) 実践!-仕事力を高める図解の技術 ダイヤモンド社

### 先行研究(論文)

- 昌子住江：“震災復興計画の推進体制—帝都復興院をめぐって”  
日本土木史研究発表会論文集 1985年6月 pp.257～263
- 首藤伸夫, 山太滋, 畠崎武雄, “昭和8年三陸大津波後の復興事業とその今日的意義”,  
日本土木史研究発表会論文集 Vol.3 (1983)pp.63-73
- 盛岡通, 藤田壮, 阿部吉男, “阪神大震災の際の地域コミュニティの生活支援の形成に  
関する社会システム研究” 環境システム研究 Vol. 24 pp.235～242, 1996.10.
- 戸所 隆, “阪神・淡路大震災復興にみる21世紀まちづくり”  
地理学評論 Ser. A, Vol. 69 (1996) No. 7 pp.625～637

## 新聞

読売新聞 (2011年11月11日) 「復興増税合意、基本方針の理念骨抜き」

読売新聞 (2011年9月30日) 「震災後初、電気料値下げ」

朝日新聞 (2011年3月13日) 「世界三大漁場 三陸沿岸の漁港破壊」

東洋経済 (2011年5月14日)

インターネット (参照日:2011年12月23日)

寺島実郎(2011)「環境経済の核心」

<http://eco.nikkeibp.co.jp/em/column/terashima/index.shtml>

水産庁公式サイト内の「漁師になろう」<http://www.ryoushi.jp/>

地域漁業学会編(1998年) <http://jrfs.org/>

合同会社 OH ガッツ <http://oh-guts.jp/>

一般社団法人三陸海産再生プロジェクト <http://www.sanriku-pj.org/>

東日本大震災復興対策本部 <http://www.reconstruction.go.jp/>

東日本大震災復興特別区域法案

<http://www.reconstruction.go.jp/topics/2011/10/000220.html>

マルハニチロ (<http://www.maruha-nichiro.co.jp/>)

観光情報ポータルサイト 体験プログラム チキタビ <http://tikitabi.com/>

宮城県 HP <http://www.pref.miyagi.jp/index.htm>

宮城観光 NAVI!! <http://www.pref.miyagi.jp/kankou/>

宮城県震災復興計画

<http://www.pref.miyagi.jp/seisaku/sinsaihukkou/keikaku/keikaku.pdf>

東日本大震災津波災害状況調査 <http://pwrc-nagisa.jp/gaiyou.html>

国際連合食糧農業機関 (FAO) 日本事務所 <http://www.fao.or.jp/>

日経BPnet 2009年11月30日 第31回凍結技術の進歩

<http://www.nikkeibp.co.jp/article/column/20091130/198132/?rt=nocnt>

JAPAN ECHO.net 2011年6月8日

<http://japanecho.net/jp/disaster-data/1402/>

秋田公立美術大学設置基本構想案 (仮称)

[http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/eu/junbi/1st/1st\\_siryou2.pdf#search='](http://www.city.akita.akita.jp/city/pl/eu/junbi/1st/1st_siryou2.pdf#search=')

神戸高専 <http://www.kobe-kosen.ac.jp/>

沼津工業高等専門学校 <http://www.numazu-ct.ac.jp/index.html>

東京海洋大学 <http://www.kaiyodai.ac.jp/>

宮城大学 <http://www.myu.ac.jp/>

東洋大学 経営学部 国際地域学部 [http://www.toyo.ac.jp/rds/drds/index\\_j.html](http://www.toyo.ac.jp/rds/drds/index_j.html)

明治学院大学 国際経営学部 <http://www.meijigakuin.ac.jp/>

明治大学 経営学部 <http://www.meiji.ac.jp/index.html>

法政大学 現代福祉学部 <http://www.hosei.ac.jp/>

滋賀県立大学環境生態学科

<http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/gakubu/kankyo/seitai.html>

2009年度多摩大学インターゼミ 『東鳴子温泉活性化に向けて都会の若者からの提言』

[http://www.tama.ac.jp/guide/inter\\_seminar/img/20091226\\_higasinaruko.pdf](http://www.tama.ac.jp/guide/inter_seminar/img/20091226_higasinaruko.pdf)

〔社会工学研究会〕 震災と日本再生チーム

◆ 第一回フィールドワーク 宮城県 ◆

日時 : 2011年6月3日(土)  
 参加 : 田邊、清滝、小沼  
 場所 : 宮城県東鳴子温泉、河北新報社

・ 目的

震災復興を研究するにあたり、久恒教授と以前から親交のある河北新報社の宮田氏と、以前に社会工学研究会が地域活性化の研究の為にフィールドワークを行った宮城県の東鳴子温泉を再び訪れ、以前お世話になった大沼旅館の大沼氏の両氏から震災直後からの現地の様子を調査するためのフィールドワークを計画した。そして、今後の研究の方向を決定するために3名で調査を行った。

・ 行程

7:30	東京駅集合。はやて 203 号に乗車し一路古川へ。	
10:38	古川駅到着。レンタカーを借りて栗原市へ向かう。途中の飲食店で震災直後からの変化を尋ねる。	
13:30	河北新報社の宮田氏に取材。 ◆取材内容 ・ 停電が発生し県立病院が野戦病院であった。 ・ 震災直後の燃料の枯渇が大問題であった。 ・ 貨幣交換が崩壊し物々交換が行われた。	
15:30	東鳴子温泉到着。 ◆取材内容 ・ 震災直後、大沼旅館が温泉を沿岸部の被災地に提供した。 ・ 内陸の温泉地がボランティアの基地になった。	
19:00	大沼旅館大沼氏のご好意で貸しきり露天風呂を入浴後、東鳴子温泉を出発古川駅でレンタカーを返却後、やまびこ号で帰京。	
22:00	東京駅到着。解散。	

## ・まとめ、所感

フィールドワークに国道を走行中に、行き場を無くした沿岸部の瓦礫を満載した大型トラックが地震で隆起した道路を走行して内陸部へ運び込まれていた。国道沿いには瓦礫の山が出来ていた。東鳴子温泉の大沼旅館では、旅行会社と提携して震災ボランティアツアーの基地としての多くの人に利用されていたが、大沼氏は継続的なボランティアが必要であり時間が経つにつれボランティアの人の数が減少するのではないかと危機感を抱いていた。

この調査を通じて若者を継続的に被災地に呼び込む仕組みを研究する必要があるという結論に至った。

## ・ インタビュー内容

添付資料、参照方

以上

## インタビュー 1 河北新報社の宮田記者



### Q1.震災当時はどこにいましたか？

きのこ栽培ハウスの中にいた。

震度7を記録したのは栗原市の築館だけ。

### Q2.当時、一番困ったことは？

ガソリンとか、ガスはプロパンだから問題ない。

電気がだめ。水道がだめ。

とにかく寒かった。雪が降っていた。

季節はずれの寒さ。

灯油はあったがファンヒーターは電気だから使えなかった。

通信障害。

メール、電話だめ。

公衆電話だけ。

安否確認が一番大変だった。

ガソリンは1,2日後は売ってくれたが、その後は農協組合員か救急車両のみ。

公共交通のみ。

ガソリンがないと生きていけない。

ガソリン不足は3週間にも及んだ。



パトカーもガソリンが無く市役所に泣きついてきた。

重油、軽油不足。

栗原中央病院の自家発電用の燃料があと2日分までしか残っていなかった。

電気が止まると、病院の活動が出来なくなり大変なことになっていたかもしれない。

自家発電の為の燃料。移動用の燃料不足。

最後に暖をとるための灯油の確保が大変だった。

水は給水車。毎日毎日並ぶのはストレスだった。

震災直後は、戦前の日本だった。階級制で、全てが配給制だった。

医薬品不足が大問題だった。まさに野戦病院だった。

県立の基幹病院なのに検査もなにも出来なかった。

物流がとまったことが全ての問題の原因。

ガソリンという血がなくなってしまったから。

その問題をボランティアとNPOが協力してくれた。

### Q3. 東京で報道されていることとこちらで報道されていることでの矛盾はあるか？

地元のメディアと東京のメディアで切り口が違う。

途中から原発問題に変わった。

大手新聞は2日目から原発報道が主体になった。

キー局のニュースは完全に原発中心のニュースのみ。

偏った情報のように感じた。



東京の記者はあまりセンセーショナルリズムの写真。

作為的な、わざとお涙頂戴の様な写真。

現実以上にひどさを強調させる。

逆に河北は生ぬるい。

人の悲しみをもっと伝えるべき、人の心の傷にもっと触るべきだという意見もある。

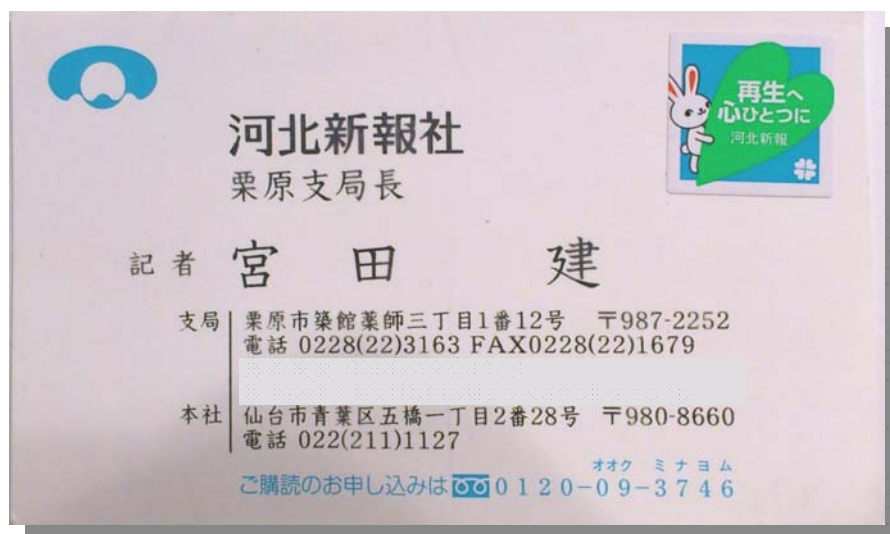
河北新報は被災地の新聞社だから。記者も販売店の方々も亡くなった。

最後に。

避難所での楽しみは新聞だった。

普段新聞を読むことがなさそうな若い人も真剣に新聞を読んでいた。

新聞の情報が一番正確で、生きるための必需品だった。



添付資料 2.

## インタビュー 2 東鳴子温泉 大沼さん取材

6月4日 FW (大沼さん・インタビュー)



大沼旅館さんの震災後のお話から

源泉がある旅館はたくさんあるが、電気（動力が）無いとほとんどなにも使えない。

先祖が、ポンプを使わなくて良い源泉を掘っていた。

それが震災後にはじめてわかった。何日も停電になるとは思っていなかった。

インタビュー途中、お茶を頂く。大沼旅館では、茶会を催しており、FW当日も茶会をしていた。

仙台からの常連のお客様、首都圏からの常連のお客様が多く、笑い声などもインタビュー中に聞かれた。

風評被害の影響はあるが、ボランティアの予約が200人あり、これからは予約どころか抽選で忙しいとのこと。

2009年8月8日読売新聞から 生きがい発見 第三部から  
東鳴子温泉の基礎情報



湯治をテーマにしたイベントも行ってきた。

外国人観光客誘致も積極的に行ってきた。

インターネットに「ニッポンTOJIむら」を立ち上げ、湯治を紹介している。

(お客さんの笑い声が聞こえてくる旅館って良いですね)

今の方は仙台の方で、お茶会をやっていたんですね。

離れでお茶会ができるようになっているので。

(資料を広げながら)

これがマニュアルね。

離れの露天風呂が一番人気があるんですけど。

この温泉が8つある。

今、お茶会を、ここでしていて。

この間もある旅行会社がインバウンド、海外からの日本への

ここだと一箇所だね、

日本の露天風呂、茶事、和食とか、みんな楽しめるから。



(日本文化が凝縮されてますね)

そうそう。

奥の細道、芭蕉もある。そこで県道沿いの長い街道がある。山形越えの。

一番、難所と呼ばれていた、山刀伐峠がここなんですよ。

我々がいる場所で、色んなコミュニティを作ってるわけ。

湯治場に「場」という文字がつくよね。

温泉地の「地」、「地」と「場」の違いです。

「地」とはスポットや其処という言葉だけど、  
「場」というのはもっと空間的な、時間的なものなので、  
是非ともそれを構築して、そこから何かが生まれてくる  
そういう「場」づくりという、交流と言う一つの幸せな・・・  
(お客様の対応中)

戦後、物が無かったから、ハードを一生懸命、ものづくり、旅館で言えば建物、  
少しでもお客さんを入れるように建物を作ってた。  
建物を作ってくると、  
今度は、中。所謂、おもてなし、ソフトになって、  
だんだん、ソフトも拮抗してきて、  
次に私が来ると思ったのは「場」だと思っています。「場」づくり。  
今、お茶会があったけど、彼らがリピーターな訳です。

大沼が良いと思った人のコミュニティです。  
みなさんも多摩大というのも場なんですよ。  
他の大学とは違う多摩大という場があって、  
その中にゼミなど、  
一つのコミュニティ、場があって。  
色んな場があると思うんですけど、  
究極、今は、マーケティングや広告が通用しなくなってきていて、  
これからは顔が見える関係、  
twitter や facebook など、繋がるのは簡単になっているのだけど、  
リアルで繋がるのが  
丸の内大学というのも、  
丸の内の一流会社が金を出している  
会社ではグループができない。





(はい、全然違います)

違いますよね、高揚感だとか。

脳の中のホルモンの出方が変わってるから、免疫も変わってる。

基本的な所です。

物質学だとか心理学だとか、

鳴子って、どんな温泉があるの、と言うと。

まとめると鳴子温泉は日本にある11種類のうち、9種類まで存在している。

こういうことを教えてあげる。

うちは炭酸水素水で、ビアダーデン(?)と呼ばれる所なんですけど、

うちの温泉に入ってから、硫黄の温泉に入るとどうなるの、と言うと。

うちは中性で肌をすべすべにして血行を良くする、

この酸性系の温泉に入ると穴を締める。

こうした一つの組み合わせでも色々な組み合わせが探せます。

なんで旅館に来るとお茶とお菓子が出るの？

水分補給とエネルギー補給なんです。いちはやく疲れてるから。

温泉には入る順番があるの？

どんな宿があるの？

医療的には大丈夫なの？

通信環境は大丈夫なの？、

など、網羅してます。

気候療法というものあって、山の気圧がどう関係しているか、というのも・・・

(お客様の対応中)





温泉というコンテンツは、他のコンテンツとの組み合わせに弱い。  
だからといってさらにわざわざ他に何かを作る必要も無いわけよ。  
田んぼがあったり、森があったり。それを組み合わせてやるのが基本。  
だからその、ドイツで凄く有名なんだけど気候治療って言って治療そのものの自然の中で  
行い身体に刺激を与える。  
それを組み合わせ行う。相乗効果。

体験型の観光地かを目指していて、たとえば湯治コンシェルジュ。  
のんびり美肌コース、ダイエットコース。  
こういったものを相対的に使って場を作っていく。そういうことをやっている。  
でも、他の旅館にとっては宿と自宅で、いわゆる点と点のセグメント。

鳴子温泉  
旅館 大沼

うち(大沼)みたいに、鳴子温泉というところに今のようなものを作ったり、自分の親しい  
人やうち(大沼)から紹介されないと会えないような人を紹介したりなどを目標にコーデ  
ィネートしていて、ま、スペシャルなコースを用意して他のところに泊まる人との差別化を  
図っている(違う世界)

うちが場を作っている(核になっている)  
それでも、うちに関わらず多かれ少なかれやっている。

でもうちは地域資源というものを掘り起こしてそれを上手くつなげる、あるいは人をつなげる。

最も繋げようとしている。

**Q：お客さんはここから近い人が中心ですか？**

そうですね。県内や首都圏。

元々は県北の漁師さんとかが多かったんですよ。

ここ数年の傾向では、農家や漁業者は減ってきている。

その代わりに、仙台とか首都圏などの都市部の人が増えている。

それでコレまで以上に来場客を増やそうとした時に震災が起きた。

**Q：風評被害は？**

首都圏から見ても原発が近いからね。こないでしょ〜ぶっちゃけ

昔から、海外などの客層を呼ぼうとしていたが一層無理な話になった。

結果的にはどういうお客さんと繋がっていくかってこと。

安く泊まれて食べ放題・飲み放題の、伊藤園グループのホテルであったり。

消費マインドは様々。

無理でしょ？

でもね、一ついえるのは復興支援のツアーが凄い。

リボーン。元々エコツーリズムの旅行会社。

で、そこと組んで、まあ被災地を訪れて復興支援をして温泉にはいる。

二回実施済み。



**Q:盛況でしたか？**

20人の応募に対して500人も集まった。

農のバカ

畑を耕す。

半農半X。温泉という付加価値。

ダイズエボリューション。

温泉と一緒にやるのはうちが初めて。

復興支援やって温泉入って畑耕す。

これで地元の休耕田をつかう。

電通のソーシャル局長も来てやった。

企業のCSRってあるでしょ？社会貢献活動。

CSKグループ。これは、経営コンサルティング集団なんだけど。

その労働組合の人も社会貢献活動として七月に三泊二日くる。

石巻のドロ掻きたい。

海外の人に日本に来てもらいたい。さらにハードルは高いけどね。

被災地にも人気のある場所と人気が無い場所がある。

ぜひ、そういう場所にボランティアに行ってもらいたい。

9日にまた、ボランティアが来て喜んでもらえる地域を探しに行く。

そういうこともやっているのだから夏休みはぜひ。

**Q:今日は被災地見てきたの？**

A:行ってないです。

百のこと聞くより一度見てきたほうがいいよ。

何にも無いからね。スカッとして。

逆に一部言えば残っている地区。若林地区とか。

逆にそれもそれで悲惨だね。生活感が残っているから。見て欲しいね。



~~~~~

ライフカフェ。リボンと提携してやっている。  
私の旅館に泊まってもらって、避難所に入ってケーキやコーヒーを作って提供する。  
被災者とコミュニケーションを図る。

だけど、そんなの要らないっていう人もいるからちゃんとリサーチして行っている。  
出来ればそういうソフト支援を出来るだけ貰って瓦礫の撤去や心のケアをやっていただきたい。

長いスパンで行うことが必要。

(若者が集まる東北というテーマに対して)

大きな志だと思います。  
先程から述べているように。  
この大震災が一つの、大きなきっかけになる。  
国家創生の方にも寺島先生は言ってらっしゃいますが。  
えーと、日本再生、人間再生でしたっけ？

使わなくなった田んぼが増えてきて、  
みんなで耕して、大豆を植えて、  
大豆というのは味噌と醤油、糖分、豆乳、米があれば、大豆があればおかずになりますね。  
まあ、若いうちは食べませんが、枝豆もありますし。  
食、というか土を、ようするに使わなくなった土、荒れた土を耕して、  
食という命に直結するものを自ら作り出そう、という事です。

その、かいた汗を温泉で流す。  
血行を良くするだとか、気持ちを和らげる。  
土と人間、両方を活かす取り組みが農バカ。  
これは一人一人がやっていけば日本は復興します。  
これはミニマムバージョンです。

言ってしまうと東北にはそういう資源がある  
それをいかに若者たちが入ってきてくれるか  
持続可能な活動をしていけるか  
一つのテーマとなっています。  
テーマとして、やっぱり食べ物。  
食べ物と人間性の回復。  
やっぱりコンビニの飯ばかり食べているとおかしくなる。  
(食材王国宮城の。)

一緒なのかもしれませんが、表裏一体なのです。  
人間は食べ物で出来ているのです。  
食べ物に満ち溢れている、東北は。  
編集力、啓発力がないから、そのまま魅力のない土地になっているけど。  
本当は大自然こそが宝になってくる。

2050年になると水が通貨の代わりになってくる。

何処にあるか、というと東北にあるんですよ。

そういったものを活かしていかなければ日本は生き残れないのですよ。

(お客様の対応中)

ある意味、九州や西は大陸から文化が入ってきていて

大陸から物や文化が入ってきますし、

神社行ってもそうですけど、メンタルもだいぶ変化されていますし(?)

東北というのは縄文の気というか、まだまだ残っている。

日本人の精霊、万物に神がやどる、自然にやどっている。

自然そのものを崇める。自然と共生してきた、というのがあるので。

その時の心と言いますか。

今の若い感性で、自然とどう共生していく、

自然と共生する文化とは、経済とは、を考えるのが、

まさに東北、そういう経済を考えていく。

(ゴルフ場は?)

あるんだよね。北関東と比べれば少ないですね。

茨城と比べると少ない。

(自然と共生しようとしているから少ない?)

そこまで考えているか解らないけどね。

ライフラインが止まった時点で、

ライフラインが無くて暮らせる、懐かしい未来。

それが一番、未来型社会だと思います。

電気こなくて、電気の蓋が開かずにトイレができなかった。

最新型、ぜんぜん、それが使えなかった。

庭に穴掘って、してたのだから。

今回は脆弱さ。今の進化と言ってきた資本主義の果ての

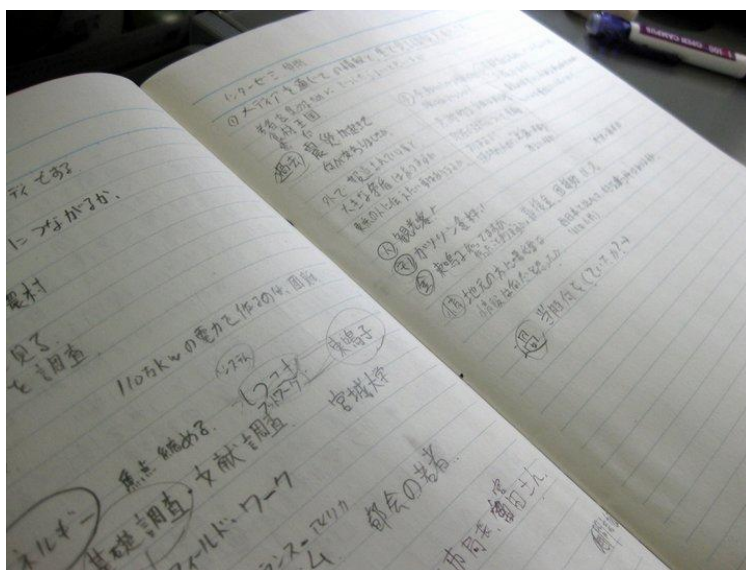
効率主義、経済主義がいかに脆弱であったか。

原発をはじめ、そういったものに頼らず、未来が開ける。

鎖国をしていた時代って、みんな日本内で回っていた。

物を売る人がリサイクルしていた。  
もう輸入0です。  
自給率100%ですね。  
賢い国民なんだから、  
未来をどう考えるか、消費者がいるだけでない。  
素晴らしい先生に出会えてよかったね。  
期待しておりますので、頑張ってください。  
ぜひ、ベースキャンプ、いらっしやってください。

大沼さま、今日は、貴重なお時間をいただきありがとうございました。  
継続し、研究テーマとして活動しますので、引き続き、ご支援宜しく申し上げます。



以上

〔社会工学研究会〕 震災と日本再生チーム

◆ 第二回フィールドワーク 東の食福幸祭 ◆

実施日 : 2011年10月29日(土)  
場所 : 東京・原宿の国立代々木競技場  
到着時刻 : 10時30分  
参加者 : 中村

**\*目的**

我々が論文のテーマにしている宮城県の水産業復興をすでに行っている合同会社「OHガッツ」の関係者が、宮城県から東京の代々木でのイベントで出店しているので、直接インタビューを行うことと、OHガッツの発起人である立花 貴様のトークショーに参加すること。

**\*日程**

10:30 代々木公園到着  
11:00 OHガッツブースを見つけ、伊藤代表にインタビュー、名刺を頂く。  
12:00 昼食(OHガッツが提供していた、イクラ丼とちゃんちゃん焼きを頂く)  
13:00 立花様のトークショーに参加  
14:00 立花様にインタビュー(雄勝町に来てください!と仰って頂き名刺交換)  
15:00 インターゼミのため九段下へ向かう



**\*インタビューの内容・まとめ**

OHガッツは、雄勝町に心を置く人を「そだての住人」と名づけ、5万人を目標に掲げている。「そだての住人」には1口1万円のオーナー制度に参加してもらい、資金を集め、資材を購入し、数年後に収穫した水産物をオーナーに発送する。「そだての住人」は単に



お金を出すだけではなく、雄勝の町と人をつながりながら、一緒に水産物を育てていきます。実際に住む人は1000人未満であっても、雄勝の町とつながる人を増やし、「日本の新しい町・漁業の形」をつくる目的である。募集から2か月で1500口以上の応募があり、テレビや新聞などメディアでも取り上げられている。



### \*所感

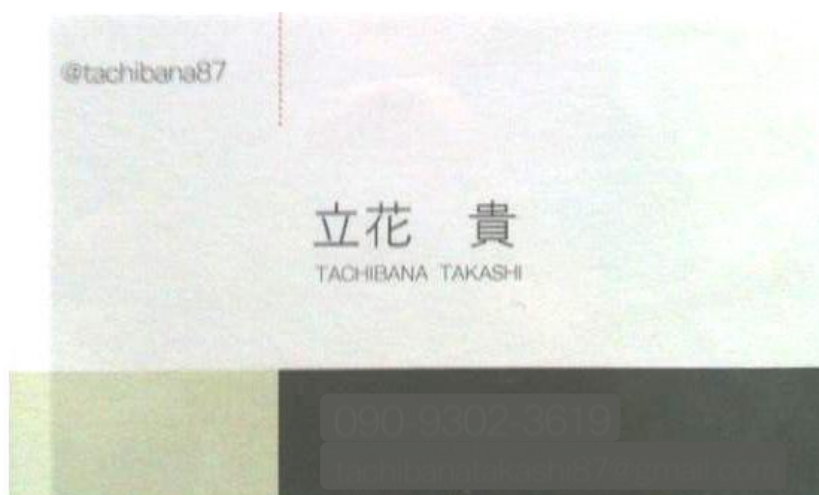
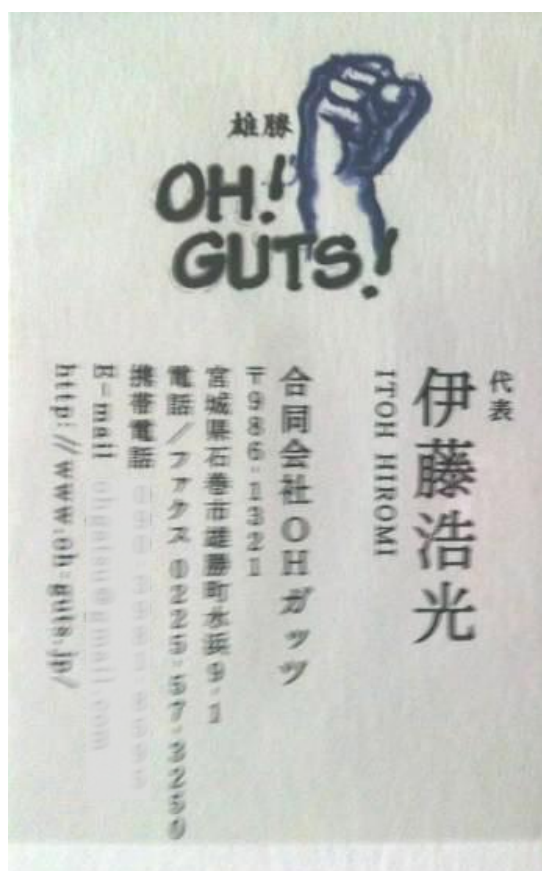
発起人の立花様は沢山の人に雄勝の綺麗な海、空気、美味しいものを食べに来てほしいとのことから毎週土日に渋谷から雄勝まで送迎をしている。話の内容や、リーダーシップ、顔つきも含め雄勝町を復興させたいという熱意にあふれている方だと感じた。

伊藤代表は「とにかく、沢山の人に美味しいカキやホタテ、鮭を食べてほしい」と仰っていた。また、自身の家が流されたという大変な被害に遭われていても、新しい漁業を復興させたいとのポジティブな考えと熱意を感じた。

以上

参考資料 1

伊藤代表、立花様の名刺



参考資料2 イベントの概要

注) アドバイザーに 野田一夫 多摩大学名誉学長の名がありました。

PRESS RELEASE



Food Relation Network  
フード・レーション・ネットワーク



2011年10月吉日  
一般社団法人 東の食の会

**来場者 10 万人に東日本の食の復興を PR  
秋の収穫を祝う「東の食の福幸祭」を開催 (10/29・30 代々木)**

**岩手・宮城・福島・千葉・茨城、被災地5県の復興ヒーロー20 名が自慢の品を披露**

**復興を目指す東日本の生産者リーダーと東京の食関連企業をつなぐ「東の食の会」と  
生産者と都市の人々をつなぐ ap bank プロデュースプロジェクト「Food Relation Network」が主催**

東日本の食の復興と創造の促進および日本の食文化の世界への発信を目的とした一般社団法人 東の食の会(東京都渋谷区、代表理事:楠本 修二郎、高島 宏平)と一般社団法人 APバンク(東京都、代表理事 小林 武史)が推進する日本各地の生産者と都市で生活する人々をつなぐプロジェクト Food Relation Network は、本年 10 月 29 日(土)~10 月 30 日(日)に、国立代々木競技場 オリンピックプラザで、秋の収穫を祝い幸せを願う「東の食の福幸祭」を開催致します。

岩手・宮城・福島・茨城・千葉の被災地5県から 20 人の「復興ヒーロー」(※)が参加し、マルシェや屋台形式で自慢の商品を販売すると共に(試食・試飲あり)、フードプロデューサーと呼ばれる有名店シェフが東日本の食材を用いたメニューを提供し、来場する 10 万人の一般消費者に向けて東日本の食品産業の復興をPR致します。

※ 復興ヒーローとは:東の食の会は復興に向けて雇用を担っていく地域のリーダー達を「復興ヒーロー」と呼んでいます。一人でも多くの復興ヒーローが生まれるよう、東の食の会は地域のリーダー達と支援側をつなぐマッチング事業を進めて参ります。

■ **東の屋台ストリート”Table for TOHOKU”**: 来場者と生産者が食べながら気軽に **コミュニケーション**  
会場内に長テーブルと椅子を用意し、屋台で購入した料理や飲物を座って楽しみ、来場者と生産者とのコミュニケーションができるスペースを設置します。

以下、東の食の福幸祭に参加する復興ヒーローの一部をご紹介します。(ご取材頂けます)

**<石巻雄勝で新しい漁業: 直接消費者とつながり、一緒に漁業・町を育てる 5 万人の「そだでの住人」>**

● 合同会社 OHガッツ(宮城県石巻市 雄勝町) 代表 伊藤浩光氏が参加。

・ 提供商品: 秋鮭のちゃんちゃん焼き(定置網で揚げた鮭とネギ、えのき、しいたけを鉄板で焼き、あわせ味噌で味付けする豪快な漁師料理)を振舞い、雄勝の自然の素晴らしさについて語ります。

・ 震災エピソード:

震災前 4,300 人であった雄勝町の住人は震災後 1,000 人未満に。そこで、雄勝の復興を目的に、雄勝の漁師たち 12 人が水産物の養殖・加工・販売などを展開するOHガッツを本年 8 月に設立。OHガッツは、生産した牡蠣、ホヤ、帆立、銀ダラを直接消費者に販売する事業を中心に、雄勝に訪れる人を増やし、地域の活性化につなげます。

OHガッツは、雄勝町に心置く人を「そだでの住人」と名づけ、5 万人を目標に掲げています。「そだでの住人」には1口1万円のオーナー制度に参加してもらい、資金を集め、資材を購入し、数年後に収穫した水産物をオーナーに発送します。「そだでの住人」は単にお金を出すだけでなく、雄勝の町と人をつながりながら、一緒に水産物を育てていきます。実際に住む人は 1000 人未満であっても、雄勝の町とつながる人を増やし、「日本の新しい町・漁業の形」をつくります。

募集から2ヶ月で 1500 口以上の応募がありました。先月に実施した牡蠣の稚貝投入イベントでは、東京などから 200 人が参加し、オーナーが自らの手で稚貝をロープにくくりつけ、雄勝の海に沈めました。11 月には、帆立の稚貝投入イベントを開催する予定です。

12 人の漁師のうち、2 人は東京から参加。東の食の会 理事 立花貴は東京での 20 年間ビジネスマン生活から一転、東京にあった住民票を雄勝町に移し、OHガッツに参加しています。



▼復興ヒーロー 12名の漁師



▲提供商品: 豪快な漁師料理  
秋鮭のちゃんちゃん焼き

### <宮城県塩釜市： 地元の地域活性化に向けて、こだわりの餃子で販路を開拓>

#### ●株式会社蜂屋食品株式会社

・地域：宮城県塩釜市

・取扱商品：「はちやの餃子」、「まんまるもちもち水餃子」ほか

・東日本大震災のエピソード：

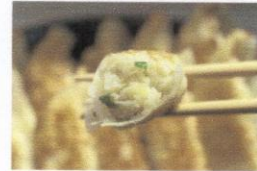
震災の影響で取引先が津波の被害に遭ってなくなったり、他社に取引が奪われるなど、売上の減少の影響を受けています。

地元の野菜を活用することで被災地活性化につながる支援ビジネスを進めていきたい」と語っています。

現在、東の食の会プロデュース商品「松島白菜餃子」を開発中であり、

11月の販売を目指しています。

・当日販売商品：各種餃子



▲提供商品：はちやの餃子

「松島白菜餃子」で利用する「仙台白菜」は、約100年前に中国から伝わり、一大産地を築き、一世を風靡した伝統野菜。塩釜に比較的強い野菜。震災後、宮城での生産の再開を支援するために、産消提携で協力し、復興のシンボルとして産地を元気にし、地域活性化を目指しています。

### ■ 20人の被災事業者と50組以上のアーティストが来場・「東日本大震災復興祭 2011」概要

東の食の福幸祭は、音楽イベント「東日本大震災復興祭 2011」の一環として実施されます。

- 企画名：「東日本大震災復興祭 2011～子供たちの未来のために～」
- 内容：音楽関係 5 団体が発起団体となり「音楽、お笑い、食」の力で被災地の人々を癒し、心の復興を支援することを目的として行われるもので、入場券売上げの全ては、震災で被災し親族や経済的基盤を失った子供たちの未来を応援する目的に使われます。
- 日時：2011年10月29日(土)、30日(日)
- 場所：国立代々木競技場(代々木第一、第二体育館、SHIBUYA-AX、オリンピックプラザ)
- 発起団体：一般社団法人 日本レコード協会、社団法人 日本音楽事業者協会、一般社団法人 日本音楽出版社協会、一般社団法人 日本音楽制作者連盟、一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会出
- フードエリア出展：Food Relation Network、一般社団法人東の食の会
- 参加アーティスト

#### 音楽

ASIAN KUNG-FU GENERATION、いきものがかり、三代目 J Soul Brothers、東京スカパラダイスオーケストラ、ユニコーン、麻生夏子、Kalafina、スフィア、飛蘭、妖精帝國、河野マリナ、黒崎真音、佐藤ひろ美、JAM Project、茅原実里、牧野由依、SDN48、吉川友、ぱすぽ☆、他

#### お笑い

東貴博、あばれる君、アルコ&ピース、アントキの猪木、ザ・アンモナイト、うしろシティ、エルシャラカーニ、エレファントジョン、えんにち、オテンキ、鬼ヶ島、ケチン・ダ・コチン、コウメ太夫、ゴー☆ジャス、ザ・ゴールデン・エンジェルズ、しゃもじ、ザ・たち、ダブルブッキング、ニッテ、八福亭、パッチワーク、ザ・パンチ、ヒライケンジ、風藤松原、ほれる、南野やじ、やさしい雨、ライセンス、ラバーガール、他

#### ▼ 東の食の福幸祭イメージ図



## ■ 東の食の会 のその他出展内容…マッチング事例、安全・安心への取組、商品プロデュースなどを紹介

また、本展示会では、東の食の会が行う商品プロデュース企画や、海外への食文化の発信事業、食品の安全・安心に向けた取組みについてもご紹介いたします。

- 団体概要およびコンセプト紹介  
東の食の会の設立目的、ミッション、取組内容、組織体制を紹介致します。
- 食の安全・安心に関する取り組み  
東の食の会の 食の安全・安心に向けた「簡易放射能検査手順」についてご報告致します。
- 海外への食文化発信  
東の食の会の取組の一つである、海外への食文化発信事業をご説明致します。
- 商品・企画プロデュース紹介  
東の食の会がこれまでに執り行いましたマッチング事例、商品・企画プロデュースを紹介致します。
- 会員企業紹介・募集

## ■ 下記のようなことをご取材いただけます

- ・ 復興ヒーローへのインタビュー
  - ・ 復興ヒーローの食材試食・撮影
  - ・ 東の食の会理事・事務局長のインタビュー
  - ・ 東の食の会の商品・企画プロデュースの紹介、など。
- 他、ご希望なども含めまして、ご相談に応じて対応させていただきます。
- ※ 当日は東の食の会理事も展示に参加致します。ご取材をご希望の方は是非お立ち寄りください。  
理事の欠けは各日程によって異なります。ご取材をご希望の方は事前にメールにてお問い合わせください。

## ■ 「東の食の会」団体概要

- ミッション:  
東日本の食の復興と創造を長期的に促進すると同時に、日本の食文化を育み、世界に誇れるブランドとして確立する。
- 活動内容:
  - ・ 東日本の食の安心・安全を促進するための活動
  - ・ 東日本の食の販促・イベント活動
  - ・ 東日本の食の生産者と支援企業のマッチング活動
  - ・ 東日本の食への資金的支援活動
  - ・ 東日本の食に関する政策提言活動
- 東の食の会 発起人
  - ・ 代表理事 楠本 修二郎  
(カフェ・カンパニー株式会社 代表取締役社長)
  - ・ 代表理事 高島 宏平  
(オイシックス株式会社 代表取締役社長)
  - ・ 理事 宮城 治男 (NPO 法人 ETIC. 代表理事)
  - ・ 理事 立花 貴 (合同会社四縁 代表)
  - ・ 小暮 真久 (特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International 代表)
  - ・ 近藤 洋介 (民主党衆議院議員)
  - ・ 平 将明 (自民党衆議院議員)
  - ・ 松田 公太 (みんなの党参議院議員)
- 東の食の会 アドバイザー
  - ・ 出井 伸之 (元ソニー株式会社代表取締役 CEO、クオンタムリープCEO)
  - ・ ジェームス・スミス (元 IAEA 顧問、エモリー大学教授)
  - ・ 竹中 平蔵 (慶應義塾大学教授 グローバルセキュリティ研究所所長)
  - ・ 野田 一夫 (日本総合研究所会長、宮城大学初代学長)

(五十音順)

## ■ 「Food Relation Network」プロジェクト概要

音楽プロデューサーの小林武史と、Mr.Childrenの櫻井和寿に、坂本龍一氏を加えた3名が拠出した資金をもとに、2003年に設立された「一般社団法人 ap bank」がスタートさせた、「食」と「農」をテーマに「日本各地の生産者」と「都市で生活する人々」とをつなぐプロジェクトが Food Relation Network (フード リレーション ネットワーク)です。

未来の日本の農業が、そして生産者と生産者が、もっと元気であるように、Food Relation Networkは「いいものをつくること」「おいしさをつなげること」「想いをつたえること」が目指します。

### ◆ いいものをつくる

化学合成肥料・農薬の使用を避けた生産、土壌の性質と、その生産力をよく考えて、外部の知見者の方々と連携しながら環境への負荷を極力抑える事業サイクルを目指します。まずは、自主生産活動の拠点である「耕す木更津農場」からスタートしています。

### ◆ おいしさをつなげる

日本中の生産地と、消費者とのよりよい関係を築くために、安全でおいしい食材を安定的に調達し、kurkku のレストランやカフェ、オンラインショップを含む消費拠点へと供給する体制の整備に取り組みます。

### ◆ 想いをつたえる

生産者が思いを込めて生産した、ひとつひとつの食材に込められたストーリーをきちんと消費者に伝えていくことに取り組みます。

(参考) 東の食の会のマッチングの取組

| 案件                                                                                                                                                                                                         | 作る側                                                                                                                   | 売る側                                                                                                                                                                | 東の食の会<br>プロデュース                                                                     | 販売時期                                                     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| <b>A “復興枝豆”</b><br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>震災前に冷凍保存し津波を逃れた宮城県産「奇跡の枝豆」気仙沼の海水で茹でた農業と水産業のコラボ商品</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>舞台ファーム (宮城県仙台市若林区)<br/>- 米、野菜の生産から、加工、販売までを手がける</li> </ul>                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>オイシックス</li> <li>サッポロライオン</li> </ul>       |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>9月～</li> </ul>    |
| <b>B “ササニシキ復権”</b><br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>今秋のササニシキをプロモーション販売し、「復権」を期す</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>舞台ファーム (宮城県仙台市若林区)<br/>- 米、野菜の生産から、加工、販売までを手がける</li> <li>他のササニシキ生産者</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>カフェカンパニー</li> <li>オイシックス 他</li> </ul>     |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>10月中旬～</li> </ul> |
| <b>C “福島の夏メニュー”</b><br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>甘とうもろこし、もも、キュウリ、等を用いた夏メニュー開発</li> </ul>                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンファーム (福島県伊達市)<br/>- 野菜、果物、鶏肉加工品<br/>- 震災で農場が倒壊</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ジャックポット<br/>- 東京を中心に30店舗居酒屋経営</li> </ul>  |                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>済み</li> </ul>     |
| <b>D 松島の白菜餃子</b><br><br><ul style="list-style-type: none"> <li>高校生が発案者で製品化した餃子。生産・加工を宮城で行うことで、経済復興を果たす。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>蜂屋食品 (宮城県石巻市)<br/>- 餃子や小籠包の加工業者</li> <li>JA全農</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>(現在調整中)</li> </ul>                                                                                                          |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>調整中</li> </ul>    |

【お問い合わせ先】一般財団法人 東の食の会 広報担当

担当: 山本 成信、伊原志津子、大熊拓夢

TEL : 03-5447-6273 FAX : 03-5447-2689 / e-mail : [higashi.press@gmail.com](mailto:higashi.press@gmail.com)

◇東の食の会 URL: <http://www.higashi-no-shoku-no-kai.jp/>

◇東の食の会 twitter: @higashinoshoku

◇東の食の会 facebook: <http://www.facebook.com/higashinoshoku>



## ❑ 起業家たちが次々と被災地へ



宮城県石巻市雄勝地区では、8月、東京の起業家と地元の漁師たちが漁業の再生を目指す新しい合同会社を設立しました。その名前は「OHガッツ」。地区の名前と、復興への意気込みをかけました。仙台出身で元・商社マンの立花 貴さんは、東京で10年前に食品関連の会社を起業。

今回の震災で故郷の人たちを助けたいと現地に入り雄勝でボランティアを始めました。そこで出会ったのが漁師の伊藤浩光さん。家も漁具もすべて失いながら「再び漁にでる」と熱く語る伊藤さんの姿に心を打たれました。そして伊藤さんと一緒に新しい会社を立ち上げたのです。



設立から1か月あまり。養殖を始める準備は整ってきましたが、カキやホタテの稚貝や道具の購入にまだまだ多額の資金が必要です。そこで考えたのが、市民に養殖のオーナーになってもらう「そだての住人」という仕組みでした。「そだての住人」となった市民に、1口1万円で、カキやホタテの稚貝を購入してもらい、出荷できるようになったら、金額に見合う商品を届けます。「そだての住人」の募集を始めて2か月あまりたった9月半ば。資金は1000万円を超え、カキの養殖は半年ぶりに再開したのです。





立花 貴さん (OH ガッツ発起人)



雄勝の町はもともと4300人の人口が、震災後、今、1000人を切っているんですね。住める場所で言うと、500人ぐらいしかないかもしれない。仮に500人しかいなくても、雄勝の町というのが運営できる、"そだての住人"と一緒に、町が運営できるという形を、ちっちゃくても"グッとくる"町をつくりたいなと思っています。

以上

2011 年度インターゼミ〔社会工学研究会〕

## 東北グローバル・イノベーション

水産業の将来像から見た、被災地に財・サービスが集まる仕組みの提案

被災地 水産復興事業関係視察

第三回 フィールドワーク報告書

報告日 2012 年 2 月 17 日

〈メンバー〉

社会工学研究 震災と日本再生チーム

経営情報学部

梅田 裕介

グローバルスタディーズ学部

中村 梨乃

大学院 経営情報学研究科

平木 まこと

清滝 昌宏

新部 均

## 目次

|      |                              |     |
|------|------------------------------|-----|
| 第1章  | 目的 .....                     | 108 |
| 第2章  | 日程 .....                     | 108 |
| 第3章  | メンバー .....                   | 108 |
| 第4章  | 訪問地 .....                    | 108 |
| 第5章  | 役割分担 .....                   | 109 |
| 第6章  | 交通手段、手配 .....                | 109 |
| 第7章  | 調査内容・結果 .....                | 110 |
| 第1節  | 震災対応の実態と新しい役割のシンポジウム .....   | 110 |
| 第2節  | 史跡研究「浪分神社」 .....             | 111 |
| 第3節  | 復興事業：雄勝町「OH ガッツ」 .....       | 113 |
| 第4節  | 被災地視察 .....                  | 118 |
| 第1項  | 雄勝町の被災状況 .....               | 118 |
| 第2項  | 女川町の被災状況 .....               | 120 |
| 第3項  | 松島町の被災状況 .....               | 123 |
| 第8章  | 所感 .....                     | 125 |
| 第9章  | その他 .....                    | 126 |
| 第1節  | 「OH ガッツ」立花様、浜吉様とのメール交信 ..... | 126 |
| 第2節  | 最新メディア情報 .....               | 129 |
| 第10章 | 参考資料 .....                   | 130 |
| 第1節  | 「OH ガッツ」水産事業インタビュー .....     | 130 |

## 第1章 目的

- (ア) 震災復興の論文作成にあたり、被害状況を正確に把握する。
- (イ) 急速に回復、復興が進む中で、被災状況を肌で感じ体感する。
- (ウ) 復興に向けての現地の声を直接聞き、意見交換を図る。
- (エ) 復興に向けての具現化した事例を深く探る。
- (オ) 震災対応の実態と新しい役割のシンポジウムに参加。
- (カ) 現地視察、インタビューを通じ、問題点の把握、研究活動としてのスキル向上を図る。
- (キ) グループ行動を通じ、責任を持った役割分担、効率的な計画での相互研鑽を図る。

## 第2章 日程

- ①期間 2012年2月14日～15日
- ②旅程  
14日 8:30 東京駅集合、ミーティング  
9:16 東京—11:48 仙台 やまびこ 207号  
13:00—18:00 大震災研究プロジェクト報告会参加 於 メディアテーク  
仙台泊  
15日 7:40—18:00 FW 雄勝町、女川町、松島町 (車移動)  
18:48 仙台—20:56 東京 やまびこ 156号  
21:15 ミーティング、解散

## 第3章 メンバー

- ・経営情報学部 梅田 裕介
- ・グローバルスタディーズ学部 中村 梨乃
- ・大学院 経営情報学研究科 平木まこと 清滝 昌宏 新部 均

/ 計5名

## 第4章 訪問地

- ①シンポジウム : 仙台市 せんだいメディアテーク
- ②被災地視察 : 雄勝町、女川町、松島町
- ③史跡視察 : 仙台市 浪分神社
- ④復興事業 : 雄勝町 合同会社「OH ガッツ」 浜吉様、三浦様

## 第5章 役割分担

|             |       |
|-------------|-------|
| (ク) 全体日程、立案 | 新部    |
| (ケ) 申請手続き   | 小沼    |
| (コ) 切符手配    | 梅田    |
| (サ) 訪問先調整   | 中村    |
| (シ) 写真撮影    | 新部、平木 |
| (ス) 運転      | 平木    |
| (セ) 会計、精算   | 中村、梅田 |

## 第6章 交通手段、手配

|             |                                    |                 |
|-------------|------------------------------------|-----------------|
| (ソ) 対応旅行代理店 | 京王観光永山営業所                          | 担当:上原様          |
| (タ) 手配ツアー名  | JTB エース限定列車宿泊付プラン13HC408-0         |                 |
| (チ) 仙台～被災地  | レンタカー使用 8人乗りヨタ Noah ニコニコレンタカー仙台宮町店 | 仙台東～河北ICまで高速道利用 |

※ 往路コース



## 第7章 調査内容・結果

### 第1節 震災対応の実態と新しい役割のシンポジウム

- ① 場所      せんだいメディアテーク 仙台市青葉区春日町 2-1
- ② 主催      多摩大学地域活性化マネジメントセンター
- ③ 概要      <http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter.html>
- ④ 進行      13:00～基調講演 寺島学長  
                  東北から考える日本創生への道～「道」という視点の重要性～  
                  15:00～調査結果報告 松本先生、酒井先生  
                  岩手チーム、宮城チーム、福島チームに分かれて調査。(教員4名、  
                  職員1名、学生12名)計28駅、3地方自治体の調査を実施。  
                  16:00～パネルディスカッション  
                  国土交通省東北地方整備局 道路情報管理官 赤川正一様  
                  道の駅「三本木」駅長 遠藤栄悦様  
                  道の駅「ひらた」駅長 高野哲也様 他  
                  17:00～質疑応答  
                  アンケートからパネリストが回答、所見を述べた。

- ⑤ 所感

「道の駅」が、単なる、物産販売拠点ではなく、東日本震災時に、防災拠点として機能していた点を改めて認識した。それを検証する学生らの協力を経て、多方面から調査を実施の上、多くの定量的データを収集し、新たな、機能面、独自性、今後の課題を述べていた。

長期的に見ると、数十年後には「道の駅」がどんな形態に進化しているか、疑問はあるものの、短期的には警戒されている、東海、南東海沖地震に向けて、東北での経験値を生かした仕組み作りを早急に実施を望む。

※ 久恒教授とインターゼミメンバー



## 第2節 史跡研究「浪分神社」

寺島実郎著「世界を知る力」<sup>1</sup>日本創生編の中で、先人の津波に対する考え方、知恵を記述しているところが強く印象に残り、今回訪問する強い動機となった。

その名の通り、浪に向かわず、浪を受け流す高台の立地しているものと想像していたが、意外にも海岸線から約5キロの平地に立地していた。



<sup>1</sup> 寺島実郎(2011)「世界を知る力」日本創生編 PHP 新書 p29-32

1. 場所 :宮城県仙台市若林区霞目2丁目15 市内から車で約10分

2. 由来

巨大津波で多くの市民が亡くなった仙台市若林区の荒浜地区。そこから5キロほど内陸寄りに小さな神社。貞観津波の直後に建てられ、ここまで津波が到達したことを伝える意味で「浪分神社」と名付けられた。マグニチュード(M)9.0の超巨大地震と津波は、確かに想定外の規模であったが、研究者は東北地方の太平洋岸を襲った貞観津波の再来を予見し、一定のアナウンスもしていた。平安時代の人たちも、小さな神社を建てて津波被害を後世に伝えていた。

元来は元禄 16 年(1703)に霞目の八瀬川に建てられた稲荷社だったが、天保 6 年(1835)に現在地に移されて浪分神社という名になった。七郷一帯は標高が低く、昔から津波や洪水の被害が大きかった。慶長 16 年(1611)の慶長大津波では霞目まで水が押し寄せ、1700 人を越える死者を出している。天保期に、慶長の津波が二つに分かれて引いた場所に稲荷社を移し、津波よけの神社とした。

この神社には、白馬にまたがった海神が大津波を南北に分けて鎮めたという伝説がある。地質調査の結果からしても、貞観 11 年(869 年)、慶長16年(1611 年)と、内陸深くまで津波が押し寄せて来た形跡がある。

東日本大震災で東北地方の太平洋岸に壊滅的な被害をもたらした巨大津波は、869 (貞観(じょうがん)11)年の貞観津波に極めて似ている。東北大災害制御研究センターの今村文彦教授らは、仙台平野の地質調査の結果から、貞観タイプの津波の再来周期を約千年と推定。前回からすでに1100年が経過していることから、次の巨大津波は「いつ起きてもおかしくない」と、警鐘を鳴らしていた。



### 第3節 復興事業：雄勝町「OH ガッツ」

#### ① 雄勝町について

仙台市から東へ約85km、海の青と、山の緑と。ひそやかな自然を丸ごと味わえる町。山々の深い緑と、太平洋のコバルトブルーの大海原。浦々に集落を作り、かつては「十五浜」と呼ばれたこの町には、いまだに俗化されない自然の息吹と三陸沿岸独特の情緒がある。

南三陸金華山国定公園に属するリアス式海岸線の絶景、白銀崎・峠崎（ときめき夢半島）・天然記念物の八景島、そして海水浴やキャンプで賑わう荒浜海水浴場、硯上山万石浦県立自然公園に属する硯上山の眺望など、自然のままの町。

帆立や牡蠣、ホヤやワカメの養殖の雄勝町、硯（すずり）も名産。

震災前の2月末の人口は約4300人で、2005年4月に石巻市と6町が合併して、新しい石巻市の一部となった。

※ 雄勝町の位置





← 雄勝湾

② インターゼミ研究内容紹介

・論文

2011 年度インターゼミ〔社会工学研究〕 東北グローバル・イノベーション  
～水産業の将来像から見た、被災地に財・サービスが集まる仕組みの提案～  
の論文概要を説明し、論文を提供。

・大学のパンフレット

多摩大学と、「OH ガッツ」とのつながりの経緯を説明し、提供。

③ 「OH ガッツ」 養殖を中心とした独自の復興事業概要について

(ア) ポリシー

海産物を育てる。絆を育てる。そして、雄勝の未来を育てていく。

(イ) 対象海産物



牡蠣



ホヤ



帆立



鮭

(ウ) 会社概要

法人名 合同会社OHガッツ  
会社設立 2011年 8月  
住所 〒986-1321 宮城県石巻市雄勝町水浜 9-1 (Map)  
※事務所所在地 石巻市雄勝町水浜字向 30  
電話／ファクス 0225-57-3250  
事業内容 1. 牡蠣・帆立・ホヤ・銀鮭の共同養殖事業  
2. 上記海産物加工販売業  
3. 「そだての住人」募集、及び育成交流  
発起人 伊藤浩光 (代表)  
末永陽市・森山信彦・鈴木晃喜・佐藤 一・阿久津英法  
砂金弘樹・木村勝雄・木村佑紀・山崎博之  
立花 貴 (社)東の食の会理事 (社) Sweet Treat 311 代表  
(合) 四縁 代表  
山本圭一 サバイバルフィットネス 代表

※理事 立花貴は東京での 20 年間ビジネスマン生活から一転、東京にあった住民票を雄勝町に移し、OHガッツに参加



伊藤代表



立花理事

(エ) 「そだての住人」

実際に雄勝町に来て、漁師と実際に話をし、牡蠣や銀鮭を育てる作業を見学したり、希望の方には実際に作業にも加わっていただくというもの。

想いは、どこで誰が作ったからわからない商品を食べるのではなく、雄勝のオーガッツが作った、安全で美味しいものを食べていただきたいという想いと、「そだての住人」になる人自身が作り手となって、自分が作ったものを食べるという喜びを、感じる事。

そして、大津波により全壊した地域を復興させるまで、一緒に歩んでく。

※養殖作業へのご参加は希望者のみ

※「そだての住人」対象商品は、牡蠣、ホヤ、帆立、銀鮭

※一口につき1商品

※一口 1 万円の使用内訳 3,000 円:送料、7,000 円:収穫経費

# 「そだての住人」募集中!

東日本大震災から復興すべく、宮城県石巻市雄勝町の漁師たちは、合同会社オーガッツという新しい組織を作り再起を誓いました。その第一歩として、これまでにない新しい形の養殖オーナー制度「そだての住人」の募集を開始いたします。



## 「そだての住人」とは?

これまでの養殖オーナーのように、ただお金を前払いして商品を買うのではなく、実際に雄勝町に来ていただき、漁師と実際に話し、牡蠣や銀鮭を育てる作業を見学したり、ご希望の方には実際に作業にも加わっていただくというものです。ここにある想いは、どこで誰が作ったかわからない商品を食べるのではなく、雄勝のオーガッツが作った、安全で美味しいものを食べていただきたいという想いと、「そだての住人」になる皆様ご自身が作り手となって、自分が作ったものを食べるという喜びを、ぜひ感じてほしいからです。そして、大津波により全壊した地域を復興させるまで、一緒に歩いていただければと思います。



※養殖作業へのご参加はあくまで希望者のみです ※「そだての住人」対象商品は、牡蠣、ホヤ、帆立、銀鮭となります(その他ワカメなども生産しておりますのでお気軽にご相談ください。)  
※一口につき1商品となります(一口を2つ以上の商品で分けることはできません。)\*一口1万円になりますが、使用内訳は、大まかに3,000円が送料、7,000円が取極にかかる経費となります。

## お申込みの流れについて

「そだての住人」お申込みの大まかな流れは、お振込みとお申込みフォーム送付 ▶ 弊社確認後「そだての住民票」送付 ▶ 登録完了となります。

### ① お振込み

海産物の種類に関係なく、総口数の金額を、銀行振り込み、または現金書留にてお送りください。  
(なお、銀行振込みの場合は申込みフォームと同じ電話番号を必ずご入力ください。)

### ② お申込みフォーム

ホームページのお申込みフォームから、指定の内容を明記の上、そのままメールしてください。  
※ファクスご希望の方は、ホームページからお申込み用紙をダウンロードしてお使いください。  
※その他の方法をご希望の方は、その旨を弊社までお申し付けください。後日、お申込み用紙を送付いたします。

### ③ 確認作業と「そだての住民票」送付 (弊社作業となります。)

弊社にて、お振込みとお申込みフォームの照合が済みましたら、「そだての住民票」(証明書)と「そだての住人カード」を発行し、お送りいたします。

以上でお申込の作業は完了です。

※「そだての住人」には住人番号が付与されます。この番号が今後のやりとりで必要になります。※この作業には2-3週間かかる場合がございます。※領収書が必要な方はご連絡ください。

## 定期レポートについて

「そだての住人」には、オーガッツレポート(収穫状況やお知らせなど)を毎月メールにて配信いたします。ご希望の方には、紙でもお送りいたしますので、ご希望の方はご連絡ください。

## 養殖作業実施日の確定

養殖作業にご参加ご希望の方は、ご希望の日時をご連絡ください。(時期によって作業内容は異なります。また安全のためご希望に添えない場合もございます。)

## 一口あたりの出荷量について

一口あたりの各海産物の出荷量の目安は、牡蠣ですと30個程度、ホヤは30個程度、帆立は40個程度、銀鮭2本程度となります。ただし、海産物の価格は時に変動することがございますので、数が多少増減することを、予めご了承ください。

## 商品出荷日のご指定

収穫時期が近づきましたら、ブログやメールなどでその旨をお知らせいたしますので、ご都合のよろしい送付日をご指定ください。

## そだての住人年度別出荷時期について

「そだての住人」は、ご登録された年を基準に、商品の提供時期が決まります。例えば2011年中にご登録いただいた方は、2011年に養殖を開始した海産物を受け取ることができます。例えば牡蠣ですと、2011年に稚貝を投入した場合、最短で2013年の出荷になります。もし2012年中にご登録いただいた場合は、牡蠣ですと2014年の出荷物を受け取ることになります。この年度別の制度は、「そだての住人」が、ただ商品を買うだけでなく、自分が育てた海産物を食べるという考えに基づいています。ただし、通常の購入もできますので、ご希望の方はお気軽にご連絡ください。また、翌年に繰り越すことはご遠慮ください。

出荷時期目安(2011年に養殖開始した場合)

●牡蠣…2013年9月以降(そだての期間:約2.5年) ●ホヤ…2014年4月以降(そだての期間:約3.5年)  
●帆立…2012年7月以降(そだての期間:約1年) ●銀鮭…2012年4月以降(そだての期間:約1年)

※貝毒の発生や天候により、出荷が遅延する場合がございます。

ご注意「そだての住人」は、出資金を募り、運用・利益分配するファンドや私募債ではありません。

そだての住人(牡蠣・ホヤ・帆立・銀鮭の予約販売)だけでなく、ご寄付(支援金)のお申し出も、承らせていただいております。



銀行口座：七十七銀行 飯野川支店 普通 5220947 合同会社 OHガッツ

※ネットバンキング、窓口での払い込みの場合、ド・オーガッツとご記入ください。

ゆうちょ銀行

記号 18160 番号 13219031

店番号 818 普通口座 1321903 ド)オーガッツ

電話/ファクス：0225-57-3250

お問い合わせ：info@oh-guts.jp

(オ) 今後の計画、目標について

- ① 思いは、復興ではなく、新しい形の漁業、販売。
- ② 国内だけでなく、食文化が高まるアジアへの進出。
- ③ 雄勝のブランド化
- ④ 体験型で、漁業への参画の普及と理解促進。
- ⑤ 今、もっとも必要なのは、人材、放射線測定器。

(カ) インタビュー

当初、15日のアポイントを指定された、立花、伊藤代表の両氏は、東京築地への出店要請を受け、急遽中央区長との会談、視察となったため、代行の浜吉様、三浦様にインタビューを行った。詳細は、参考資料参照方。

※ NEWS23 2月15日の取材映像より



#### 第4節 被災地視察

被災地の視察は、水産事業の視察を兼ねた雄勝町、帰路途上の女川町、松島町の3町にて、実施した。

##### 第1項 雄勝町の被災状況

石巻市雄勝町は震災前 4300 人が暮らす漁業の町で、また雄勝すずりや雄勝法印神楽など豊かな文化に恵まれていた。平成 23 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災に伴う津波によって、約 250 名が犠牲となり、町の 8 割の建物が壊滅的な被害を受けた。町全体がリアス式海岸のわずかな平地を漁港・商業地・住居地としていたことから、今回の津波によりそのほぼ全域が浸水域となった。

「OH ガッツ」の拠点があり、昔から何度も津波を経験してきた宮城県石巻市雄勝町の水浜集落は、約130戸の集落がほぼ壊滅したが、住民は380人中、死者1人、行方不明者8人で全体の2%程度。背景には、地域で受け継がれてきた知恵や防災意識の高さがあった。湾を襲った津波は最高約20メートルに達し、約130戸のうち9割以上が流出。だが、住民約380人の大半は波がくるまでに、高台に登り難を逃れた。

地区では毎年、高台に上がる訓練を実施している。地区会長の伊藤博夫さん(70)は「水浜のもんは、高台までの一番近い道を体で覚えている」という。

##### 雄勝町市街地



##### 雄勝町水浜地区 1



雄勝町水浜地区 2



仮設住宅 伊藤代表もここに居ます。



## 第2項 女川町の被災状況

雄勝町から仙台に戻る帰路で、女川町を經由した。

女川町(おながわちょう)は、宮城県にあり、太平洋沿岸に位置する町である。日本有数の漁港である女川漁港があるほか、女川原子力発電所が立地することでも知られる。

2011年(平成23年)3月11日14時46分18秒、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震が発生し、女川町は女川原子力発電所の震度計が震度6弱を観測した[9][10](町内の検測所は津波で流失)。さらにこの地震が引き起こした津波に襲われ、沿岸部は壊滅的被害を負った。また、港湾空港技術研究所の調査によれば、津波の最大波高(浸水高[注3])は女川漁港の消防庁舎で海拔14.8mを記録した。

津波で3階建ての町庁舎も冠水したが、町長以下職員は間一髪屋上に避難して無事であった。女川原子力発電所は高台にあったため辛うじて津波の直撃を免れたものの、発電所を管理する宮城県原子力センターや原子力防災対策センター(双方とも2階建ての建物)は屋上まで冠水し、環境放射線監視システムが壊滅。職員の多くも行方不明となったため、国や県に一時的に報告ができないという状態に陥った。

※津波被害の概要:

- ・ 最大津波高さ 14.8m(港湾空港技術研究所調査)
- ・ 浸水区域 320ha(3.2km<sup>2</sup>)(国土交通省被災現況調査)
- ・ 被害区域 240ha(2.4km<sup>2</sup>)(宮城県発表値)

※人的・物的被害

[被災前人口]

○10,014名:

※平成23年3月11日現在

[人的被害]

○死者 526名

※平成23年8月3日現在

・町民で死亡が確認された者 415名:

○死亡認定者 290名:震災行方不明者で死亡届を受理された者③

○行方不明者 125名:

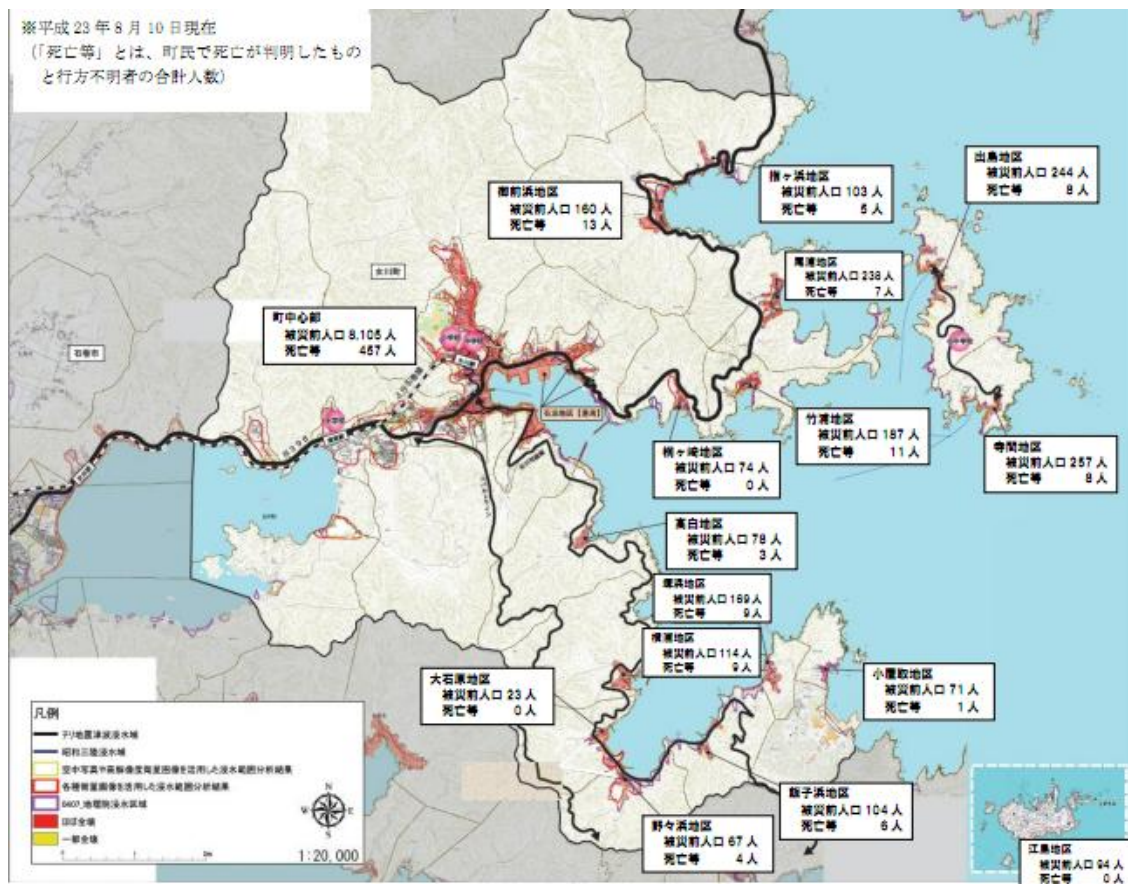
○確認不能者 2名:

○生存確認数 9,182名

※企画課・町民課調べ



※ 女川町 震災による被災状況マップ



※ 女川町中心地 ガレキの山



※ 津波が通過し残った鉄筋の建物



※ 津波により転倒した鉄筋の建物



※ 転倒した建物2



### 第3項 松島町の被災状況

雄勝町、女川町に比較し、被害が少なかった松島町を訪問した。松島町は宮城県中部に位置し、奥羽山脈から太平洋にまで至る舌状台地である松島丘陵が海に没する松島湾に面してある。松島丘陵、および、松島湾の多島海によって成る景観は、風光明媚として古くから知られており、古代以来、歌枕として、そして近世中期以降、とりわけ近現代では日本三景の一つ「松島」の観光拠点として広く知られている。

※人的被害 8月12日現在

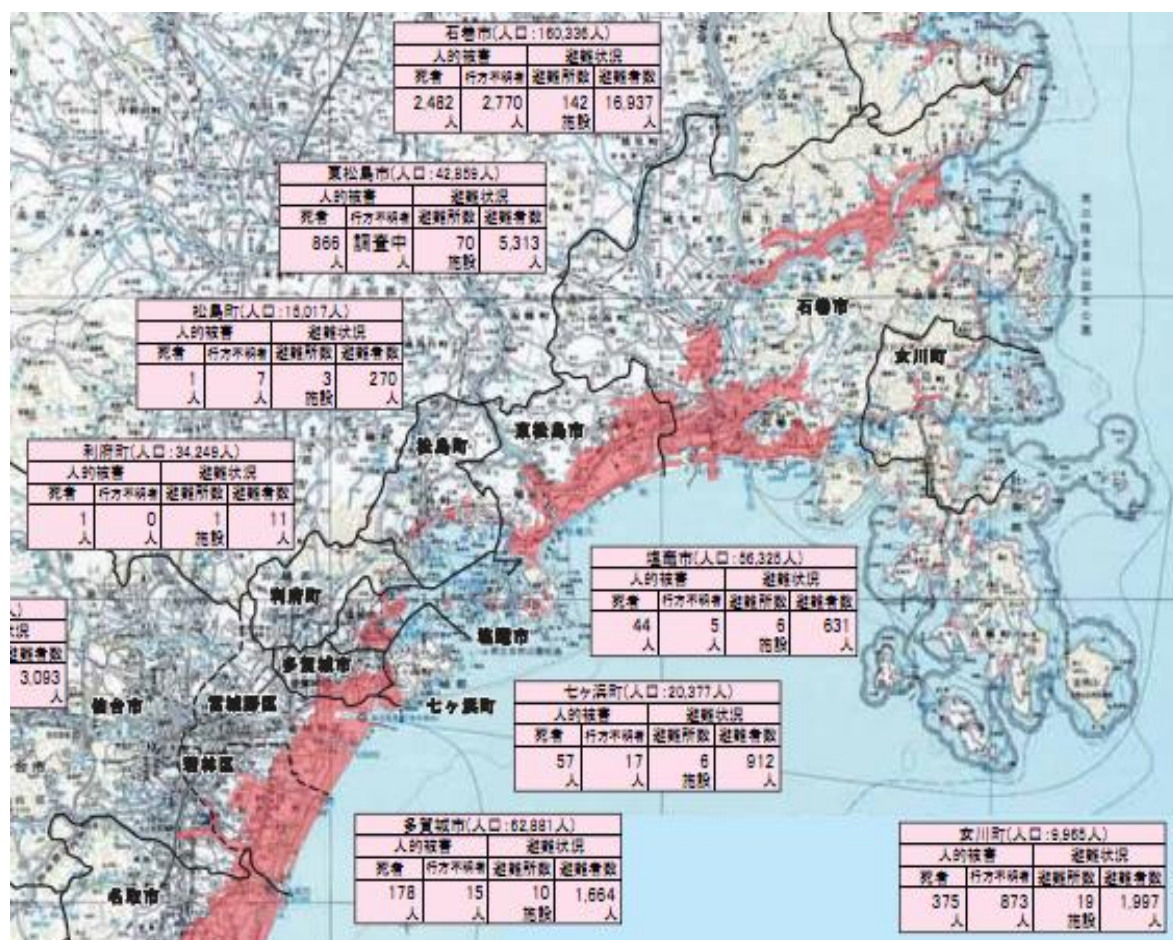
町民で亡くなった方 16人（町内で2人 町外で14人）

行方不明者 0人

重傷者 3人

軽傷者 34人

※ 松島地域被災マップ



※ 日本三景を示す石碑



※津波で被害を受けた沿岸の柵



※被災直後の様子



## 第8章 所感

宮城県へのフィールドワークを通して、長期的復興の重要性を実感した。初めて石巻、女川などの被災地を訪れたが、未だにがれきが残っていたり、鉄管が曲がっていたりと被害の大きさを痛感した。そこで、街をきれいにするとした単純な復興でなく、OH ガッツのような長期的に携えて、全国の人々を巻き込むことができる復興案は素晴らしいと感じた。実際に雄勝町の綺麗な海を見ることができたり、現地の担当者の生の話を聞くことができ、貴重な体験をさせて頂きました。(RN)

今回のフィールドワークはインターゼミ震災チームの集大成的な意味合いを持ったように感じます。そのぐらいに OH ガッツの方々へのインタビューは素晴らしい内容となりました。当日、宮城県石巻市雄勝町への道のりは、次第に震災の甚大な被害が色濃く残る地へ入っていくという道程でもあり、一年近くを経て、なおこれほどに被害が残っているのかと皆が絶句するような状態であった。三階まで津波が抜けたことが明らかに判る建物がいくつもあり、全てが人の気配の無い廃墟と化しており、いたるところにガレキの山と、建物がきれいに剥ぎ取られた跡となっている基礎構造のみが剥き出しとなった地面が延々と続いていた。廃墟となった高い建物の屋上にクルマが残されていたりして、津波の凄まじさを物語っていた。

そして最も被害が大きかったであろう場所に合同会社 OH ガッツの事務所があったのである。かろうじて残った古民家をそのまま活用しての事務所に浜吉氏と三浦氏が我々を迎えてくれて、OH ガッツのビジネスの全てを話してもらった。その内容はインタビュー内容として別記したとおりであるが、この OH ガッツのビジネスが津波によって消え去ろうとしている小さな町を復活させるどころか、かつて以上に栄えさせるのではないかとの強い期待を抱かずにはいられないほど、とても感銘を受ける内容であった。

彼らが言っている通り、まさに全国の過疎で苦しむ自治体再興のロールモデルとなってくれるであろうと思う。今後も個人的にこの OH ガッツの活動を見守りたいと感じると同時に、被災地復興に取り組む多くの方々には、ぜひ OH ガッツの活動を参考にさせていただきたい。(MH)

私は震災後、宮城県に2度震災ボランティアとして支援に行ったが、9月に見た現地の様子と大して変わっていないように感じた。

町が壊滅的な状況になっていたが、雄勝町の水産業は少しずつ活気を取り戻しているように感じた。合同会社 OH ガッツが取り組んでいる水産業の行方を直接インタビューすることで知ることができ、とても良い経験になりました。(YU)

震災復興の論文執筆にあたり、被災地の現実、現状を現地の方々の生の声を聞き、しっかり見据えた視座から、ゼロ、もしくはマイナスからの創生する思考力が必要とされていた。

そんな状況の中での今回のフィールドワークは、非常に問題意識、研究心が高揚した状況で臨む事ができ、砂に水がしみこむが如く、メンバー全員が、見るもの、触れるもの、接する人々と有効的な体験が出来た。

被災地の現状は、何度もテレビ、雑誌、インターネットを通じ映像で見てきたが、直接、現地に立脚し、においを感じ、被災された方々との対話、生活感を残したままの家財道具で取り壊しを待つ一般家屋、津波の勢いで基礎部分のコンクリートだけが残る空虚な建物跡地などに目の当たりに触れ、自ら中に入り込んで行く事で、フィールドワークの醍醐味を体感出来た。

「OH ガッツ」の中心メンバーとの1時間に及ぶインタビューでは、ビジネスモデルとしての成功面だけでなく、今までの疎外感、失敗談、そして、将来に向けての目標、次の仕掛け、他のイベントとの結びつき、様々なメディア対応など、対話でしか得られない生情報をいただく事ができた。大学、大学院からのインタビューは意外にも初めてだと言われ、多くのメディアが、話題性のある、わかりやすい表面的な成功部分を取り上げるのに対し、研究として学術的に接したのは当研究チームだけであった。先の、野田名誉学長、田坂教授とのつながりとも合わせ、多摩大学としての研究テーマとして継続を望みたい。

グループ行動の計画においては、学校側からの要請で社会人には厳しい日程への変更、その他、様々な制約条件が入り、一時は中止も懸念されたが、責任分担を決め、知恵を出し合い、モチベーションを上げ粘り強く推進し、無事に全ての予定をこなした。

被災地という事情の為、公共交通機関では行けず、車での視察となったが、非常に効率良く、多くの拠点を回ることが出来た。これも、社会人大学院生が多いメンバー構成の特性もあるが、双方ともに貴重な経験と充実感、達成感を持って帰途についた。

道の駅シンポジウムを受け、河北 IC 近傍の「道の駅 上品の郷」には迷わず追加の視察を遂行した。河北 IC 開設に合わせ2005年に創設され、物産販売、レストランだけでなく、温泉保養施設が、地元住民の集う「場」として機能しており、災害時の機能が期待できる。(HN)

## 第9章 その他

### 第1節 「OH ガッツ」立花様、浜吉様とのメール交信

当初、先方の希望で、15日に計画した経緯、また、当日急遽東京への出張、更に、その理由となる、テレビ出演番組までの交信録です。

On 2012/02/15, at 13:40, 立花 貴

新部さま、中村さま

本日は同席できず、大変失礼いたしました。立花です。

先ほど東京で急な打合せが終了しました。

その様子は、早速、今晚 2月15日（水）TBS News23 クロス 特集にて  
OH ガッツの築地市場プロジェクトが放送予定です。ご覧頂ければ幸いです。  
また雄勝でお待ちしております。

立花 貴

On Wed, 15 Feb 2012 13:28:37 +0900

新部さま、中村さま

本日は、雄勝までお越し頂きましてありがとうございます。

立花が同席出来ず、説明不足伝わらない点が多くあったかと思えます。

また、雄勝にお越し下さい。論文は後でじっくり読ませて頂きます。--

Yuma Hamayoshi 浜吉勇馬

中村さま

本日、東京で急な対応入り、私は雄勝におりませんので、  
浜吉宛てにお越し頂ければと思います。到着予定時刻をお知らせください。

立花

2012年2月15日 6:52 立花 貴

立花様

こんにちは。多摩大学の中村です。15日、現地での質問なのですが、  
持ち物や服装についてもしあれば教えて頂けますでしょうか？ 宜しくお願いします。

多摩大学 中村 梨乃

On 2012/02/08, at 8:48, 立花 貴

中村さま 当日お待ちしております。

立花 貴

On Wed, 8 Feb 2012 08:37:15 +0900

立花様

早速のご連絡ありがとうございます。15日、どうぞ宜しくお願い致します。

おそらく午前中から、7~8人でお伺いすると思います。現地でもたご連絡させて頂きま  
す。実際に雄勝町にお伺いできることを嬉しく思います！メンバーも楽しみにしており  
ます。宜しくお願い致します。

多摩大学 中村 梨乃

On 2012/02/07, at 20:36, 立花 貴

中村さま 14-15 日お待ちしております。

立花 貴

On Tue, 7 Feb 2012 18:15:10 +0900

立花様

こんにちは。多摩大学の中村です。先日はご連絡ありがとうございました。  
突然ですが、今月 14 日、15 日とゼミのメンバーと宮城に行くことになりました。  
そこで、15 日なのですが、雄勝町にお伺いしたいと思うのですが宜しいでしょうか？  
新幹線とリカーを使って向かう予定です。急なご連絡で申し訳ございません。  
宜しくお願い致します。

On 2012/01/18, at 0:00, 立花 貴

2 月 13-14 日は東京です。 11-12 日、15-16 日は雄勝です。

立花 貴

On Tue, 17 Jan 2012 18:57:57 +0900 Rino Nakamura

立花様

こんにちは。多摩大学 3 年の中村です。

先日はお忙しい時期にも関わらず、ご連絡ありがとうございました。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

こちらの宮城県水産業復興の論文も書き終わり、2 月から春休みが始まります。突然ではございますが、2 月 13 日～14 日に私たちゼミのメンバーと宮城県を訪れる予定です。

そこで、是非、13 日（月）に雄勝町と OH ガッツの養殖場を見たいと思うのですが、御都合はいかがでしょうか？

14 日は学長の寺島実郎先生の講演があるので、そちらに向かう予定です。なので、日帰りで、バスとタクシーを使って伺う予定です。どうぞ宜しくお願い致します。

.....

多摩大学 グローバルスタディーズ学部 3 年 中村 梨乃



## 第2節 最新メディア情報

報告書執筆中に偶然届いた見覚えのある漁船は、やはり、「OH ガッツ」でした。今、日本で最も求められている元気な復興事例と、あらためて実感した。



### cover story

日本各地のJAF会員を訪ねて ● 表紙の人

はそこからだからね」

「今年には勝負の年、ここまで準備をして仕込みをして、あとはソフ

新しい漁業を目指す。若手の育成も視野に、

「オーガッツ」で、生産から加工、販売、そして

「未来」を指して立ち上がった会社が

「オーガッツ」だ。生産から加工、販売、そして

「未来」を指して立ち上がった会社が



立木義浩 撮影  
1937年徳島生まれ、日本を代表する写真家のひとり。歴代の映画俳優や著名人のポートレートのほか、瀬戸大橋や東寺、里山の風景まで、作品数は膨大である(写真中央)

代表の伊藤浩光さんの声は優しく、力強い。oh-gutts.jp/

●立木さんの撮影談・撮影データを「JAF Mateパーク」(jafmate.jp/)に掲載。

## 第10章 参考資料

### 第1節「OHガッツ」水産事業インタビュー

日時：2012年2月15日水曜日 11:00から約一時間

場所：宮城県石巻市雄勝町水浜字向30 OHガッツ宿泊所（古民家、いろりを囲んで）

出席：OHガッツ 浜吉様（地元の方ではないが、OHガッツの活動に賛同し参加）

三浦様（OHガッツ代表伊藤氏の甥）

多摩大学震災チーム 新部、中村、梅田、清滝、平木



#### 質疑、応答

■OHガッツさんの活動内容について教えてください。

「我々は単に漁業の復興を目指しているのではなくて、町創りを行っていくということを目指しています。ですので雄勝の産業の中心である漁業を中心としながらも様々なことに取り組んでいます。また、多くの方々に関わっていただくよう心掛けています。漁業体験の受け入れなども行っていますし、名古屋の高校生60人ぐらいに来ていただいて牡蠣の養殖の体験などもしていただきました。」



■今、『そだての住人』はどのくらい集まっているのでしょうか？

「2000 口（一口 1 万円）位ですね。人数は 1000 人ぐらい。平均して一人二口ぐらい頂いています。」

■プロモーションはどのように行っているのでしょうか？

「まずはホームページを通じて情報発信しています。それと震災復興を絡めて、いろいろなメディアの方に扱っていただくようにしています。先日は日経新聞に掲載されました。それと NHK とか。そういうメディアでの露出があると、関東や関西から問い合わせを受けて、日経みたんですけどっていうかたちで“そだての住人”の申し込みを受けます。」

■将来、そだての住人の方々に採れた養殖の水産物をお送りすることですが、いつ頃が目処なのでしょう？

「ホヤは 4 年ぐらいかかりますね。鮭が今年できるかどうか。普通は二年ぐらいかかるんですけど。牡蠣は 3 年ぐらいかかります。ただ牡蠣は今年、成長の途中の段階をお見せることはできるかもしれません。まだ私には良く判らないのですが、代表の伊藤が判断すると思います。」

■養殖の方は、うまく進んでいるのでしょうか？

「牡蠣とか稚貝から育てていますが、成長しているものも結構あります。数はまだまだ少ないですね。」

■津波の影響で海の中が荒れたと聞いているのですが、養殖には影響は出ているのでしょうか？

「荒れたというのがどの程度なのかは私には判りませんが、養殖用の棚は相当に不足しています。元々あった棚の数にはまだ到底追いついていません。ただ、棚を張ることが出来たところから順に養殖を始めています。」

■養殖棚はどのあたりに張っているのですか？

「もう湾内いたるところです。20、30m 間隔ぐらいに張っています。雄勝湾はそれほど大きな湾ではないので、あちこちに棚がある、というような状態になると思います。浮が浮かんでいるところに棚があります。養殖している牡蠣などの発育の状態で棚が重くなって沈んだりするんですけど、あまり深くなると太陽の光が届かなくなって発育が悪くなるんです。ですので浮を調節して水面からの深さを調整するんですけど、これがベテランでないと判らない難しさがあります。牡蠣は最初、一つのロープに 5 個、つけて沈めています。」

■今、OH ガッツさんにはどのくらいの方が参画されてらっしゃるんですか？

「経営に参画しているパートナーは12名です。僕たちはサポーターになります。私は、香川出身で、このOH ガッツの活動に賛同して参加しています。(浜吉さん)」

「私は代表の伊藤の甥です。誘われて参加しました。(三浦さん)」

■お仕事は何をなさっていたのですか？

「僕は、医薬品の営業、MR をやっていました。まあ、仕事はいつでもどうにかできているので。香川出身ですけど、京都とか東京とかあちこち転々としていまして。今は仕事を辞めてOH ガッツの活動に専念しています。」



■この事務所は伊藤さんの家だったんですか？(宿泊所はごく普通の古民家である。)

「いえ、元々は借家だったのを伊藤が買い取りました。」



■この家はギリギリ、津波の影響を受けなかったんでしょうか？見たところ、すぐ下の家は相当被害を受けているようですが。

「そうです。この下の家までは被害を受けたのですが、ここは大丈夫でした。ただ、この家は相当古いので、余震で揺れると崩れそうな感じがするときがあって、怖い思いをします。ところどころヒビも入ってきていますし。来て間もないころは判らなかったのですが、地震の前に地鳴りがするんですよ。ゴーっていう。慣れてくると判るようになったんですが、まず地鳴りがして少ししてから地震がきます。」



■地震の時はどちらにいらっしたのですか？（浜吉さんに対して）

「僕は盛岡にいました。」

■他にもサポーターのような協力されている方はいらっしゃるのでしょうか？

「いっぱいいます。平日は仕事をしていて週末だけ手伝ってくれる方もたくさんいらっしやいます。渋谷に朝 3 時ぐらいに立花がクルマでサポーターの方々を乗せてここまで運転して連れてきたりしています。新幹線だと 6 時すぎぐらいに乗ってくる感じでしょうか。」  
「あとここまで支援にくるためにクルマ買って対応してくれている方とか、雄勝に住所移してサポートしてくれている方とかもいらっしやいます。」

■そういうサポートの方々でどういう作業しているのでしょうか？

「まあ、漁師なので、夜中たたき起されたりとかして、今から作業だとかもよくあります。稚貝の出荷がまったくスケジュール管理の無い中で行われていまして、取引先から、明日出荷だ、とかいきなり連絡が来るんです。でそれに合わせて夜中、3 時とかに起きて稚貝を受け取って棚におろすための準備作業に取り掛かります。受け入れの時はそういう風に連絡を受けて、じゃあ、そろそろみんな集まるか、みたいにして連絡して集まっています。」  
「あと、もうすぐワカメの作業に取り掛かるんですけど、出荷のための刈り取りであったり、梱包であったりの作業をする予定です。」

■ワカメも養殖ですよ？もう出荷できるのですか？

「はい。11 月につけたやつは、いまぐらいから出荷です。最初、こんな（指先ぐらいの）小さな種なんですけど、これ、何なんですか？って聞いたら、これワカメだよって言われて驚いて。で棚につけておろしてから、どんどん成長して。小さな種だったワカメを自分たちが育てて、食事できるところまでになるなんてすごいなあ、って思いました。それを

人に提供できるんですから。」



■今回出荷するワカメは、そだての住人の方へ送られるのですか？

「いえ、まだ無理だと思います。とりあえずは、名古屋で行われるイベントで使いたいという引き合いを頂いていまして、そちらに出荷します。あと、3月6日から数日間、東京のIT企業、マイクロソフトであるとかの4社ぐらいの企業に協賛していただいて、社食をジャックしようという企画がありまして、そちらにワカメを出荷します。最終日には我々の漁師も現地に行って、直接そのIT企業の社員の方々へ提供する企画も予定しています。もともとは、ボランティアで来ていただいていた方の中にマイクロソフトの方がいらっしやいまして、そういう繋がりから発展してこういう企画が生まれたんです。そういうサポートしてくれる仲間に支えられていろいろな告知のイベントを行っています。」

■そうした告知などのイベントを通じて、雄勝のブランドを認知させていくという戦略なんですか？

「そうですね。ブランド戦略はかなりしっかりとやっています。東京にいる方々なんですけど、サポートしてくれているコピーライター、カメラマン、WEBデザイナー、などの方々がいらっしやいまして、みなさん無償でブランディングを行っていただいています。ストーリー、物語を大事にしたいと思っています。」

「これまで通常の漁業だと、漁業者は採るだけで、市場や仲買人、仲介する様々な業者にて中抜きされていたんですけど、それを漁業者が直接行っていこう、という試みを知っていただく、それと、直接この雄勝に来ていただいて養殖の作業に関わっていただいて（育ての住人は、直接養殖作業などの参加することによる参加型マーケティングの手法を取っている）、そうすることで雄勝に直接触れていただき、雄勝を知っていただくことでより雄勝を好きになってもらうような試みをいろいろと企画してきています。そういう様々な方法を行っています。」

■漁業者が直接販売するって、これまではなかなか難しかったですよね？

「そうなんです。立花は以前、伊藤忠にいて食品事業に永く携わってきまして、食品の会社を立ち上げたりとか、独立後は自分でお店を持ったりなどした経験からそうした（食品流通の仕組み）ことに精通しているプロですし、そうした世界を知っている人材をたくさん仲間でもっていますので、そうした方々にサポートしてもらっています。」

「最近、他の漁業組合さんなどからもうちも手伝ってくれて、立花に依頼が来るようになってきているんですけど、今は雄勝町だけで精いっぱいなのでお断りしているぐらいです。ただここで雄勝が成功すれば、それがロールモデルになって他にも広げていけるでしょうから、いろんなところ（他の漁業組合など）でもオペレーションやっていけるようになるのではと、立花も申しています。」

■漁業権ってどうなっているのでしょうか？

「漁業権はもちろん持っています。（代表の伊藤をはじめとして）漁業権をもっているメンバーがパートナーとなって設立していますので。そうした直接販売していく、仲買人を介さない販路の拡大はどんどん行っていきたいので、もしご紹介いただけるならぜひご紹介ください。」

■立花さんは伊藤忠の食品事業でどのようなことをなさっていたのでしょうか？

「立花は、伊藤忠で、ファミリーマートの買収後の立ち上げなどを担当していました。」



■お伺いしていると OH ガッツさんには様々なプロフェッショナルが集まっていて、とてもいい相乗効果が生まれているように感じられますが？

「はい。ほんとに うまい具合にプロフェッショナル集団を作り上げることができたと思います。漁師のプロ、マーケティングのプロ、WEB デザイナーやコピーライター、食品流通の世界を熟知するプロなど、ですね。」

■1000人ちょっとの育ての住人は、どのような方々なのでしょう？

「東京がやはり多いですね。年齢層は50代以上の年配の方が多いです。業種は判らないのですが、こちらのイベントに直接参加される方々は、若い方が多いです。立ち上げ直後の昨年9月のイベントには200人以上の方々に来ていただきました。」

「今度、2月の下旬に4度目のイベントを行います。これはワカメの収穫イベントで、そだての住人の方々に直接ワカメを採る作業を行っていただきます。現在50名強程度確定しています。夏場は暖かいので多かったですが、冬場は零下8度とかになりますのでさす

がに少し少ないですが。」

■雄勝町の寒さって2月ごろがピークなのでしょうか？

「いえ、3月ですね。3月が一年で一番寒いです。昨年の震災では、津波に襲われ、全身ずぶぬれになりながらも命からがら丘の上に逃げることができた方々も、夜中に凍えて凍死してしまったという事例もかなりあります。」

■地震の際にどちらにいらっしゃったのですか？（三浦さんに対して）

「僕は仙台のホテルに就職してまして、厨房の仕事です。ですので、震災の際は仙台にいました。地震おきて二日目ぐらいに、会社の方々がガソリン集めてくれまして、家族の安否確認にクルマ使わせていただきまして。携帯が使えなかったので、雄勝の家族の安否がずっと判らなかつたのです。それで二日後に雄勝にクルマで入りまして、避難所で家族全員の安否を確認することが出来ました。」



■雄勝町の惨状を見て、ショックを受けられたのではないかと思います？

「私の実家は、この家のある丘の下の湾に面した平地にありまして、もう完全に流されてしまっているのですが、始めはここまで来ることができませんでした。道路が封鎖されていたのです。最初は避難所で母と再会できました。その後、片側だけ崩れずに残っていた道を伝って町の中に入り、保育所に避難していた祖父、祖母、そして中学生の弟、妹に再開出来まして、家族全員の無事を確認できたので、もうそれがとても嬉しくて、家だとか町の被害だとかは気になりませんでした。」

■津波における避難は、雄勝町の方々はどのように訓練されていたのでしょうか？

「もうそれは、昔、チリ沖地震の時にも津波がありましたし、習慣として地震や津波への対策は持っていました。海が目の前なので、津波の前兆である海の盛り上がりを確認できますので、それをみたら兎に角走って高台へに行く、ということです。宮城県沖地震とか、昭和のチリ沖地震の津波とかもありましたし。」





■震災前に比べて住民はどのくらい減っているのでしょうか？

「震災前は4200人ほどいたのですが、今は1000人切るぐらいです。震災で3000人ぐらい無くなりまして、後は避難した場所に留まっています。ご覧のとおり、戻ろうにも家が無い状態です。

■先ほど、町創りをしていくとおっしゃられていましたが、住人が戻ってくるようなことも目指していられるのでしょうか？

「そうですね。まずはコンテンツとして漁業を中心としながら、公教育であるとか、あと、この事務所に使っているような古民家がいくつか残っていますので、そうした古民家を再生していくのかも考えています。使える施設を活用しながら少しずつ町の再興をしていくということです。それとこの雄勝町の中だけで活動ではなく、外においても情報発信していく企画を進めています。」

「今、築地市場の中にOHガッツとして出店する企画を進めています。漁師が直接経営するお店ということでかなりめずらしい出店になると思います。実は今日、立花が直接対応出来なかったのはその打ち合わせが急遽入ってしまったからなのです。今、石巻市長と代表の伊藤、立花が東京に行っておりまして、築地への出店の打ち合わせをしています。ほぼ確定しつつある状態です。築地市場のリニューアルに合わせて、そのシンボルとしての出店という企画です。先方の中央区としても震災復興への協力の目玉として考えていただいているようです。お店は、スペインのバルという庶民向けのバーのようなタイプを考えています。軽く寄ってちょっと呑んで魚をツマミに食べるようなお店です。物流も今はすごく良くなっているので、今日採れた海産物を明日にはお店で出す、というような考えです。そして週末などには漁師が直接店にたつて、お客さんと接するというのも考えています。そういうことをすることで、漁師が直接消費者と接するというのをやります。これまで漁師が消費者と直接接するということはまったく無かったので、どういう食べ方が消費者に支持されるのか、などを直に知ることで、新たな食べ方の提案などにも繋がっていきたいと考えています。漁師たちに新たな価値観を持ってもらおうというプロジェクトです。」



■震災前、OHガッツのプロジェクトを行う前は、どのようなブランドだったのでしょうか？  
「ホヤだけでした。養殖はほとんどホヤだけです。ブランドというようなものもなく、南三陸町の漁協から出荷、という状態で雄勝町の名前ではまったく知られていませんでした。」



■OHガッツのプロジェクトによって以前以上に雄勝を盛り上げていくような勢いを感じます。うまく進んでいけば、雄勝ブランドが全国に認識されて大きく発展していくような雰囲気を感じますね。

「そもそも我々がなぜOHガッツという会社を立ち上げたのか、立花がなぜOHガッツに参画することになったのか、本人が作った動画プレゼンがありますので、ぜひ観てください。」

(ここでパソコンにて立ち上げた動画プレゼンを皆で観る。)

動画は映像と音楽とテキストのみで構成されており、震災直後にボランティアで入った立花氏が様々なイベントで避難所の方がたと接し、そのイベントに数多くの芸能人や著名人を巻き込んでいったこと、そしてそうした中、壊滅的な被害を受けた雄勝町とそこで孤軍奮闘して漁業の再興を目指す伊藤氏との出会いが描かれていた。そして伊藤氏と立花氏がジョイントし、合同会社OHガッツの設立へと繋がっていった。

立花氏は当初、避難所の方々へのボランティアなどを通じて被災地の方々と交流が始まり、避難生活が長くなり勉強が不足気味となった中学生向けに遅れた勉強をサポートするイベントを茂木健一郎さんなどと実施するなどして、公教育のサポートプロジェクトを行い、その後も被災地のリクエストに応じた活動を続ける中で、雄勝町との交流が深まって

いった。

海外のメディアからも取り上げられた。実は雄勝町は伝統的に町民全員が太鼓をたたくのですが、雄勝の中学生が太鼓が無いので古タイヤにカバーをかけて太鼓に見立てて太鼓をたたく練習を始めたのをきっかけに、多くのメディアに取り上げられて、東京駅のリニューアルイベントにも中学生たちの太鼓イベントが行われたこと、そのことがドイツのテレビで放送されたことがきっかけで、ドイツ政府に招待されて今度3月に雄勝町の中学生がドイツに行って太鼓イベントを行うことも決定している。

OH ガッツのメンバーは、今度、ジャフメイトという雑誌の表紙にも掲載される。昔から雄勝町は習字の硯で有名で、一時期は全国の8割ぐらい生産していたこともあったが、中国産に押されて随分まえから衰退していた。雄勝町は星空がとてもきれいで、星降る町で有名であり、満天の星の美しい映像もあった。

■雄勝湾の恵みで雄勝には漁業などの産業がもたらされる半面、この湾によって津波が増幅されて被害を受けるということにもなっているんですよね。

「大きい津波があった翌年は豊漁になるという言い伝えがあるんです。栄養のあるプランクトンが増えるということなのかもしれません。」

■震災後しばらく漁をしていなかったの、魚が増えて、今、相当豊漁だと聞きますが？

「近海の漁はかなり豊漁だそうですが、今、冷凍業者が足りなくて、十分な対応が出来ていないのです。そのため、漁をセーブしている状態です。それと国内流通も十分に行えて無く、国内の魚介類消費低迷の影響もあって、国内に回せない分は全て輸出に回っています。」

■高速道路がすぐそばまで来ていて、交通の便はいいという印象ですが？ 雄勝町のそばの高速インターチェンジから30分程度ですし、そのインターチェンジ傍に道の駅があって、食品の即売コーナーもありますね。

「交通の便はいいので物流面での障害はないです。道の駅への販売ルートもあります。」

「道の駅に限らず、販売する魚介類として加工品も考えています。ワカメの加工品もありますが、今検討しているものとして、ホヤを使ったスイーツを作ることを考えています。いずれは雄勝町の中に加工工場を設置したいのですが、現状雄勝町の中には70代を超える女性などが中心であり、クルマなどで通勤することも難しいなど、なかなか人の問題があって難しい。当初は、外部に設置予定です。」

■現状、雄勝町の公共交通はどうなっているのでしょうか？

「全く無い状態です。バスも今は走っていません。唯一、漁協のクルマで高齢者を温泉に連れて行ったりということをしているぐらいです。他はクルマを持つ人のみが移動できる

状態です。」

■現状では、若い人に雄勝町に戻ってもらうというのは相当難しいのでしょうか？

「すぐには困難ですね。住む場所、公共交通など多くの問題があります。時間をかけて少しずつ解決していくしかありません。ただ、今、OH ガッツの活動で最も不足しているのがマンパワーなんです。人が足りないのですが、これはもう少しずつ解決していくしかありません。」

■今、OH ガッツの活動の中で人以外で不足しているモノはどんなものでしょうか？

「何もかもが不足しています。こないだ話が出たのは、放射能測定機です。外部に依頼して測定していただき、何も出ないという証明はもらっているのですが、今後、継続して出荷していくには自身で測定機を持つ必要があると思っています。今、国内では風評被害などで魚介類の食事が減っているようなので、そういう風評を払しょくしていく必要を感じています。」

■以前、テレビでのインタビューで立花さんがシンガポールなどの海外への展開も検討されているとのことでしたが？

「検討しています。海外へのお荷も行えるようにしていきたいと考えていますが、未だ、検討段階です。先ほど、築地市場へのお店の話をしましたが、なぜ築地かといいますと、築地は日本における魚介類市場の中心的存在であって、海外でも知名度は高い。その築地に雄勝町ブランドの魚介類販売の拠点を持つことで、日本全体、さらには世界へとブランド発信ができるだろうと考えています。築地でネームバリューを得られればかなり大きな価値になるだろうと思います。築地出店も含め、小さな事例を積み重ねて雄勝ブランドを盛り上げていきたいと思っています。」

■今まで日本の漁業って、海外への輸出ってあまり考えてこなかったのではないのでしょうか？

「雄勝では、震災の数年前に、韓国へホヤの輸出ルートを開拓していました。輸出業者にまとめてボンみたいな。震災の2、3年前です。それ、代表の伊藤がやったことなんです。そしたら日本より高く売れることがわかって、ホヤを韓国へ売るのがいいって噂が広がって 雄勝の漁師の間でホヤを作る人ばかりになったんです。雄勝湾中にホヤの養殖棚が広がっちゃって。そしたら伝染病が流行って、みんな全滅です。震災直前のことです。ひとつの種類に限定してしまうと危険なんです。考えてやらないとそういうことになっちゃう。」

■代表の伊藤さんのバイタリティーってすごいと思いますが、やはり伊藤さんが OH ガッツ

の中心的存在なののでしょうか？

「そうですね。彼は以前から地元で PTA 会長やったりいろいろとリーダー的存在で。ほんとにいつも元気で、ホヤ食ってるから元気なんだって言ってます。」



■今日、我々はなんでも手伝うつもりで来ているのですが、何か作業お手伝いすること御座いますでしょうか？

（急遽、東京で打ち合わせすることになり、会うことのできなくなった、伊藤氏、立花氏が不在であったため、その作業のお手伝いの件に関しては残っているメンバーでは対応が出来なくなっており、残念ながらボランティア作業は中止となった。）

「今日、これから打ち合わせが入っており、中学生たちのドイツでの太鼓イベントの件なんですが、わたしもドイツに行くことになってまして。」

「あと、3月10日、11日に震災一周年のイベントを企画しているのですが、その打ち合わせとかもあります。そのイベントには出来るだけ多くの方々に来ていただけると助かります。子供たちにもたくさんきていただく予定で、東京からはバスを出す予定です。キッザニアの社長にも協力いただいてまして、子供たちが職業体験をかねて来る予定です。かなり面白い企画になりそうです。」

「3月21日には名古屋に来ている留学生を集めてのイベントも企画しています。かなり多くの国々の方々に知ってもらえるイベントです。何百人もの方々が来る際には、近くの旅館などを手配して対応しています。」

■多くの方々にイベントを通じて雄勝町に直接触れてもらうようにしているのは（参加型マーケティングとしての）大きな意図を持ってやってらっしゃるんですね？

「もちろんそうです。実際の住人をすぐに増やすことが困難なので、我々、“交流人口”を増やそうということを考えています。将来的にはこの交流人口を二万人ぐらいにしたいと思っています。そうやって雄勝に触れる方々を増やして雄勝ブランドを広めていくということです。」



「また、今後は価値に対する考え方も大きく進化していくだろうと考えています。本物の価値が生き残っていき、そうではないモノはすたれていく。実際に自分の手で触れ、おいしいと感じ、本物だと思っていただいた方々にそうした価値が認識されていけば、必ず生き残っていきけるブランドに育つと考えています。そういう本物の価値だと個々の人々に認識してもらうにはいろんな人々に直接見て味わっていただき、丹精込めて育てている過程を見ていただくということを、実直に続けていくことだと考えています。そうしていくことがブランドに繋がっていくことだと思っています。」

「この雄勝町はたまたまこういう震災でこういうことになってしまいましたが、もし震災がなかったとしても数十年しないうちに人口も 1000 人を切るような過疎が進んでいだろうと思います。震災をきっかけにいずれ来たであろう問題に今直面しているわけですが、こうした問題は日本全国にこれからもっと増えていくだろうと思います。」

「OH ガッツの活動などを通じて雄勝町が以前と同じ状態に戻るのではない、新たな発展を遂げるような循環型社会の成功を得られれば、他の自治体に対するロールモデルとなれるのではないかと考えています。自分たちの漁業の利益だけではなくて、町創りをやるんだという、そういう風に思っています。必要な施設は作っていきますし、多くの人に来ていただいて体験をして雄勝を知っていただき、そして人がたくさんくれば食事をするお店も必要ですから、古民家などを使って地元のおばちゃん達で地元料理のレストランを開いたり、というようなことを今、同時並行的に進めています。」

■昨年、東北新幹線にはやぶさが出来て、平泉の世界遺産も決まり、多くの人々が東北に来るようになりました、震災も逆に捉えれば多くの方々に復興というかたちでのアピールが出来るので、注目していただく上での環境は整ってきていますね。

「雄勝町の地元の方々からも、震災でほんとに家や漁船やあらゆるものを失ったけど、こうして外から若者が来てくれたり（浜吉氏など）ということもあるので、震災も悪いことばかりじゃないなとか言ってもらえたりして。東京も直下型地震があるかもしれないと言われる中で東京にばかり縛られていても、どうかと思いますし、こうして縁あってここ

に来て第2の故郷を得られるというのもいいことだなと思っています。」

■交通の便でいうと道路はだいぶ回復しているのでしょうか？海岸線の道路は復旧していますか？

「はい。もうほとんど海岸線の道路も復旧していて通ることはできます。ただ、高速道路の入口に近いので内陸側の道路が便利です。海岸線をクルマで走るとよくわかるんですけど、被害の程度が湾の形によって全然違うんですよね。被害があまり無いところもあったりして。大きな建物の上にバスが乗ってしまっているところは湾が奥まわっていて被害の大きかったところですよ。」



「それと、いたるところにガレキの山があるんですけど、これ、雄勝町のガレキだけじゃないんです。南三陸とかほかの地域のガレキが大量に運び込まれていまして。本当はそういうガレキを大量に運び込まれると迷惑ですし、将来の復興においても問題になってしまうのですが、住民が1000人程度とほとんどいなくなってしまうと、反対する人があまりいない、住人がいないんだからいいだろう、ってそういう流れでどんどんガレキが持ちこまれているんです。」



以上